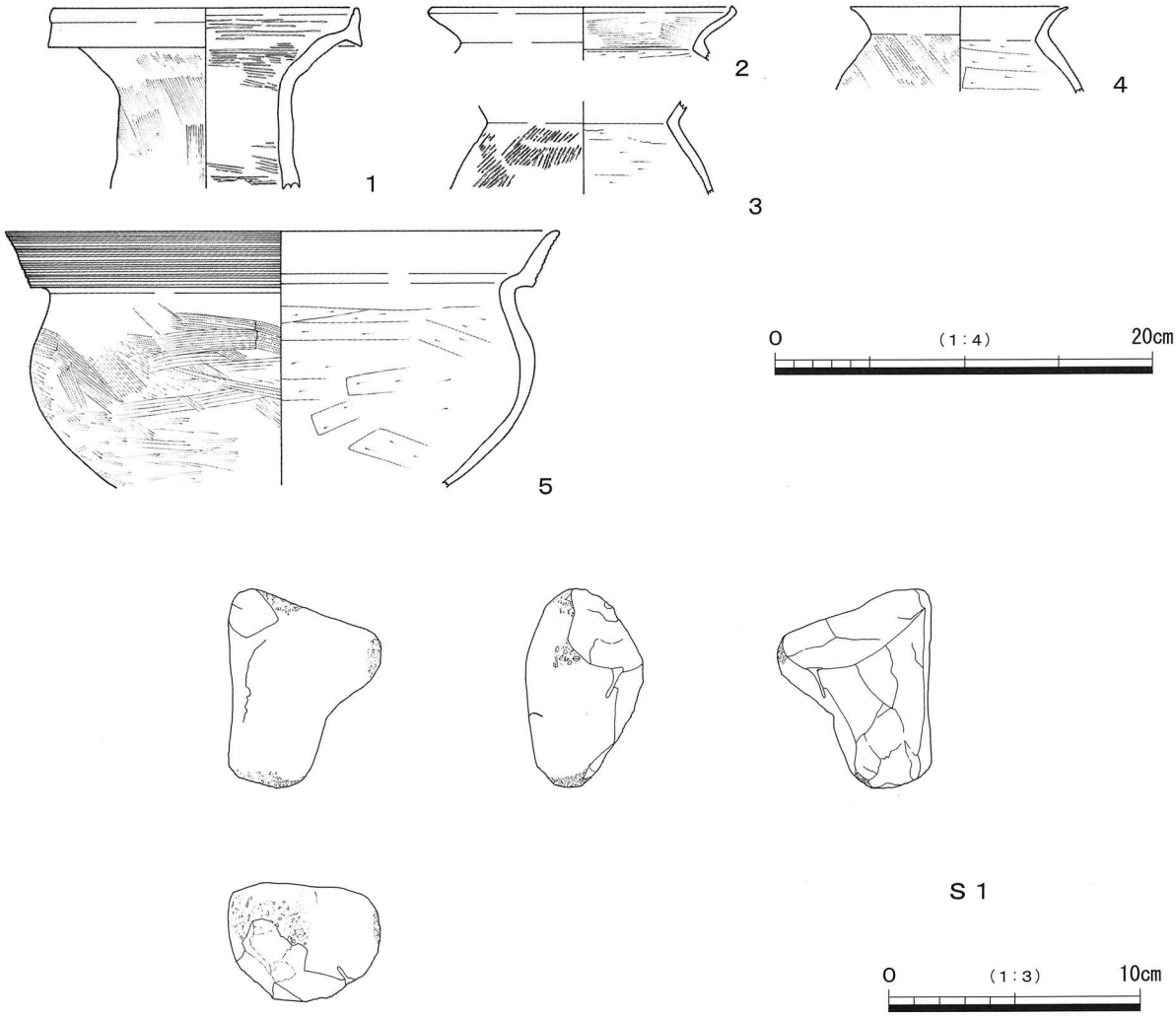


第８図　１区　ＳＩ101 出土遺物実測図

遺構内からは古式土師器の破片・石製品・種実が出土した。このうち、図化したものは１～５・Ｓ１である。

１は壺で、口縁端部は上下に拡張し面を形成する。２～４は庄内式甕で、２・３は生駒山地西麓産である。２はＫ－４から、４はＫ－１から出土した。５は大型の鉢で、口縁部外面に凹線を、体部の内面はヘラケズリを施す。この鉢は、加賀地域で出土する甕【出土の類例には漆町遺跡Ⅱ図版107の38(田嶋1988)、戸水ホコダ遺跡第99図の233(出越1999)などがある。】に施す調整や、頸部から口縁部にかけての形状が似ていることから加賀地域で作り搬入された可能性が高いと考えられる。Ｓ１は石製品で、敲打痕跡が数箇所あり、焦げ跡もある。また、桃と思われる種が１点(Ｗ１)出土した。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

参考文献

・田嶋明人　1988『漆町遺跡Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター
・出越茂和　1999『戸水遺跡群Ⅰ　戸水ホコダ遺跡』金沢市埋蔵文化財センター

ＳＫ101

Ⅰ—25－４・５Ｃ地区で検出した。平面形状は半円形を呈し、東西2.0m、南北1.2m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒砂混粘土で、古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは６である。

６は山陰系の器台で、凸帯を１条施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ102

Ⅰ—25－４・５Ｂ・Ｃ地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西5.8m、南北3.4m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.3mを測る。埋土は上からａ層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土（炭を少量含む）、ｂ層10BG3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、ｃ層5B3/1暗青灰色粘土である。ａ層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは７～11である。

７・８は直口壺である。９・10は甕で、９は右上がりのタタキを施し、内面に施すヘラケズリは屈曲部に及ぶ庄内式甕である。10の体部内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいない。11は椀形高杯で、外面は黒く、表面は光沢がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ103

Ⅰ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西3.3m以上、南北2.2mを測る、断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上からａ層5B2/1青黒色粗粒シルト混粘土(炭を少量含む)、ｂ層10BG3/1暗青灰色粘土である。ａ層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは12～15である。

12・13は短い脚が付く低脚の高杯である。14・15は器台である。14は貫通する器台である。庄内式期の古相に比定できる。15は突帯を１条施し、山陰系の可能性がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

ＳＫ104

Ⅰ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径2.0mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はａ層5B2/1青黒色細粒シルト混粘土、ｂ層5B5/1青灰色粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは16～19である。

16～18は甕である。16・17は庄内式甕で、16は生駒西麓産である。18は山陰系の可能性がある。19は鉢で、口縁外面には凹線を施す。口縁端部が欠損しており不明ではあるが、残存している輪郭から有段口縁になると思われる。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

ＳＫ105

Ⅰ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径0.5mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土したが、図化できたものはなかった。

ＳＫ106

Ⅰ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は南西—北東に長い楕円形を呈し、長径1.6m、短径1.1

mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.05mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは20である。

20は鉢か椀形高杯と思われる。内面には丁寧に放射状のミガキを施している。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

ＳＫ107

Ｉ—25－４Ｂ地区で検出した。この遺構はＳＩ101を切る。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、長径1.0m、短径0.6mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.08mを測る。埋土は5B2/1青黒色粗粒シルト混粘土(炭を含む)である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは21である。

21は庄内式甕で、器面表部の色は白っぽく、硬い。高温で焼きしめた結果と思われる。生駒西麓産である。

ＳＫ108

Ｉ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は東西方向に長い楕円形を呈し、長径0.8m、短径0.6mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.07mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは22である。

22は庄内式甕で、生駒西麓産である。

ＳＫ109

Ｉ—25－３・４Ｂ・Ｃ地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西2.2m、南北2.4m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土（炭を少量含む）である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは23～27である。

23は壺、24は甕、25･26は鉢、27は器台である。23は讃岐か阿波系の可能性がある。25は直口の口縁で、内面はヘラケズリを施す。26は焼成後に施された貫通しない孔が口縁部外面に１箇所ある。生駒西麓産である。

ＳＫ110

Ｉ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径0.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.05mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは28である。

28は布留式甕。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定される。

ＳＫ111

Ｉ—25－４Ｂ地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、長径0.6m、短径0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.13mを測る。埋土はａ層5B6/1青灰色粗粒シルト混粘土、ｂ層5B2/1青黒色細粒砂混粘土(炭を多量含む)、ｃ層5BG5/1青灰色粘土である。ｃ層からは古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは29である。

29は高杯で、筒状の脚部である。

ＳＫ112

Ｉ—25－３・４Ｂ地区で検出した。北側はＳＫ114に切られる。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、東西1.0m、南北1.8mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はａ層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭化した自然木を多く含む)、ｂ層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土であ

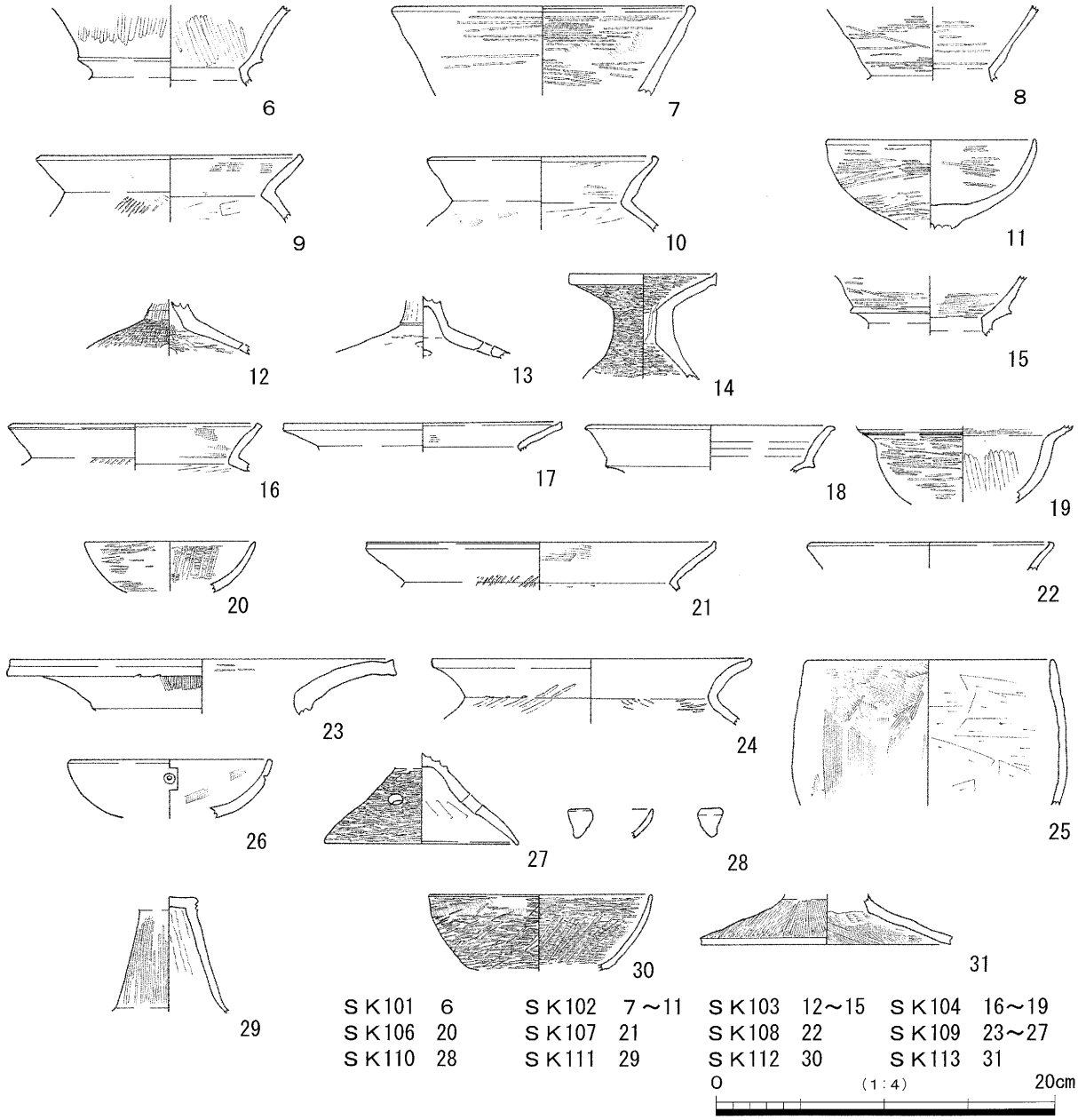
る。ａ層からは古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは30である。

30は椀形の高杯で、内外面は丁寧にヘラミガキを施し、内面は黒漆と思われる黒色物質を塗布。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定される。

ＳＫ113

Ｉ－25－４Ｂ地区で検出した。ＳＩ101、ＳＫ114を切る。平面形状は南北方向に長い不定形を呈し、長径1.1m、短径0.8m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.12mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を含む)である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは31である。

31は高杯で、裾部の外面には縦方向のヘラミガキを丁寧に施している。



第９図　１区　ＳＫ101～104・ＳＫ106～113出土遺物実測図

表２　出土遺物観察表（２）

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
6 8	ＳＫ 101	古式土師器 器台		受部は外反する。受部の外面下位に突帯を１条施す。受部の内面は左上がりのヘラミガキ、外面は右上がりのヘラミガキを施す。頸部の内外面はユビナデを施す。	内 外 面 7.5YR7/8 黄橙色	１～３㎜の 砂粒含む。	良好	山陰系
7	ＳＫ 102	古式土師器 壺	口径17.4	口縁部は直線的に外上方へひらく。端部は内側へ肥厚し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのヘラミガキ、外面はヘラミガキを施す。	内 外 面 7.5YR7/6 橙色	１～３㎜の 砂粒含む。	良好	
8	ＳＫ 102	古式土師器 壺		口縁部は直線的に外上方へひらく。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。	内 外 面 7.5YR7/4 にぶい橙色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	
9	ＳＫ 102	古式土師器 甕	口径15.2	口縁部は屈曲し外反する。端部はつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタタキのち左上がりのハケナデを施す。	内 面 7.5YR4/1 褐灰色 外 面 7.5YR7/1 明褐灰色	１～５㎜の 砂粒含む。 (角閃石を多く含む生駒西麓産)	良　好 （硬く焼き締まる。）	
10	ＳＫ 102	古式土師器 甕	口径13.0	口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでいない。外面は左上がりのハケナデを施す。	内 面 7.5YR5/3 にぶい褐色 外 面 7.5YR4/2 灰褐色	１～３㎜の 砂粒含む。	良好	
11	ＳＫ 102	古式土師器 椀形高杯	口径12.2	口縁部は平らな杯底部から内湾する。端部は尖りぎみに丸く終わる。杯部の内面はヘラミガキ、外面の下位はヘラケズリのちヘラミガキ、上位はヘラミガキを施す。外面の下位は部分的に黒く、表面は光沢がある。黒色物質（黒漆？）を塗布していると思われる。	内 面 7.5YR7/4 にぶい橙色 外 面 7.5YR6/3 にぶい褐色	１～５㎜の 砂粒含む。	良好	
12	ＳＫ 103	古式土師器 高杯		脚部は短く立ち上がる。裾部は内湾ぎみに外下方へひらく。脚部の内面はユビナデのちヘラミガキを施し、シボリ目がある。外面は縦方向のへらミガキのちユビナデを施す。裾部の内面はヘラミガキを施す。ヘラ状工具による直線的な押さえが数箇所ある。外面は縦方向のヘラミガキのち横方向のヘラミガキを施す。裾部のスカシ孔は４個あり、焼成前にあけている。脚部と裾部の境に爪で押した痕跡がある。	内 面 7.5YR8/2 灰白色 外 面 5YR7/4 にぶい橙色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	
13	ＳＫ 103	古式土師器 高杯		脚部は短く立ち上がる。裾部は内湾ぎみに外下方へひらく。脚部の内面はユビナデ、外面は縦方向のヘラミガキのちユビナデを施す。裾部の内面はユビナデ、外面はヘラミガキのちユビナデを施す。裾部のスカシ孔は４個あり、焼成前にあけている。	内 面 7.5YR6/1 褐灰色 外 面 7.5YR7/2 明褐灰色	１㎜の砂粒 含む。	良好	
14 8	ＳＫ 103	古式土師器 器台	口径8.55	貫通する器台で、口縁端部は上下に拡張し面を形成する。裾部の内外面はヘラミガキを施す。脚部の内面はユビナデを施し、粘土接合痕が上位にある。また、内面は部分的に縦方向に割れている。受部の内外面はヘラミガキを施す。端面はユビナデを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	１～４㎜の 砂粒含む。	良好	
15 8	ＳＫ 103	古式土師器 器台？		口縁部は外上方へ外反する。外面に突帯を１条施す。突帯はユビナデ、口縁部の内面はハケナデのちヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内 面 7.5YR6/1 褐灰色 外 面 7.5YR6/8 橙色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	山陰系
16	ＳＫ 104	古式土師器	口径14.3	口縁部は屈曲し外反する。端部は上下方へつまみ出し、面を形成する。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタタキのちユビナデを施す。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はユビナデを施す。	内面10YR5/1褐灰色 外面10YR2/1黒色	１～２㎜の 砂粒含む。 (角閃石を多く含む生駒西麓産)	良　好 （硬く焼き締まる。）	
17	ＳＫ 104	古式土師器 甕	口径16.5	口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はユビナデを施す。	内面10YR4/1褐灰色 外面10YR6/6明黄褐色	１㎜の砂粒 含む。	良好	
18 8	ＳＫ 104	古式土師器 二重口縁 甕？	口径14.0	口縁部は外反し段をもち、さらに外反する。端部は外へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外面には煤が付着している。	内面2.5Y灰白色 外面10YR6/1褐灰色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	山陰系
19	ＳＫ 104	古式土師器 鉢？		体部は内湾する。口縁部は外反する。口縁部の内面はヘラミガキ、外面は横方向の凹線文を施す。体部の内面は縦方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/4にぶい黄橙色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	
20	ＳＫ 106	古式土師器 鉢？椀形高 杯？	口径10.0	口縁部は内湾する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキの後、放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/4にぶい黄橙色	１～２㎜の 砂粒含む。	良好	

表３　出土遺物観察表(３)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
21	ＳＫ 107	古式土師器 甕	口径20.6	口縁部は外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面の下位はタタキのちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタタキを施す。	内外面10YR7/1灰白色	１～２㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良　好(硬く焼き締まる。)	
22	ＳＫ 108	古式土師器 甕	口径14.0	口縁部は外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内外面10YR5/1褐灰色	１～２㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良　好(硬く焼き締まる。)	
23 8	ＳＫ 109	古式土師器 壺	口径22.5	口縁部は外反する。端部は上下につまみ出し面を形成する。端面には凹線を１条施し、下端はキザミ目を施す。口縁部の内面は横方向のヘラミガキ、外面は縦方向のヘラミガキを施す。	内面5YR6/8橙色 外面7.5YR6/4にぶい橙色	１～５㎜の砂粒含む。	良好	讃岐か阿波系？
24	ＳＫ 109	古式土師器 甕	口径18.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデを施し、屈曲部にはヘラ状工具による痕跡がある。外面は太筋のタタキ(3本/1㎝)を右上がりに施す。	内面10YR7/6明黄褐色 外面10YR6/2灰黄褐色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
25 8	ＳＫ 109	古式土師器 鉢	口径14.5 体部最大径16.2	口縁部は直線的に上方へ伸びる。口縁部の外面には粘土接合の痕跡がある。体部の内面は横方向のヘラケズリを施す。ヘラケズリの方向は右から左と思われる。体部の外面中位は縦方向のハケナデ、上位は左上がりのハケナデ後、ハケナデとヘラミガキを部分的に右上がりに施す。	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面10YR6/2灰黄褐色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
26 8	ＳＫ 109	古式土師器 鉢	口径11.8	口縁部は内湾する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の外面には焼成後、貫通しない孔がある。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はユビナデを施す。	内面10YR6/1褐灰色 外面10YR6/3にぶい黄橙色	１～３㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良　好(硬く焼き締まる。)	
27	ＳＫ 109	古式土師器 器台	裾部径 11.4	裾部は「ハ」の字に直線的に外へひらく。裾部の中位にはスカシ孔が３方向にあけられている。裾部の内面はユビナデを施し、ヘラ状工具によるナデによる痕跡がある。外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
28	ＳＫ 110	古式土師器 甕		口縁部は内湾する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内外面2.5Y7/2灰黄色	１㎜の砂粒含む。	良好	
29	ＳＫ 111	古式土師器 高杯		裾部は直線的にひろがる脚部から屈曲し外側へ伸びる。杯部の上面はユビナデを施す。脚部の内面はユビナデで、全体的にしぼり目が確認できる。上端には粘土接合の痕跡がある。外面は縦方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/1明褐灰色 外面7.5YR7/8黄橙色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
30 8	ＳＫ 112	古式土師器 高杯	口径13.1	口縁部は内湾する。杯底部の外面には、段がある。口縁部および杯部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状ヘラミガキを施す。外面は左上がりのハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。黒い物質(黒漆か？)を内面に塗っている。	内面5YR7/4にぶい橙色 外面5YR6/8橙色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
31	ＳＫ 113	古式土師器 高杯	裾部径 14.8	裾部は「ハ」の字にひらく。端部は面を形成する。裾部の内面は斜方向のハケナデ、外面は縦方向のハケナデのちヘラミガキを施す。	内外面10YR6/6橙色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	

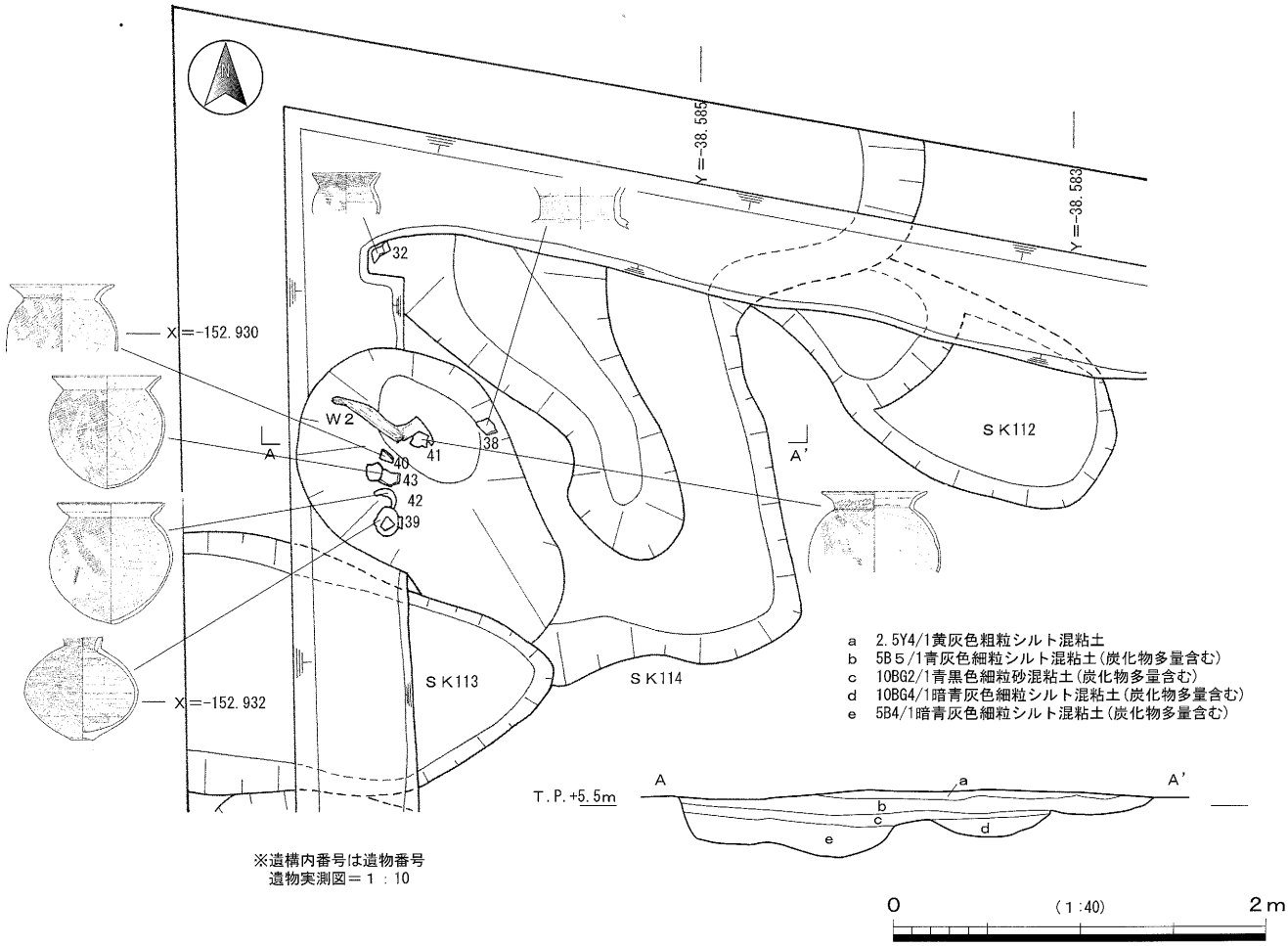
ＳＫ114

Ｉ―25－３・４Ｂ地区で検出した。この遺構はＳＫ112を切り、ＳＫ113に切られる。平面形状は東西に長い不定形を呈し、東西4.0m以上、短径3.3m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.2mを測る。上からａ層2.5Y4/1黄灰色粗粒シルト混粘土、ｂ層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土(炭を多量に含む)、ｃ層10BG2/1青黒色細粒砂混粘土(炭を多量に含む)。ｂ層からは古式土師器が出土した。また、遺構底面の中央部分には南東―北西方向に長い楕円形の窪みが２箇所ある。北側の窪みは長径2.2m、短径0.6m、底面からの深さ0.15mを測る。埋土は10BG4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(炭を含む)で、古式土師器が出土した。南側の窪みは長径1.8m、短径1.1m、底面からの深さ0.2mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を含む)で、古式土師器が出土した。このうち図化したものは32～48・Ｗ２である。

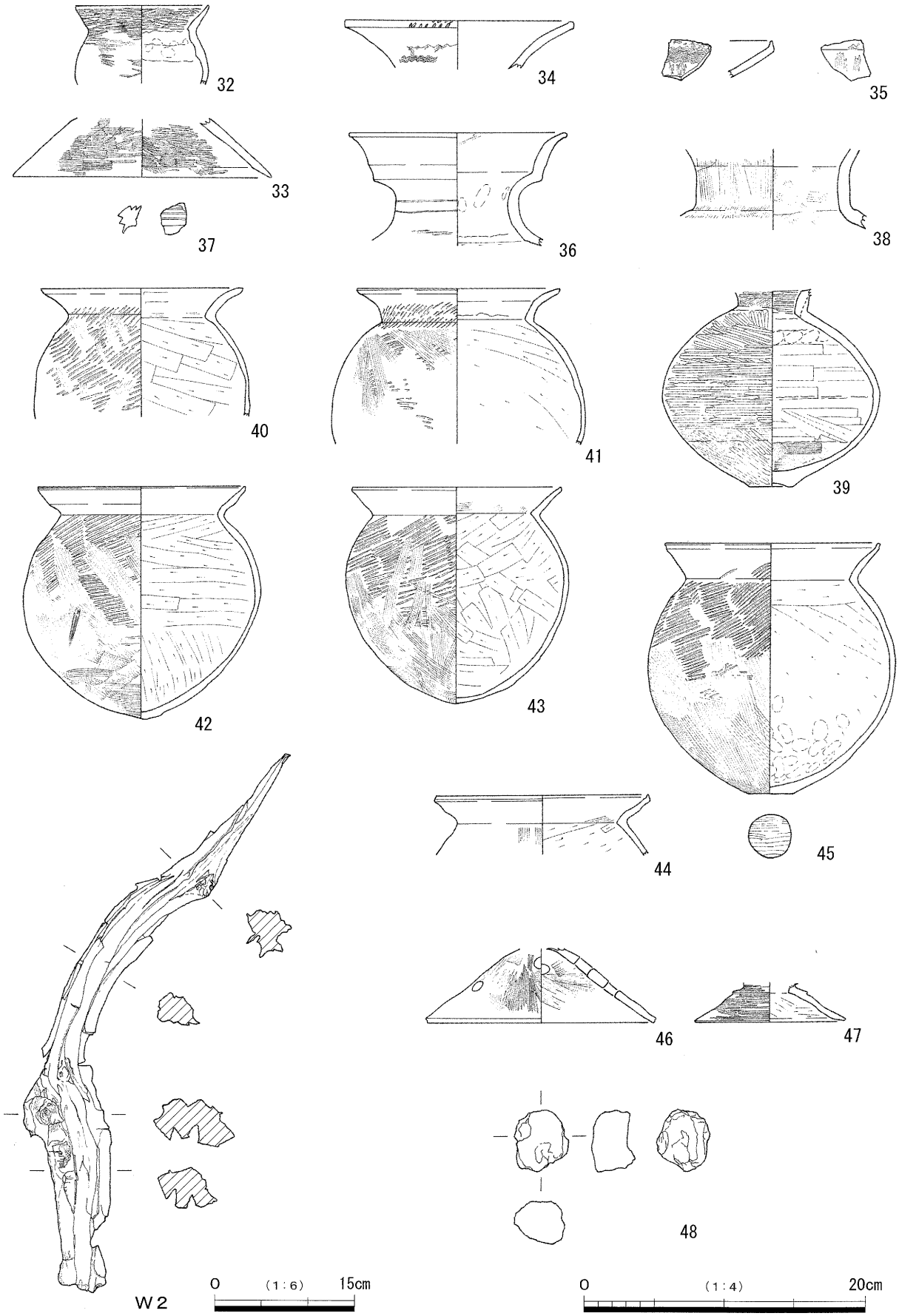
32は小型壺である。内面は、表面を丁寧にナデ調整していないため粘土接合痕が顕著に残る。

34～39は壺である。34は外面に波状文を施す。35は口縁端部と内面に波状文を施す。36は複合口縁で、頸部に沈線を２条施す。山陰系の可能性がある。37は外面に凹線を３条+αを施す。

40～45は甕である。40･41は体部最大径が中位にあり、外面のタタキは太く、口縁部まで達している。42･43の端部は上方へつまみ出し面を形成する。体部最大径は上位にあり、口径を上回る。タタキのち施されるハケナデは上位まで達しているが全面には施していない。内面は全体をヘラケズリしている。45は体部最大径が中位にあり、球形の体部である。底部は平らで、外面にハケナデを施す。体部内面下位はヘラケズリを行ったのちナデを施し、指圧痕が顕著に残っている。40･41･45は生駒山地西麓産の胎土である。40～45の体部内面のヘラケズリは屈曲部までおよぶ。46は高杯で、裾部には２段にスカシ孔を施す。33・47は山陰系の器台である。47は、裾部の上位に１条の突帯を施す。48は粘土の塊である。Ｗ２は自然木で、伐採したのち、細かい枝は切りおとしている。加工痕はなく、用途は不明である。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。



第10図　１区　ＳＫ114平・断面図



第11図　１区　ＳＫ114 出土遺物実測図

表４　出土遺物観察表（４）

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
32	ＳＫ114	古式土師器小型壺	口径9.1 体部最大径9.2	口縁部は丸い体部から屈曲し直線的に外上方へ伸びる。端部はやや内湾し、尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面はユビナデを施し、粘土接合の痕跡が顕著に残る。外面ハケナデのちヘラミガキを施す。	内面10YR6/1褐灰色 外面10YR6/3にぶい黄橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
33 9	ＳＫ114	古式土師器器台	裾径18.0	口縁部は外上方へ直線的にひらく。端部の内面に面を形成する。口縁部の内端面ハケナデのちヘラミガキを施す。受部の内面は横方向のヘラミガキを施す。外面は横方向のヘラミガキを施した後、ヘラ状工具による痕跡が見られる。受部の内外面には部分的に黒斑がある。	内外面7.5YR7/2明褐灰色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	山陰系
34 9	ＳＫ114	古式土師器壺	口径15.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。口縁端部にキザミ目、外面に波状文を２条+α施す。内面には煤が付着している。	内面10YR5/2灰黄褐色 外面10YR7/1灰白色	２㎜の砂粒含む。	良好	
35 9	ＳＫ114	古式土師器壺		口縁部は直線的に外側へ伸びる。端部は上方につまみ出し面を形成する。内外面は縦方向のヘラミガキを、端部と内面には波状文を施す。	内外面2.5Y7/3灰黄色	３㎜の砂粒含む。	良好	
36 9	ＳＫ114	古式土師器複合口縁壺	口径15.0	口縁部は内上方に直線的に伸びた後、外上方へ曲がり段を有し外反する。端部は面をもつ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。頸部に沈線を２条施す。体部の内面はヘラケズリ、外面はユビナデを施す。	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面10YR7/1灰白色	３㎜の砂粒含む。	良好	山陰系？
37 9	ＳＫ114	古式土師器複合口縁壺		口縁部は外反する。口縁部の外面に凹線を３条+α施す。内面はヨコナデを施す。	内外面2.5YR5/4にぶい赤褐色	１㎜の砂粒含む。	良好	
38	ＳＫ114	古式土師器壺		口縁部は屈曲し直線的に上方へ伸びたのち外反する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はハケナデを施す。体部お内外面はハケナデを施す。	内面2.5Y8/3淡黄色 外面10YR6/1褐灰色	３㎜の砂粒含む。	良好	
39 9	ＳＫ114	古式土師器壺	体部最大径15.1底部径3.1	底部は突出する上げ底である。体部は扁平な球形で、体部最大径は下位にある。頸部は短く直線的に外上方へ伸び、屈曲し外上方へ広がる口縁部が付くと思われる。頸部の内外面はヘラミガキを施す。体部の内面下位はハケナデ、中位はヘラ状工具によるナデ、上位はユビナデを施す。体部の外面下位は左上がりのヘラミガキ、中位は横方向のヘラミガキ、上位は左上がりのヘラミガキを施す。底部～体部の外面には黒斑がある。	内面10YR7/1灰白色 外面10YR7/4にぶい黄橙色	１～５㎜の砂粒含む。	良好	
40 9	ＳＫ114	古式土師器甕	口径14.0 体部最大径15.0	体部は縦長の球形になると思われる。口縁部は屈曲し外反する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はタタキ（4本/1cm）のちヨコナデを施す。体部の内面は左上がりのヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。外面の中位は右上がりのタタキのち左上がりと右上がりのハケナデ、上位は右がりのタタキのち左上がりのハケナデを施す。体部の外面には煤が付着している。	内面2.5Y5/4黄褐色 外面7.5YR6/2灰褐色	１～２㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
41 9	ＳＫ114	古式土師器甕	口径14.0 体部最大径17.7	体部は縦長の球形になると思われる。口縁部は屈曲し直線的に外上方へ伸びたのち外反する。端部は丸みのある面を形成する。口縁部の内面あヨコナデを施し、粘土接合の痕跡がある。外面はタタキ（4本/1cm）のちヨコナデを施す。体部の内面は左上がりのヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。体部の外面中位は横方向のタタキのち左上がりのハケナデ、上位は右がりのタタキのち左上がりのハケナデを施す。体部の外面には煤が付着している。	内面2.5Y5/4黄褐色 外面10YR5/2灰黄褐色	１～３㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
42 9	ＳＫ114	古式土師器甕	口径14.4 器高16.4 体部最大径16.6	底部は尖り底であるが若干平らな部分を残している。体部の下位は丸みがあるが直線的に外上方へひらく。体部最大径は上位にある。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面下位は左上がりのヘラケズリのちユビナデ、中位は横方向のヘラケズリ、上位は左上がりのヘラケズリを施す。体部外面の下位はハケナデ、中位は左上がりのタタキを施すが、ハケナデにより消されている。上位は右がりのタタキ（3.5本/1cm）のち左上がりのハケナデを施す。外面全体に煤が付着している。	内外面5Y7/2灰白色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	庄内式甕。他地域の胎土か？
43 9	ＳＫ114	古式土師器甕	口径14.5 器高15.25 体部最大径15.55	底部は尖り底である。体部下位は丸みがあるが直線的に外上方へひらく。体部最大径は上位にある。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面下位は左上がりのヘラケズリのちユビナデ、中位は左上がりのヘラケズリ、上位は右上がりのヘラケズリを施す。体部の外面下位～中位は左上がりのハケナデ、中位は横方向のタタキのち左上がりのハケナデ、上位は右がりのタタキ（3.5本/1cm）のち左上がりのハケナデを施す。外面全体に煤が付着している。	内外面10YR8/2灰白色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	庄内式甕。他地域の胎土か？

表５　出土遺物観察表（５）

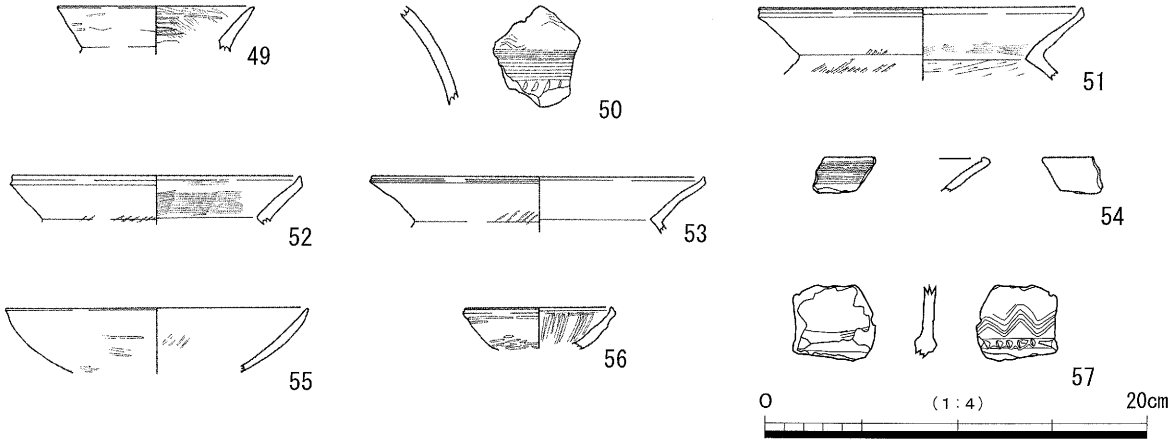
遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
44	ＳＫ 114	古式土師器 甕	口径14.7	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状のくぼみがある。口縁部の内面は右上がりのハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は縦方向のハケナデのちユビナデを施す。	内面5YR6/8橙色 外面5YR6/2灰褐色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	庄内式甕 他地域の胎土か？
45 9	ＳＫ 114	古式土師器 甕	口径14.8 器高17.8 体部最大径17.2底部径3.0	底部は突出しない平底である。体部は横長の球形で、体部最大径は中位にある。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面は左上がりのハケナデのちヨコナデ、外面はタタキのちヨコナデを施す。体部の内面下位は左上がりのヘラケズリのちユビナデ、中位は左上がりのヘラケズリ。上位は横方向のヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。体部の外面下位は左上がりのハケナデ。中位は横方向のタタキのち左上がりのハケナデ、上位は右上がりのタタキ（５本/１cm）を施す。底部の外面はハケナデを施す。外面の全体に煤が付着している。	内面10YR4/6褐色 外面10YR5/8黄褐色	１～４㎜の砂粒含む。（角閃石を多く含む生駒西麓産）	良　好（硬く焼き締まる。）	
46	ＳＫ 114	古式土師器 高杯	裾径15.8	裾部は「ハ」の字にひらく。端部は面を形成する。スカシは４方向？の孔を２段に施す。裾部の内面はハケナデ、外面はハケナデのち縦方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y8/1灰白色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
47 9	ＳＫ 114	古式土師器 小型器台	裾径10.4	裾部は「ハ」の字にひらく。端部の内面は面を形成する。屈曲部に凸帯を１条施す。裾部の内面は横方向のヘラケズリ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面10YR5/1褐灰色 外面10YR6/1褐灰色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	山陰系
48	ＳＫ 114	粘土塊		不定形の粘土の塊である。焼いた痕跡はない。	内外面2.5Y6/1黄灰色	１～３㎜度の砂粒含む。	良好	土器を作る粘土か？
Ｗ２ 9	ＳＫ 114	用途不明木製品	長さ60.6 幅8.6 厚み4.5	伐採時の切り跡は確認できるが、加工の痕跡はない。	10YR2/1黒色			

ＳＤ101

Ⅰ―25―4C地区で検出した。南北方向にほぼ直線に伸びる。検出長7.0m、幅1.1～1.7mを測り、北側が広くなる。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はａ層5Y5/1灰色細砂、ｂ層5B3/1暗青灰色細砂混粗粒シルトである。ａ層から古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは49～57である。

49・50は壺で、49の内外面には粘土接合痕が顕著に見られる。50は大型壺の体部になると思われる。外面には上から波状文、直線文、刺突文を施す。51～54は甕である。51～53は生駒山地西麓産の庄内式甕である。54の端部は内側へ肥厚させ上部に面をもつ布留式甕である。55は浅い椀形の高杯で、表部磨耗のため調整不明瞭であるが、杯部の内面に縦方向のヘラミガキ、外面横方向のヘラミガキを施している部分が見られる。56は器台である。受部の内面には横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面には横方向のヘラミガキを施す。57は手焙形土器と思われる体部の破片である。外面には刻み目を施した突帯を１条貼り付ける。突帯の下には波状文を施している。

また桃と思われる種が６点（Ｗ３－１～６）出土した。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相～同時代前期の布留式古相に比定できる。



第12図　１区　ＳＤ101出土遺物実測図

表６　出土遺物観察表（６）

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
49	ＳＤ 101	古式土師器 小型壺	口径10.3	口縁部は内湾する。端部は外側へつまみ出し尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのちヘラミガキ、外面はハケナデのちヘラミガキを施す。口縁部の内外面には粘土接合の痕跡がある。	内面5YR6/6橙色外面5YR6/1灰色	１㎜の砂粒含む。	良好	
50 10	ＳＤ 101	古式土師器 壺		球形の体部になると思われる。体部の外面は波状文・直線文・刺突文を、内面はハケナデのちユビナデを施す。内面には黒斑がある。	内面N4/0灰色外面5Y7/2灰白色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
51	ＳＤ 101	古式土師器 甕	口径16.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成し、端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はタタキ（4本/１cm）のちヨコナデを施す。体部の内面は右上がりのヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。外面は右上がりのタタキ後ヨコナデを施す。	内外面5Y5/1灰色	１～４㎜の砂粒含む。（角閃石を多く含む生駒西麓産）	良好（硬く焼き締まる。）	
52	ＳＤ 101	古式土師器 甕	口径15.2	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面下位はタタキ（6本/１cm）のちヨコナデ。上位はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。	内外面10YR5/2灰黄褐色	３㎜の砂粒含む。含む。（角閃石を多く含む生駒西麓産）	良好（硬く焼き締まる。）	
53	ＳＤ 101	古式土師器 甕	口径17.4	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面はヨコナデ、外面下位はタタキ（5本/１cm）のちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。外面は右上がりのタタキを施す。外面には煤が付着している。	内面10YR5/2灰黄褐色　外面10YR3/1黒褐色	２㎜の砂粒含む。含む。（角閃石を多く含む生駒西麓産）	良好（硬く焼き締まる。）	
54	ＳＤ 101	古式土師器 甕		口縁部は外反する。端部は内側へ肥厚させ面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。外面には煤が付着している。	内面10YR7/1灰白色　外面N3/0暗灰色	１㎜の砂粒含む。	良好	
55	ＳＤ 101	古式土師器 高杯	口径15.9	口縁部は内湾し、端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。杯部の内面は縦方向、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面5Y7/2灰白色	３㎜の砂粒含む。	良好	
56	ＳＤ 101	古式土師器 器台	口径7.6	口縁部は内湾し、端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。受部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状ミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/3にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
57 10	ＳＤ 101	古式土師器 手焙形土器		体部の破片である。体部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はユビナデを施す。体部の外面に突帯を貼り付ける。突帯上にはキザミ目を施す。また、突帯より上部には波状文を施している。	内面2.5Y6/1黄灰色外面5Y8/2灰白色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
W 3-1 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ1.9　幅1.7　厚み0.7	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			図版10に実物大写真を掲載
W 3-2 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ2.0　幅1.3　厚み0.7	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			
W 3-3 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ2.2　幅1.5　厚み0.7	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			
W 3-4 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ2.2　幅1.5　厚み0.5	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			
W 3-5 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ2.7　幅2.1　厚み0.8	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			
W 3-6 10	ＳＤ 101	桃？種	長さ2.8　幅2.2　厚み0.8	半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色			

遺構に伴わない出土遺物

８層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは58～95である。

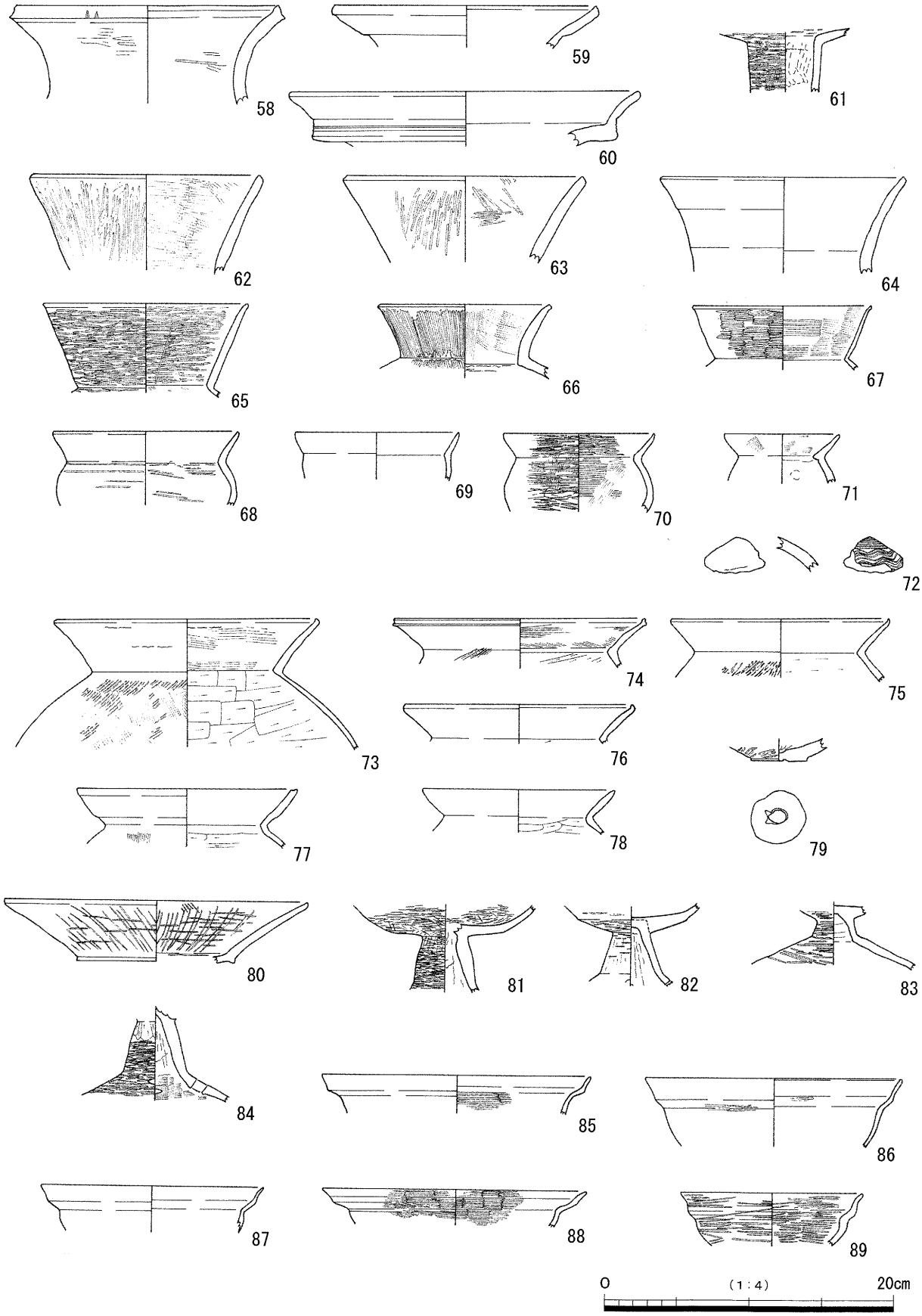
58～72・80は壺で、58は口縁端部にキザミ目を施している。60・80は複合口縁で、60は讃岐か阿波系である。62～65は直口壺、66・67は小型の直口壺である。68～71は小型丸底壺で、69は口径が体部最大径を上回る。72は体部上位の破片で、外面に直線文と波状文を施す。73～79は甕。73は大型の庄内式甕である。79は突出する底部で、外面に右上がりの太筋のタタキを施す第Ｖ様式系のものである。73～76は生駒西麓産の胎土である。81～84は高杯。81・82は有稜高杯で、脚部から裾部の外面に横方向のヘラミガキを施す。85～89は有段口縁鉢で、89はやや小形である。90～93は小形の器台で、皿状の受部を持つ。受部と脚部は貫通しない。94は鉢である。端部にキザミ目があり、体部下位には突帯を貼り付け、突帯上にはキザミ目を施している。形状から手焙形土器の可能性も考えられる。95は棒状の土製品である。８層から出土した遺物は古墳時代初頭の庄内式新相～同時代前期の布留式古相に比定できる。

９層からは弥生土器が出土した。このうち図化したものは96である。

96は壺で、受口状の口縁部で、弥生時代後期後半頃に比定できる。

表７　出土遺物観察表（７）

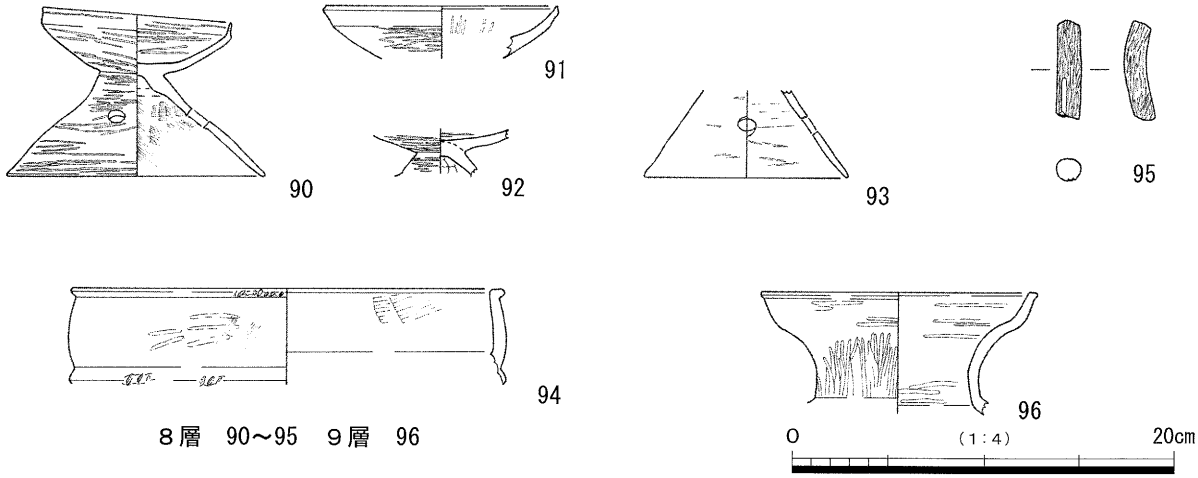
遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
58	８層	古式土師器 壺	口径18.1	口縁部は外反する。端部は上下方につまみ出し面を形成する。端面にはキザミ目を施す。口縁部の内外面はヘラミガキを施し、内面のほぼ全体と外面の一部に黒斑がある。	内面N2/0黒色 外面10YR8/1灰白色	１～５mの砂粒含む。	良好	
59	８層	古式土師器 壺	口径18.0	口縁部は外反する。端部は面を形成する。口縁部の内外面はヘラミガキと思われるが、表部が磨耗しており不明瞭である。外面には粘土接合の痕跡がある。	内面10YR7/1灰白色 外面5Y7/6橙色	１～２mmの砂粒含む。	良好	
60 10	８層	古式土師器 複合口縁壺	口径24.0	口縁部は段をもち、外反する。口縁部の外面下部には凹線を施す。内外面はヨコナを施し、外面には粘土接合の痕跡がある。	内外面2.5Y7/2灰黄色	１～２mmの砂粒含む。	良好	讃岐か阿波系
61	８層	古式土師器 複合口縁壺		頸部は筒状で、屈曲し水平方向にひらく口縁部が付く。頸部の内面は右上がりのユビナデを施し、粘土接合の痕跡がある。外面は縦方向のハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR6/6橙色 外面10YR6/2灰黄褐色	１mmの砂粒含む	良好	
62	８層	古式土師器 直口壺	口径15.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は左上がりのハナデ、外面は右上がりのハケナデのち縦方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/3にぶい橙色 外面7.5YR7/1明褐灰色	１～３mmの砂粒含む。	良好	
63	８層	古式土師器 直口壺	口径16.2	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は面を形成する。口縁部の内面はヘラミガキ、外面は縦方向と右上がりのヘラミガキを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	１mmの砂粒含む	良好	
64	８層	古式土師器 壺	口径16.6	口縁部は外反する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。内外面ともにつよいヨコナデによる稜線が入る。	内外面5Y7/2灰白色	１～２mmの砂粒含む。	良好	
65	８層	古式土師器 直口壺	口径14.0	口縁部は屈曲し外上方へ直線的に伸びる。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。体部の内面はハケナデのちユビナデ、外面は横方向のヘラミガキを施す。口縁部の内面は横方向のち縦方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	１mmの砂粒含む。	良好	
66	８層	古式土師器 壺	口径11.6	口縁部は屈曲し外上方へ外反する。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。体部の内面はユビナデ。外面はヘラミガキを施す。口縁部の内面は横方向のち縦方向のハケナデ、外面は縦方向のヘラミガキを施す。内外面には粘土接合の痕跡がある。	内外面7.5YR7/4にぶい橙色	１～５mmの砂粒含む。	良好	
67	８層	古式土師器 壺	口径12.3	口縁部は屈曲し直線的に外上方へ伸びる。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はヘラミガキを施す。体部の内外面はユビナデを施す。外面のほぼ全体に煤が付着している。	内面2.5Y7/1灰白 外面N4/0灰色	1～2mm程度の砂粒含む。	良好	
68	８層	古式土師器 壺	口径12.8 体部最大径12.6	口縁部は丸い体部から屈曲し外反する。体部の内外面はヘラミガキを施す。外面のヘラミガキは、表部磨耗のため不明瞭である。口縁部の内外面はユビナデを施す。屈曲部の内面には粘土接合の痕跡がある。	内面10YR7/1灰白色 外面10YR4/1褐灰色	１～２mmの砂粒含む。	良好	



第13図　１区　８層出土遺物実測図

表８　出土遺物観察表（８）

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
69	８層	古式土師器 小型壺	口径11.2	口縁部は屈曲し内湾する。体部の内外面および口縁部の内外面はヘラミガキと思われるが、表部磨耗のため不明瞭である。	内面10YR7/1灰白色 外面5YR6/6橙色	１㎜の砂粒含む。	良好	
70	８層	古式土師器 小型壺	口径10.4 体部最大径10.4	口縁部は丸い体部から屈曲し内湾する。体部の内面はハケナデ、外面上位はハケナデのちミガキ、下位はヘラケズリのちヘラミガキを施す。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/1明褐灰色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
71	８層	古式土師器 小型壺	口径9.9	口縁部は屈曲し内湾する。体部の内外面はユビナデを施し、内面には粘土接合の痕跡がある。口縁部の内面はヘラミガキ、外面はハケナデのちユビナデを施す。	内外面7.5YR7/3にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
72 10	８層	古式土師器 壺		体部上位の破片である。外面は直線文と波状文、内面はユビナデを施す。内面には粘土接合の痕跡がある。	内面2.5Y7/1灰白色 外面5Y8/2灰白色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
73	８層	古式土師器 甕	口径18.0	大型の甕である。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はユビナデを施す。外面には粘土接合の痕跡がある。体部の内面は横方向と右上がりのヘラケズリ、外面は右上がりのタタキ(6条/1㎝)のちハケナデを施す。内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいる。外面の全体には煤が付着している。	内面7.5YR7/1明褐灰色 外面7.5YR5/3にぶい褐色	１～３㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
74	８層	古式土師器 甕	口径19.4	口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状のくぼみをもつ。屈曲部の内面は丸みのある面をもつ。口縁部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、屈曲部におよぶ。外面は右上がりのタタキを施す。外面全体に煤が付着。。	内面7.5YR5/4にぶい褐色 外面N4/0灰色	１～２㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
75	８層	古式土師器 甕	口径15.0	口縁部は屈曲したのち外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタタキ(7本/1㎝)を施す。内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいる。外面の全体には煤が付着している。	内外面10YR5/3にぶい黄褐色	１～２㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
76	８層	古式土師器 甕	口径15.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいる。外面の全体には煤が付着している。	内外面5Y4/1灰色	１～３㎜の砂粒含む。(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼き締まる。）	
77	８層	古式土師器 甕	口径15.3	口縁部は内湾する。端部は内上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部におよんでいない。外面はハケナデを施す。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内外面7.5YR6/4にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
78	８層	古式土師器 甕	口径13.3	口縁部は緩やかに屈曲し外反する。端部は尖りぎみに丸く終わる。体部の内面はケズリを施し、ケズリは一部屈曲部におよぶ。外面はユビナデを施す。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面10YR3/1黒褐色	１㎜の砂粒含む。	良好	
79	８層	古式土師器 甕	底部径3.8	底部は突出する上げ底である。粘土の輪を積みあげて作っている。体部の外面は右上がりのタタキ(3本/１㎝)を施す。内面はユビナデを施し、ヘラ状工具による痕跡が底部の中央に見られる。外面には黒斑がある。	内面2.5Y8/2灰白色 外面N3/0暗灰色	１～５㎜の砂粒含む。	良好	
80	８層	古式土師器 複合口縁壺	口径21.0	口縁部は平らな杯部から屈曲し外反する。端部は面を形成する。口縁部の内面は横方向のち右上がりのヘラミガキ、外面は横方向のち左上がりのヘラミガキを施す。杯部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/4にぶい黄橙色	１㎜の砂粒含む。	良好	
81	８層	古式土師器 有稜高杯		裾部は柱状部から屈曲し伸びる。杯部は平らである。裾部の内面はナデ、外面はハケナデのちヘラミガキを施す。脚部の内面はユビナデを施し、しぼり目と粘土接合の痕跡がある。外面の下位はヘラミガキ、上位はヘラケズリのちヘラミガキを施す。杯部の内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリのちヘラミガキを施す。杯部の内面は部分的に赤いことから赤色顔料を塗布か？	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/2にぶい黄橙色 杯部内面の一部2.5YR5/8明赤褐色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
82	８層	古式土師器 有稜高杯		裾部は柱状部から屈曲し伸びる。杯部は平らである。脚部の内面はユビナデを施し、しぼり目と粘土接合の痕跡がある。外面はヘラケズリのち横方向のヘラミガキを施す。杯部の内面は表部が磨耗しており不明瞭である。外面はヘラケズリのちヘラミガキを施す。	内外面7.5YR6/4にぶい橙色	１㎜の砂粒含む。	良好	
83	８層	古式土師器 高杯		裾部は短い脚部から「ハ」の字に広がる。杯部は平らである。杯部の内外面はヘラミガキ。脚部の内面はユビナデ、外面はヘラミガキを施す。屈曲部分の外面にヘラ状工具による痕跡がある。裾部の内面はユビナデ、外面はヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
84	８層	古式土師器 高杯		裾部は脚部から「ハ」の字に広がる。裾部にはスカシ孔が４方にあけられている。脚部の内面はユビナデを施し、しぼり目と粘土接合の痕跡が見られる。外面の上位はヘラケズリ、下位は横方向のヘラミガキを施す。裾部の内面は横方向のハケナデ、外面はヘラミガキを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	



８層　90～95　９層　96

第14図　１区　８層・９層出土遺物実測図

表９　出土遺物観察表（９）

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
85	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径18.6	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラミガキ、外面はユビナデを施す。	内面7.5YR6/2灰褐色 外面5YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	
86	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径17.6	口縁部は段をもち外反する。体部の内外面および口縁部の内外面はヘラミガキと思われるが、表部磨耗のため不明瞭である。	内外面10YR7/4にぶい黄橙色	1～4㎜の砂粒含む。	良好	
87	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径15.4	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面ともにミガキと思われるが、表部磨耗のため不明瞭である。	内面10YR6/1褐灰色 外面10YR7/3にぶい黄橙色	1㎜の砂粒含む。	良好	
88	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径18.3	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	
89	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径12.6	縁部は段をもち外反する。口縁部および体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。内面には黒斑がある。	内面7.5YR3/1黒褐色 外面7.5YR7/2明褐灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	
90 10	８層	古式土師器 器台	口径9.85 器高8.9 底部径13.4	受部は緩やかに外上方へ伸びる。端部は上方へつまみ出し面を形成する。脚部の内面上位はユビナデ、下位はハケナデを、外面はヘラミガキを施す。受部の内外面はヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/2灰黄色	1～2㎜の砂粒含む。	良好	
91	８層	古式土師器 器台	口径12.0	受部は緩やかに外上方へ伸びる。端部は上方へつまみ出し面を形成する。受部の内面は放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	
92	８層	古式土師器 器台		受部はゆるやかに内湾する。脚部は「ハ」の字にひらく。脚部の内面はユビナデを施し、しぼり目がある。外面はヘラミガキを施す。杯部の内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリのちヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
93	８層	古式土師器 器台	底部径10.6	裾部は「ハ」の字にひらく。裾部にはスカシ孔が４方向にあけられている。裾部の内面上位はヘラケズリ、下位はヘラミガキを、外面はヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	1㎜の砂粒含む。	良好	
94	８層	古式土師器 鉢？	口径22.2	口縁部は内湾する。端部は面を形成する。端部の上面と外側に刻み目を施す。体部の外面下部に突帯を貼り付ける。突帯上には刻み目を施す。体部の内面はハケナデのちユビナデ、外面はヘラミガキのちハケナデを施す。外面には黒斑がある。	内10YR7/2にぶい黄橙色 外面黒斑部分N2/0黒色	1～5㎜の砂粒含む。	良好	
95 10	８層	古式土師器 棒状土製品	長さ5.2 径1.3	細長い棒状の土製品で、両端は欠損している。断面は楕円形である。全面にミガキを施し、ヘラ状工具による刺突文？が部分的に見られる。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	1～5㎜の砂粒含む。	良好	
96	９層	弥生土器 壺	口径14.4	受口状口縁の壺である。端部は外側へつまみ出し、端部は面を形成する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。頸部の内面は横方向のヘラミガキ、外面は縦方向のヘラミガキを施す。体部の内外面はユビナデを施す。	内面2.5Y6/2灰黄色 外面5Y7/1灰白色	1㎜の砂粒含む。	良好	

２区

第１面

６層上面(T.P.+5.8m前後)で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

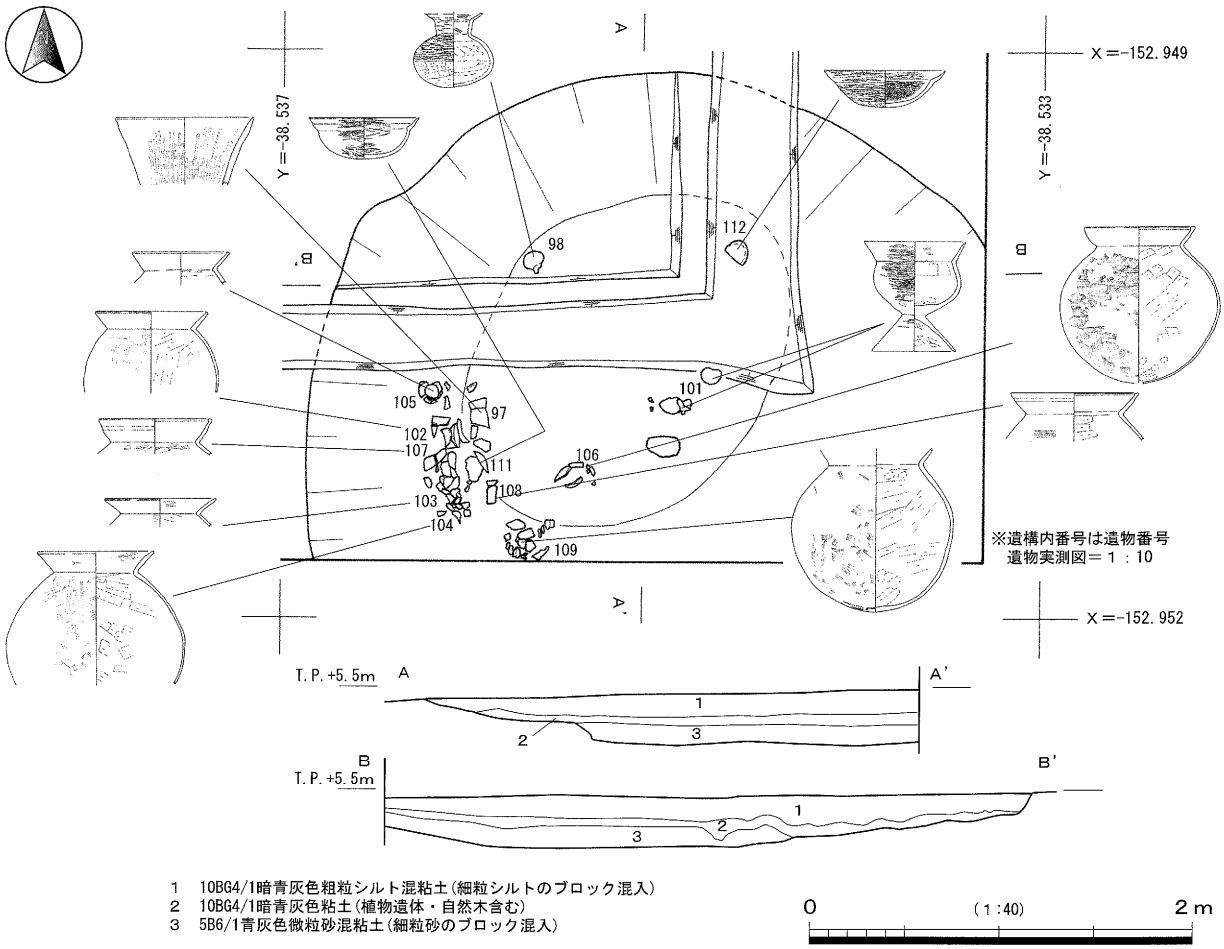
第２面

８層上面(T.P.+5.5m前後)で調査を行い、古墳時代初頭～前期の土坑15基(ＳＫ201～215)、溝１条(ＳＤ201)、小穴２個(ＳＰ201・202)を検出した。

ＳＫ201

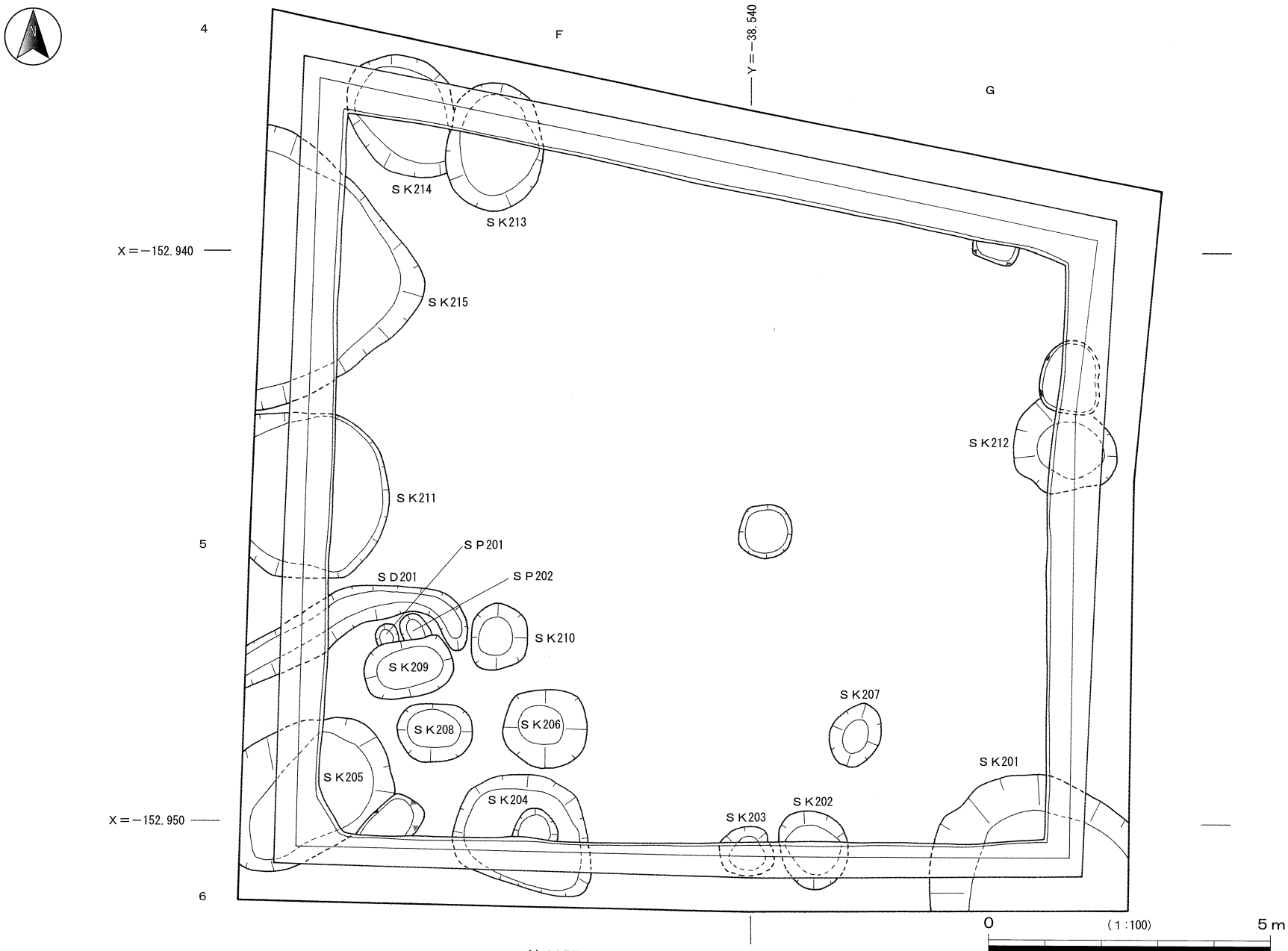
Ｉ－25－５・６Ｇ地区で検出した。遺構の南東側は調査区外に至るため不明である。検出した部分の平面形状は楕円形で、東西3.55m以上、南北2.6m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.3mを測る。埋土は上からａ層10BG4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細粒シルトのブロック混入)、ｂ層10BG4/1暗青灰色粘土(植物遺体・自然木含む)、ｃ層5B6/1青灰色微粒砂混粘土(細粒砂のブロック混入)で、ｃ層内の中央から北西肩にかけて、比較的密集した状態で古式土師器が出土した。このうち図化した遺物は97～112である。

97は直口壺である。98は口縁部が欠損しているが、複合口縁壺になると思われる。99は小形壺。100は小型丸底壺である。101は台付の壺である。102～109は甕で、このうち107～109は布留式甕である。110～112は鉢である。111・112は有段口縁鉢で、112の内面には放射状ヘラミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

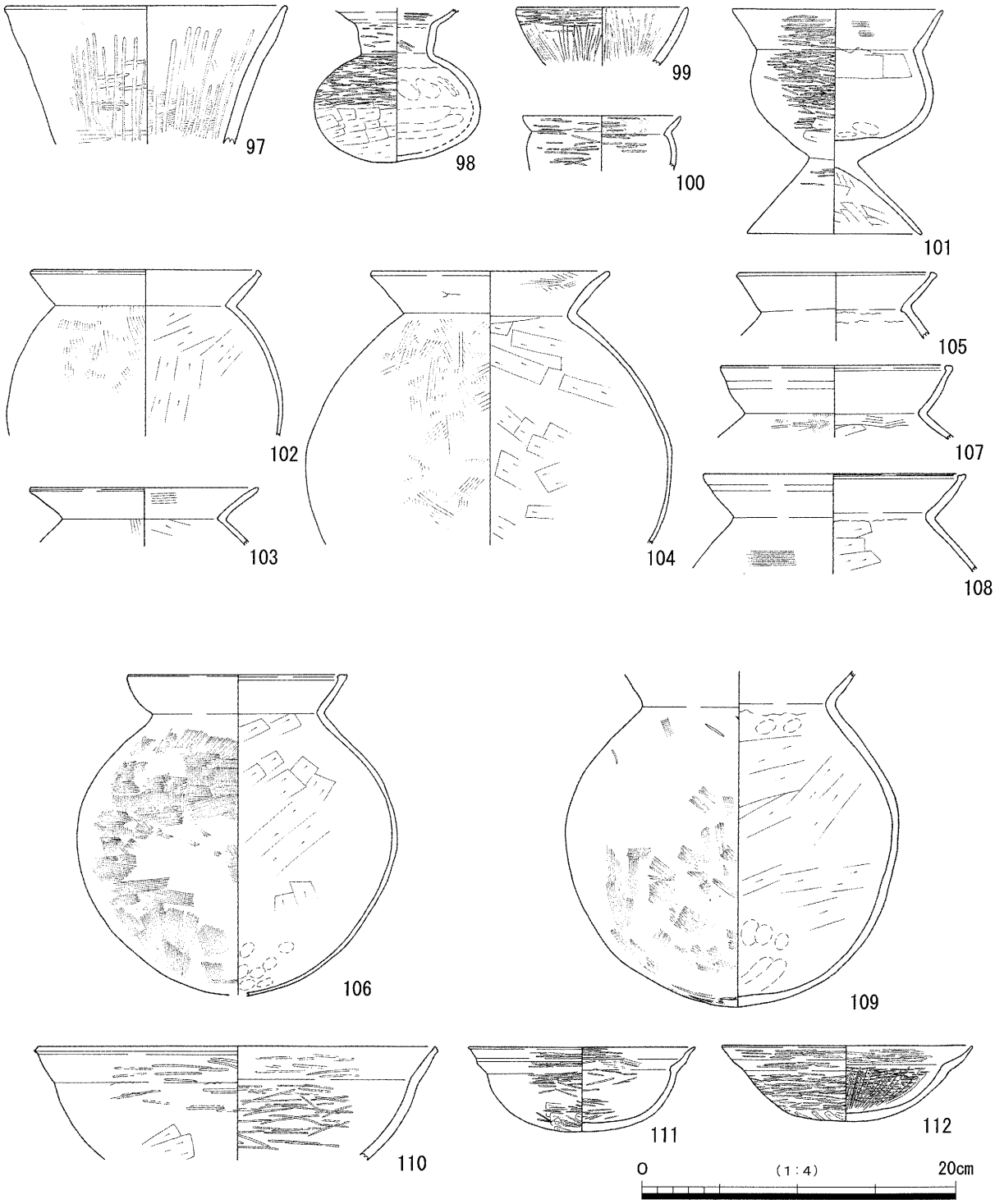


1　10BG4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細粒シルトのブロック混入)
2　10BG4/1暗青灰色粘土(植物遺体・自然木含む)
3　5B6/1青灰色微粒砂混粘土(細粒砂のブロック混入)

第15図　２区　ＳＫ201平・断面図



第16図　２区　２面平面図



第17図　２区　ＳＫ201 出土遺物実測図

表10　出土遺物観察表(10)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
97	SK 201	古式土師器 直口壺	口径17.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は丸く終わる。口縁部の内面下位～中位は横方向のハケナデのち縦方向のヘラミガキ、上位はヨコナデを施す。外面下位～中位は横方向のヘラミガキのち縦方向のヘラミガキ、上位はヨコナデを施す。	内面7.5Y7/1灰白色 外面2.5Y6/1黄灰色	1～4㎜の砂粒含む	良好	
98	SK 201	古式土師器 壺	体部最大径10.5	口縁部は段をもち、外反しながら伸びる。体部は横長の球形である。体部の内面はユビナデを施す。上位には粘土接合の痕跡がある。外面下位～中位はヘラケズリ、中位はヘラケズリのち横方向のヘラミガキ。上位は横方向のミガキを施す。頸部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。口縁部と頸部の屈曲部の内面には粘土接合の痕跡がある。体部下位には焼成後の穿孔が1箇所ある。体部の外面には黒斑がある。	内面5YR6/6橙色 外面2.5YR5/8明赤褐色	1㎜の砂粒含む	良好	
99	SK 201	古式土師器 直口壺	口径10.8	口縁部は内湾ぎみに外上方に伸びる。口縁部の内面は縦方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキのち縦方向のユビナデを施す。	内外面2.5Y7/2灰黄色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
100	SK 201	古式土師器 小型丸底壺	口径10.0 体部最大径9.6	口縁部は屈曲し内湾する。口縁部の内面は左上がりのハケナデのち横方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内外面はヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/4にぶい橙色 外面7.5YR7/8黄橙色	1㎜の砂粒含む	良好	
101 10	SK 201	古式土師器 台付壺	口径13.3 器高14.4 体部最大径11.5 底部径11.0	裾部は「ハ」の字にひらく裾部。体部は横長の球形である。口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外面はヘラミガキを施す。体部の内面は板状工具によるナデを施し、粘土接合の痕跡がある。体部の外面下位はヘラケズリのち横方向のヘラミガキ、上位は横方向のヘラミガキを施す。脚部の外面はヘラミガキのちユビナデ、内面は板状工具によるナデを施す。裾部上位にはシボリ目がある。体部の外面には黒斑がある。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒含む	良好	
102 10	SK 201	古式土師器 甕	口径14.2 体部最大径17.6	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部に達している。外面は左上がりと縦方向のハケナデを施す。外面の全体には煤が付着している。	内面10YR6/2灰黄褐色 外面10YR4/2灰黄褐色	1～3㎜の砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
103	SK 201	古式土師器 甕	口径14.4	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部に達している。外面は縦方向のハケナデを施す。体部と口縁部下位の外面には煤が付着している。	内面10YR3/2黒褐色 外面10YR2/1黒色	1～3㎜の砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
104 10	SK 201	古式土師器 甕	口径15.0	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は丸みのある面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施し、粘土接合の痕跡がある。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部に達している。外面はハケナデを施す。外面の全体には煤が付着している。	内面2.5Y5/2暗灰黄色 外面10YR5/2灰黄褐色	1～4㎜の砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
105	SK 201	古式土師器 甕	口径12.1	口縁部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。端部は内側へ肥厚し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はハケナデを施し、粘土接合の痕跡がある。体部の外面上位はハケナデのちユビナデを施す。口縁部の外面と体部の外面には煤が付着している。	内面10YR7/1灰白色 外面10YR7/3にぶい黄橙色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
106 10	SK 201	古式土師器 甕	口径14.0 器高20.6 体部最大径20.3	底部は丸底で、体部は、中位に最大径がある球形である。口縁部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。端部は内側に肥厚し、面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面下位はナデを施し、指頭圧の痕跡がある。中位～上位はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部まで及ぶ。体部の外面下位はハケナデ、中位は縦方向と左上がりのハケナデ、上位は右上がりのハケナデを施す。口縁部との境はハケがヨコナデによって消されている。体部の外面全体には煤が付着している。	内面2.5Y7/1灰白色 外面2.5Y7/3浅黄色	1～4㎜の砂粒含む	良好	
107	SK 201	古式土師器 甕	口径14.6	口縁部は内湾しながら外上方へ伸びる。端部は内側へ肥厚し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでいない。体部の外面はハケナデを施す。口縁部と体部の外面には煤が付着している。	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/2にぶい黄橙色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
108	SK 201	古式土師器 甕	口径16.6	口縁部は内湾する。端部は肥厚し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。口縁部および体部の外面には煤が付着している。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでいない。体部の外面は横方向のハケナデを施す。	内面2.5Y7/2灰黄色 外面2.5Y6/3にぶい黄色	1～2㎜の砂粒含む	良好	

表11　出土遺物観察表(11)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
109 10	SK 201	古式土師器 甕	体部最大径21.3	底部は丸底で、体部は中位に最大径がある球形である。口縁部は内湾する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。。体部の内面下位はユビナデ、中位～上位はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでいない。屈曲部の内面はユビナデを施し、粘土接合の痕跡がある。体部の外面下位～中位はハケナデ、上位はハケのちユビナデを施す。体部の外面上位にはヘラ状工具による圧痕がある。体部内面下位には焦げがある。外面全体には煤が付着している。	内面2.5Y7/2灰黄色 外面2.5Y6/3にぶい黄色	1～4㎜の砂粒含む	良好	
110	SK 201	古式土師器 大型鉢	口径25.4	体部は内湾する。口縁部は屈曲し外反する。端部は上下につまみ出し面を形成する。体部の外面下位はヘラケズリ、上位はヘラミガキを施す。内面はヘラミガキを施す。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。	内面10YR7/3にぶい黄橙色 外面10YR7/2にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒含む	良好	
111	SK 201	古式土師器 有段口縁鉢	口径14.4 器高5.5	体部は内湾する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヘラミガキ、外面はヘラミガキを施す。体部の内面は横方向のヘラミガキを施す。外面下位はヘラケズリのち部分的にヘラミガキ、上位は横方向のヘラミガキを施す。体部の外面には黒斑がある。	内面2.5Y7/2灰黄色　外面2.5Y6/3にぶい黄色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
112 10	SK 201	古式土師器 有段口縁鉢	口径15.8 器高4.9	体部は内湾する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキを施す。外面下位はヘラケズリ、上位は横方向のヘラミガキを施す。	内面2.5Y7/2灰黄色 外面2.5Y6/3にぶい黄色	1㎜の砂粒含む	良好	
113	SK 202	古式土師器 壺	口径12.2	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面は横方向のち縦方向のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。内面には粘土接合の痕跡がある。	内面7.5YR6/2灰褐色 外面10YR5/2灰黄褐色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
114	SK 202	古式土師器 甕	口径15.6	「く」の字に屈曲する口縁部。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状のくぼみがある。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。内面のヘラケズリは、屈曲部に達していない。外面は左上がりのハケナデのちヨコナデを施す。	内面2.5Y7/2灰黄色 外面7.5YR7/1明褐灰色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
115	SK 202	古式土師器 有段口縁鉢	口径17.6	体部は内湾する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部および体部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面10YR6/3にぶい黄橙色 外面10YR5/2灰黄褐色	1㎜の砂粒含む	良好	
116	SK 202	古式土師器 鉢	口径28.6	体部は内湾する。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。口縁部および体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
117	SK 203	古式土師器 直口壺	口径14.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は丸く終わる。口縁部の内外面は横方向のハケナデ、外面は縦方向のハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR5/4にぶい黄褐色	1～3㎜の砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
118	SK 204	古式土師器 複合口縁壺	口径18.4	口縁部は二段に屈曲し外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/6橙色	1～3㎜の砂粒含む	良好	
119 11	SK 205	古式土師器 直口壺	口径14.8	口縁部は外反する。口縁部の内面は横方向のハケナデのち右上がりのヘラミガキ、外面は右上がりのハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。体部の内面はハケナデ、外面は縦方向のハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。	10YR6/3にぶい黄褐色	1～2㎜の砂粒含む	良好	
120	SK 205	古式土師器 直口壺	口径16.6	口縁部は外反する。端部は面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外面下位には凹線状のくぼみがある。	内外面7.5YR8/2灰白色	1～3㎜の砂粒含む	良好	
121 11	SK 205	古式土師器 小型丸底壺	口径8.0 器高10.35 体部最大径10.55	底部は尖りぎみの丸底である。体部は横長の球形で最大径は中央にある。口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は丸く終わる。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面はユビナデ、外面下位はヘラケズリのち左上がりのヘラミガキ、中位は横方向のハケナデのちヘラミガキ、上位は横方向のヘラミガキを施す。口縁部と底部の外面には黒斑がある。	内面10YR6/3にぶい黄橙色 外面10YR6/2灰黄褐色	1～3㎜の砂粒含む	良好	

ＳＫ202

Ｉ－25－５・６Ｇ地区で検出した。平面形状は南北に長い楕円形で、長径1.4m、短径1.2mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.14mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は113～116である。

113は直口壺。114は甕。115・116は鉢。115は有段の口縁をもつ。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ203

Ｉ－25－６Ｆ・Ｇ地区で検出した。平面形状は円形で、径0.9mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.14mを測る。埋土は5P3/1暗紫灰色微粒砂混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは117である。

117は直口壺で、外面に横方向のヘラミガキを施す。

ＳＫ204

Ｉ－25－５・６Ｆ地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形で、長径2.6m、短径1.7mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.22mを測る。埋土は上からａ層10B4/1暗青灰色微粒シルト混粘土、ｂ層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。うち図化したものは118である。

118は複合口縁壺。表面磨耗のため調整不明瞭ではあるが、横方向のヘラミガキを施している。古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ205

Ｉ－25－５・６Ｆ地区で検出した。平面形状は南東―北西に長い楕円形を呈す。東西2.7m以上、南北2.5mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土はａ層5P3/1暗紫灰色細粒シルト混粘土(炭化物含む)、ｂ層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細砂のブロック混入)で、ａ層からは古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは119～122である。

119･120は直口壺で、119の内面には右上がりのミガキを丁寧に施す。121は小型丸底壺。122は甕。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ206

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。平面形状は円形で、径1.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は上からａ層5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(細砂のブロック混入)、ｂ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭まばらに含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは123である。

123は高杯で、杯部には明瞭な稜がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式古相に比定できる。

ＳＫ207

Ｉ－25－５Ｇ地区で検出した。平面形状は南北に長い楕円形で、長径１.2m、短径0.9mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土（植物遺体含む）で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは124である。

124は直口壺で、内外面に横方向のヘラミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

表12　出土遺物観察表(12)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
122	ＳＫ205	古式土師器甕	口径16.1	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタタキ（6本/１cm）を施す。口縁部および体部の外面には煤が付着している。	内面2.5Y5/2暗灰黄色 外面2.5Y6/2灰黄色	１～３mmの砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
123	ＳＫ206	古式土師器高杯	口径20.4	杯部は平らである。口縁部は外反する。端部は面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面は左上がりのヘラミガキ、外面は縦方向のヘラミガキを施す。杯部の内外面はヘラミガキを施す。杯部の外面には粘土接合の痕跡がある。	内外面7.5YR7/3にぶい橙色	１～３mmの砂粒含む	良好	
124 11	ＳＫ207	古式土師器直口壺	口径11.4	口縁部は直線的に上外方へ伸びる。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	１～２mmの砂粒含む	良好	
125	ＳＫ208	古式土師器甕	口径15.0	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面は左上がりのハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ。外面は右上がりのタタキ（5本/1cm）を施す。	内外面10YR5/4にぶい黄褐色	１～３mmの砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好(硬く焼き締まる。)	
126	ＳＫ208	古式土師器高杯	口径12.1	裾部は「ハ」の字にひらく。裾部の内面はハケナデ、外面はヘラミガキを施す。裾部にはスカシ孔があいている。破片であるため孔の数は不明である。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	１mmの砂粒含む	良好	
127	ＳＫ208	古式土師器有段口縁鉢	口径14.8	体部は内湾する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部および体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面5YR6/6橙色	３mmの砂粒含む	良好	

ＳＫ208

Ｉ－25―５Ｆ地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形で、長径１.3m、短径1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は上から、ａ層5B4/1暗青灰色細砂混粘土、ｂ層5B5/1青灰色粘土で、古式土師器が出土した。このうち図化したものは125～127である。

125は庄内式甕である。126は高杯。127は有段口縁鉢で、内外面ともに密なミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ209

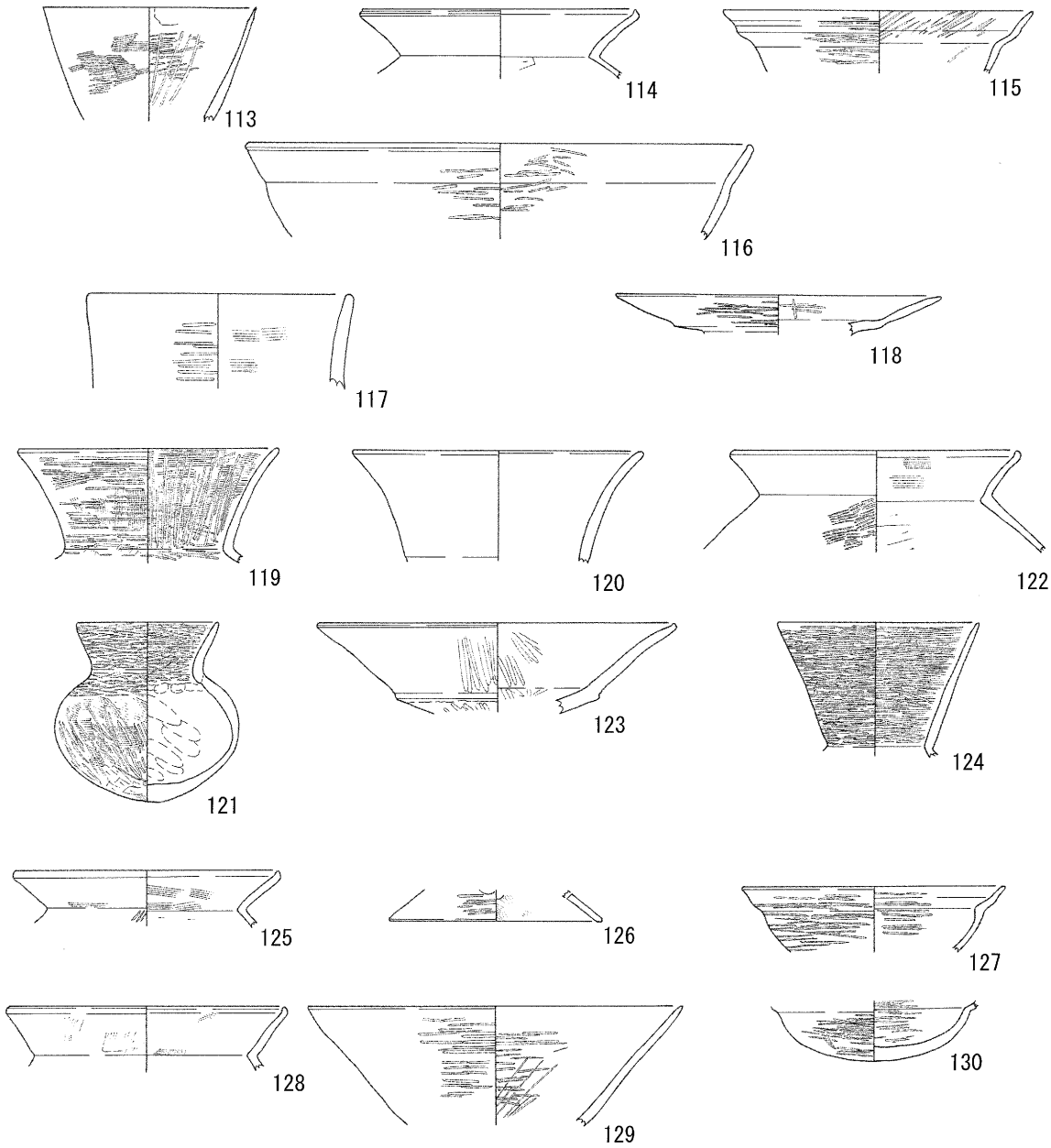
Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。北側でＳＰ201とＳＰ202を切っている。平面形状は東西に長い楕円形で、長径１.6m、短径1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上から、ａ層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、ｂ層5B2/1青黒色細粒シルト粘土(炭多く含む)、ｃ層5PB2/1青黒色粘土、ｄ層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(植物遺体含む)、ｅ層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は128・129である。

128は甕。129は高杯で、内面に放射状ミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ210

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。平面形状は円形で、径１.0mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は上から、ａ層5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土（炭多く含む）、ｂ層10BG4/1暗青灰色細粒シルト粘土で、ａ層からは古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは130である。

130は口縁部が欠損しているが、有段口縁鉢になると思われる。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。



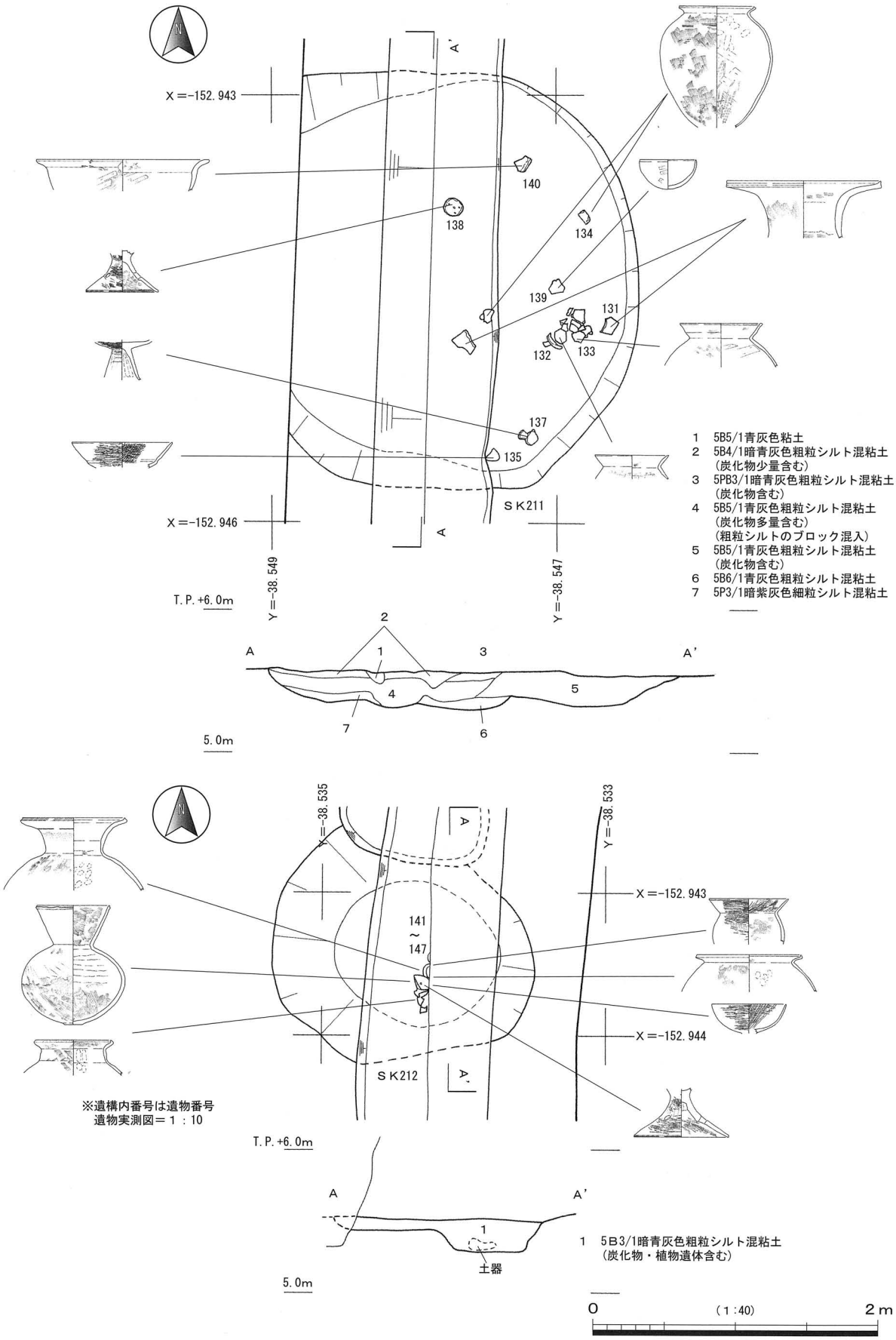
ＳＫ202　113～116　ＳＫ203　117　ＳＫ204　118
ＳＫ205　119～122　ＳＫ206　123　ＳＫ207　124
ＳＫ208　125～127　ＳＫ209　128・129　ＳＫ210　130

0　(1:4)　20cm

第18図　２区　ＳＫ202～210 出土遺物実測図

表13　出土遺物観察表(13)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
128	ＳＫ 209	古式土師器 甕	口径15.8	口縁部は屈曲し外反する。端部はつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面は左上がりのハケナデ、外面はハケナデのちヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面はハケナデを施す。外面全体に煤が付着している。	内外面5YR5/3にぶい赤褐色	１～３㎜の砂粒含む	良好	
129	ＳＫ 209	古式土師器 高杯	口径21.4	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR8/２灰白色	３㎜の砂粒含む	良好	
130	ＳＫ 210	古式土師器 有段口縁鉢		底部は丸底である。体部は内湾する。口縁部は屈曲し内湾する。底部の内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリのちヘラミガキを施す。体部および口縁部お内外面は横方向にヘラミガキを施す。	内外面10YR5/１褐灰色	３㎜の砂粒含む	良好	



第19図　2区　SK211・212平・断面図

ＳＫ211

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。平面形状は半円形で、東西2.4m以上、南北2.9mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上から、ａ層5B5/1青灰色粘土、ｂ層5B4/1暗青灰色粗粒シルト粘土(炭含む)、ｃ層5PB3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、ｄ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(粗粒シルトのブロック混入)(炭含む)、ｅ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、ｆ層5B6/1青灰色粗粒シルト混粘土、ｇ層5P3/1暗紫灰色細粒シルト混粘土でｄ層とｅ層からは古式土師器が多く出土した。このうち図化した遺物は131～140である。

131は壺で、水平近くまで伸びる口縁部で、阿波か讃岐系と思われる。132～134は甕で、134は器形や胎土から讃岐産と推測できる。135～138は高杯で、135は放射状のヘラミガキを内面に施している。139･140は鉢である。また桃と思われる種が１点(Ｗ４)出土した。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相(布留Ｉ)に比定できる。

ＳＫ212

Ｉ－25－５Ｇ地区で検出した。平面形状は南東-北西に長い楕円形で、長径2.0m、短径1.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.2mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土（炭、植物遺体含む）で、古式土師器が出土した。このうち図化した遺物は141～147である。

141～144は壺、145は甕である。141・143・145は阿波または讃岐系。146・147は高杯である。146は椀形の高杯で、放射状のヘラミガキを内面に施している。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相(布留Ｉ)に比定できる。

ＳＫ213

Ｉ－25－４Ｆ地区で検出した。西側でＳＫ214を切る。平面形状は南北に長い楕円形で、長径2.2m、短径1.65mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は10BG4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器が出土した。このうち図化したものは148～150である。

148・149は壺で、149の体部内面には赤色顔料が付着。150は甕で、体部内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいない。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

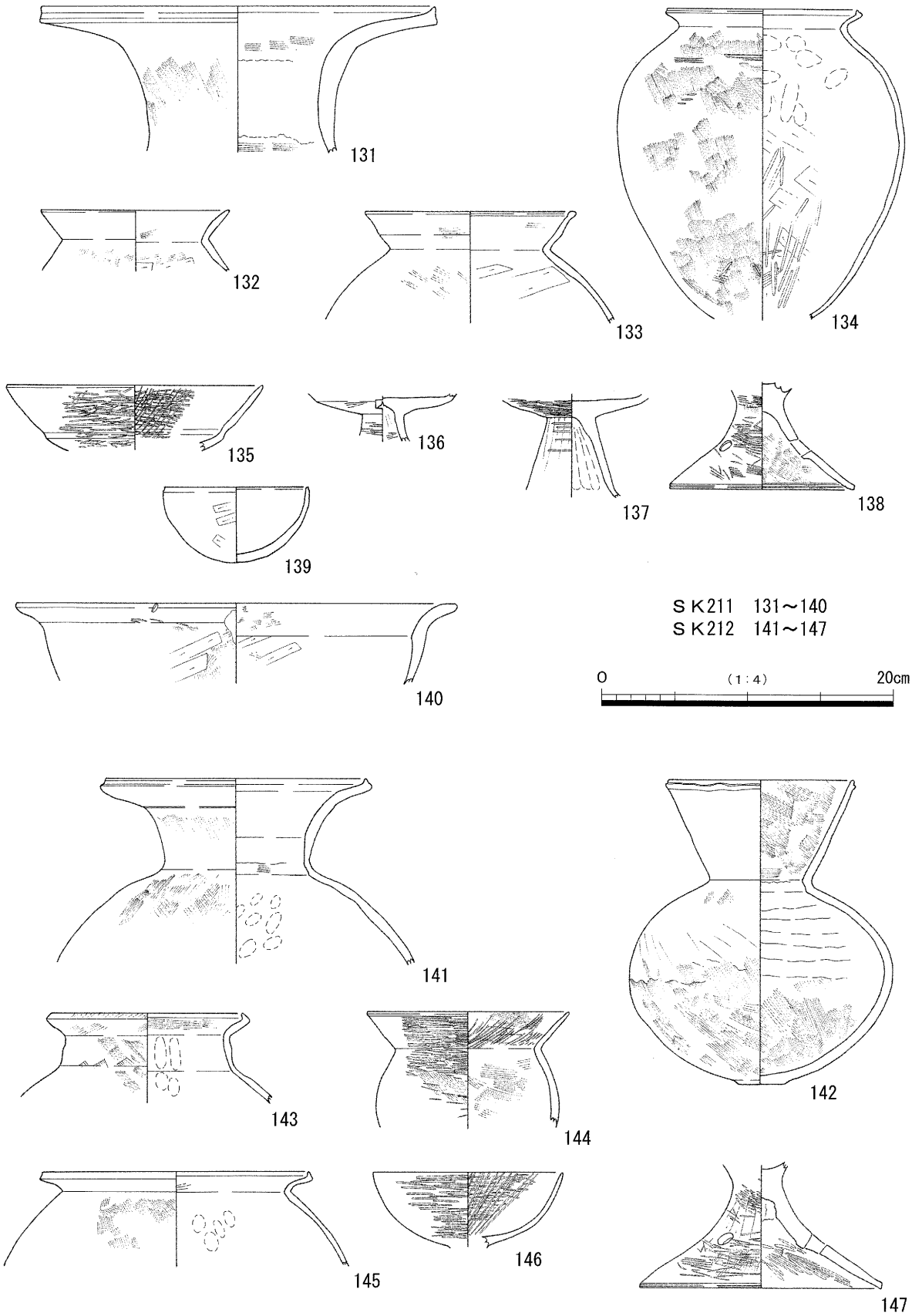
ＳＫ214

Ｉ－25－４Ｆ地区で検出した。東側の一部はＳＫ213で切られる。平面形状は南東-北西に長い楕円形で、長径2.4、短径1.7mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は上からａ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭、植物遺体含む)、ｂ層5B4/1暗青灰色微粒砂混粘土(炭含む)、ｃ層　5B5/1青灰色粘土で、古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは151～154である。

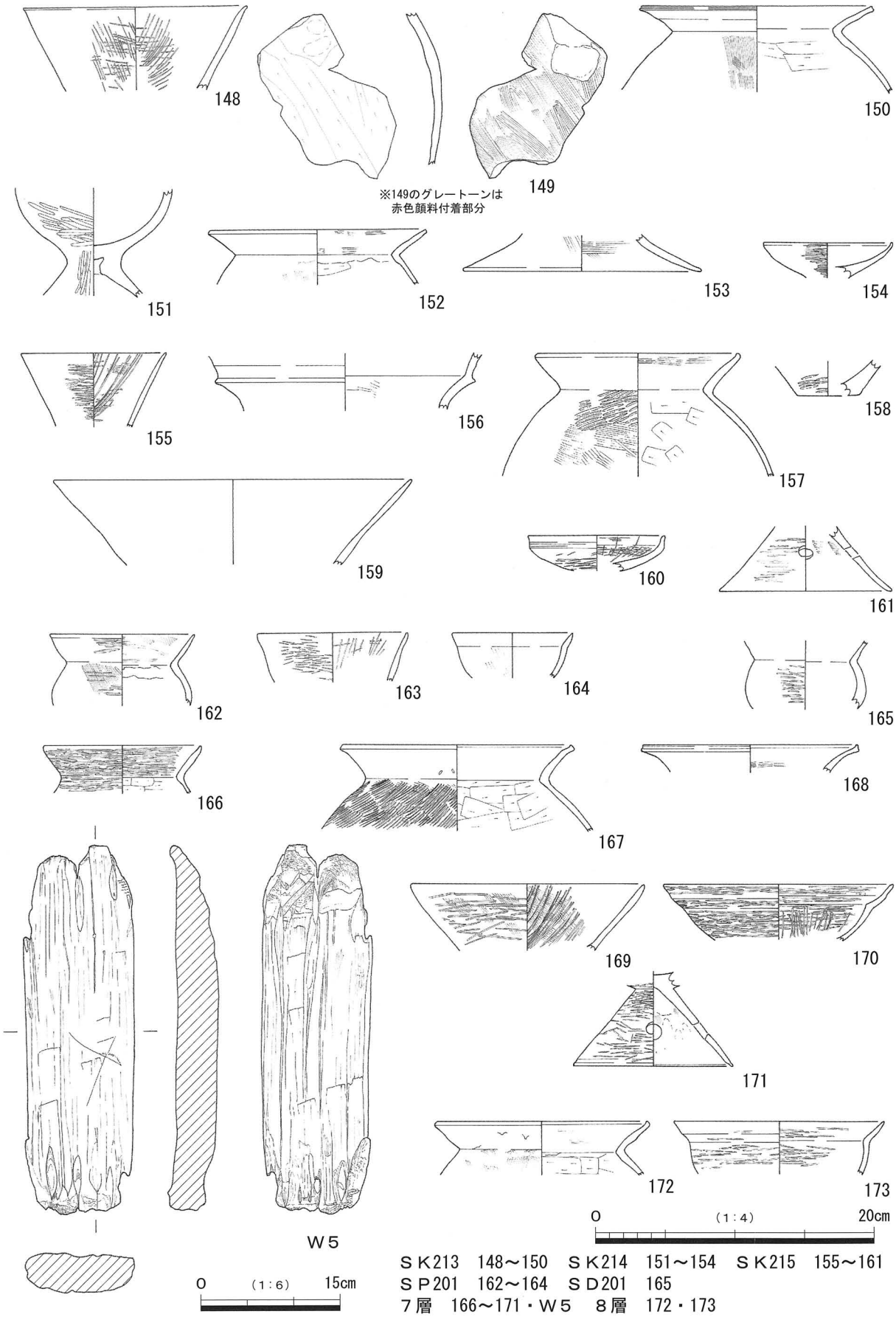
151は口縁部と裾部が欠損しているが、器形から台付壺になると思われる。152は甕。153は高杯。154は器台。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＫ215

Ｉ－25－４・５Ｆ地区で検出した。平面形状は半楕円形で、東西2.9m以上、南北5.1m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土はａ層5B４/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、ｂ層5B3/1暗青灰色細粒シルト混粘土、ｃ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、ｄ層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは155～161である。



第20図　２区　ＳＫ211・212出土遺物実測図



ＳＫ213　148～150　ＳＫ214　151～154　ＳＫ215　155～161
ＳＰ201　162～164　ＳＤ201　165
７層　166～171・Ｗ５　８層　172・173

第21図　ＳＫ213～215、ＳＰ201、ＳＤ201、７層、８層出土遺物実測図

155は直口壺で、内面に放射状のヘラミガキを施している。156は口縁端部が欠損しているため、器形の全容は不明であるが、おそらく複合口縁壺になると思われる。157・158は甕である。157は体部内面のケズリは屈曲部におよんでいない。158は突出する平底で、外面に太筋のタタキを施すＶ様式系の甕である。159は高杯。160・161は器台である。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式期古相に比定できる。

ＳＰ201

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。南側はＳＫ209に切られる。平面形状は円形で、径0.5mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は5BG2/1青黒色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは162～164である。

162～164は小形壺である。162の体部外面には、左上がりの間隔の狭い５本のハケナデと１本のヘラミガキを交互に施したのち横方向のヘラミガキを施している。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

ＳＰ202

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。南側はＳＫ209に切られる。平面形状は円形で、径0.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化できるものはなかった。

ＳＤ201

Ｉ－25－５Ｆ地区で検出した。Ｌ字に曲がる溝で、西側は調査区外に至る。検出長2.5m、幅0.4～0.7mを測る。断面形状は形で、深さ0.15mを測る。埋土は上からａ層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、ｂ層5B6/1青灰色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは165である。

165は小形壺である。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

遺構に伴わない出土遺物

７層からは遺物が少量出土した。このうち図化したものは166～171・Ｗ５である。

166は壺で、口縁部内外面は、丁寧なヘラミガキを施す。体部内面はヘラケズリを施す。167・168は庄内式甕である。169は高杯で、内面に放射状のヘラミガキを施す。170は有段口縁の鉢で内面に放射状のヘラミガキを施している。171は器台である。Ｗ５は板状木製品である。長さ40.1cmを測る。出土遺物は、古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

８層からは遺物が少量出土した。このうち図化したものは172・173である。

172は甕で、体部内面は横方向のヘラケズリで、一部は屈曲部までおよぶ。173は有段口縁鉢である。出土遺物は、古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

表14　出土遺物観察表(14)

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
131 11	ＳＫ 211	古式土師器 大型壺	口径27.9	口縁部は筒状の頸部から緩やかに外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。頸部の内面下位は横方向のハケナデのちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。頸部の内面には粘土接合の痕跡がある。外面は左上がりのハケナデを施す。口縁部の内外面には黒斑がある。	内外面5Y5/2灰オリーブ色	１～６㎜の砂粒含む	良好	讃岐か阿波系
132	ＳＫ 211	古式土師器 甕	口径12.8	口縁部は屈曲し外反する。端部は上方へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はハケナデのちヘラケズリ、外面は右上がりのハケナデを施す。屈曲部内面はハケナデのちユビナデを施す。	内外面7.5YR7/4にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む	良好	
133	ＳＫ 211	古式土師器 甕	口径14.4	口縁部は内湾して伸びる。端部は内側へ肥厚し丸みのある面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施すが、屈曲部には及ばない。外面は左上がりのハケナデを施す。屈曲部の内面はヨコナデを施す。	内面10YR4/1褐灰色 外面2.5Y8/2灰白色	１～３㎜の砂粒含む	良好	
134 11	ＳＫ 211	古式土師器 甕	口径13.0 体部最大径19.7	体部は倒卵形で、最大径は上位にある。口縁部は「く」の字に屈曲し、短く外反する。端部は内上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面下位はヘラケズリのち一部にヘラミガキ、上位はユビナデを施す。体部外面下位～上位は左上がりのハケナデを施す。下位には部分的に粗いハケナデが見られる。下位～上位にはヘラ状工具による圧痕がある。	内外面10YR5/2灰黄褐色	１～３㎜の砂粒含む。粗	良好	讃岐産
135	ＳＫ 211	古式土師器 高杯	口径17.4	杯部は平らである。口縁部は屈曲し直線的に外上方へ伸びる。口縁部および杯部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面7.5YR6/6橙色	１～２㎜の砂粒含む	良好	
136	ＳＫ 211	古式土師器 高杯		脚部は緩やかに開く円筒形である。杯部は平らである。杯部内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。脚部の内面はユビナデを施し、シボリ目がある。中央には尖った工具による刺突の孔がある。外面は横方向のヘラミガキを施す。外面には黒斑がある。	内外面2.5Y6/2灰黄色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
137	ＳＫ 211	古式土師器 高杯		脚部は外下方へひらく筒状である。杯部は平である。杯部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。脚部の内面はユビナデ、外面は縦方向のヘラミガキのち横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2にぶい黄橙色	１㎜の砂粒含む	良好	
138 11	ＳＫ 211	古式土師器 高杯	底部径 12.6	裾部は「ハ」の字にひらく。端部は面を形成し、端面は凹線状にくぼむ。裾部の内面はハケナデで、下位に沈線２条、上位にユビナデを施す。外面の上位はハケナデのちヘラミガキ、中位以下はヘラミガキを施す。裾部にはスカシ孔が３方向にある。	内外面7.5YR7/4にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
139	ＳＫ 211	古式土師器 小型鉢	口径9.8 器高5.2 体部最大径10.0	体部は半球形である。体部～底部の内面はユビナデ、外面はヘラケズリのちユビナデを施す。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内面10YR5/1褐灰色 外面10YR6/6明黄褐色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	
140	ＳＫ 211	古式土師器 大型鉢	口径30.0	口縁部は外反する。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデを施す。外面はユビナデを施し、ヘラ状工具による痕跡がある。端部にはキザミ目が１箇所ある。体部の内面はヘラケズリのちハケナデ、外面は左上がりのハケナデのち右上がりのヘラケズリを施す。体部の外面には煤が付着している。	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面7.5YR7/4にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
W4 11	ＳＫ 211	桃？種	長さ1.9 幅　1.7 厚み0.6	半分残存。端が尖る倒卵形である。	5YR2/1黒褐色			図版11に実物大写真を掲載
141 12	ＳＫ 212	古式土師器 大型壺	口径17.8	口縁部は直線的に外上方へひらく頸部から水平近くまで開く。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。口縁部と頸部の境に沈線１条施す。頸部の内面下位は横方向のハケナデ、上位ユビナデ、外面は左上がりのハケナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面は左上がりのち右上がりのハケナデを施す。	内外面5Y6/1灰色	１㎜の砂粒含む。	良好	讃岐か阿波系
142 12	ＳＫ 212	古式土師器 直口壺	口径12.6 器高20.8 体部最大径18.1底部径3.0	底部は突出する。体部は球形である。口縁部は直線に伸びる。端部は外側につまみ出し面を形成し、凹線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面下位はハケナデ、上位はユビナデを施す。粘土接合の痕跡がある。外面下位は左上がりと右上がりのハケナデのちユビナデ、中位は右上がりのハケナデ、上位はハケナデのちユビナデを施す。	内面10YR7/4にぶい黄橙色 外面7.5YR7/3にぶい橙色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
143 12	ＳＫ 212	古式土師器 壺	口径13.0	口縁部は直立する頸部から屈曲し外反する。端部は内側につまみ出し面を形成する。口縁部の内面は横方向のハケナデ、外面は右上がりのハケナデを、端面は右上がりのハケナデを施す。頸部の内面は縦方向のユビナデ、外面は右上がりのハケナデを施す。ハケナデは押しつけており、三角形にハケの痕跡が残る。体部の内面はユビナデ、外面は右上がりのハケナデを施す。	内外面10YR6/2灰黄褐色	１～３㎜の砂粒含む。	良好	讃岐か阿波系

表15　出土遺物観察表(15)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
144	SK 212	古式土師器 小型壺	口径13.8 体部最大径14.6	口縁部は球形の体部から屈曲し内湾ぎみに伸びる。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面は左上がりのハケナデを施し、粘土接合の痕跡がある。外面は左上がりのハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/4にぶい橙色 外面5YR7/4にぶい橙色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
145 12	SK 212	古式土師器 甕	口径18.2	口縁部は屈曲し短く外反する。端部は内側へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面は左上がりのハケナデを施す。	内外面5Y5/1灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	讃岐か阿波系
146 12	SK 212	古式土師器 椀形高杯	口径13.0	杯部は内湾する椀形である。端部は尖りぎみに丸く終わる。杯部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。内外面には黒色物質（黒漆？）を塗布している。	内外面7.5YR7/6橙色	1㎜の砂粒含む。	良好	
147 12	SK 212	古式土師器 高杯	口径16.6	裾部は「ハ」の字にひらく。端部は面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。脚部の内面はユビナデを施し、シボリ目がある。外面は縦方向のち横方向のヘラミガキを施す。裾部の内面はヘラミガキのちヨコナデ、外面は縦方向のハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。裾部にはスカシ孔が3方向にある。	内面10YR8/2灰白色 外面2.5YR7/4淡赤橙色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
148	SK 213	古式土師器 直口壺	口径16.0	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のち右上がりのヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/2灰黄色	1㎜の砂粒含む。精良	良好	
149 12	SK 213	古式土師器 壺		壺の体部の破片である。体部の内面上位はユビナデ、下位はヘラケズリを施す。内面には赤色顔料が付着している。外面はハケナデを施す。	内面2.5Y6/2灰黄色 外面5Y7/2灰白色　赤色顔料部分10R5/8赤色	1～3㎜の砂粒含む。結晶片岩含む	良好	
150	SK 213	古式土師器 甕	口径16.9	口縁部は外反する。端部は上下方につまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリで、ケズリは屈曲部に達しない。屈曲部はナデを施す。外面は左上がりのハケナデを施す。外面の全体には煤が付着している。	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面2.5Y8/3淡黄色	1～4㎜の砂粒含む。	良好	
151	SK 214	古式土師器 台付壺？		体部は球形である。脚部は外下方へ「ハ」の字に伸びる。体部の内面はユビナデ、外面は左上がりのヘラミガキを施す。脚部の内面はユビナデ、外面は右上がりのヘラミガキを施す。	内外面10YR6/1褐灰色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
152	SK 214	古式土師器 甕	口径15.4	口縁部は屈曲し外反する。端部は面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ケズリは屈曲部におよんでいない。屈曲部はユビナデを施す。外面は左上がりのハケナデを施す。外面には煤が付着している。	内面10YR7/2にぶい黄橙色 外面10YR7/1灰白色	1～2㎜の砂粒含む。	良好	
153	SK 214	古式土師器 高杯	底部径 17.0	裾部は「ハ」の字に外下方へ伸びる。裾部の内外面はハケナデのちユビナデを施す。	内外面10YR7/3にぶい黄橙色	1㎜の砂粒含む。	良好	
154	SK 214	古式土師器 器台	口径 9.2	受部は緩やかに外上方へ伸びる。口縁部は屈曲し短く上方へつまみ出す。端部は面を形成する。受部の内面はヘラミガキを施すと思われるが磨耗のため不明瞭である。外面は横方向のヘラミガキを施す。内外面には黒斑がある。	内面7.5YR5/6明褐色 外面2.5Y5/1黄灰色	1～2㎜の砂粒含む。	良好	
155	SK 215	古式土師器 直口壺	口径10.4	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面はハケナデのち横方向と放射状のヘラミガキを施す。外面は横方向のヘラミガキを施す。内外面には黒斑がある。	内外面10YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒含む。	良好	
156	SK 215	古式土師器 複合口縁壺	口径18.6	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内面下位はハケナデのちユビナデ、上位はヨコナデを施す。外面はヨコナデを施す。	内外面2.5Y7/3浅黄色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
157	SK 215	古式土師器 甕	口径14.4	口縁部は丸みのある体部から屈曲し内湾ぎみに外反する。端部は内側へ丸く肥厚し丸みのある面を形成する。屈曲部の内面は丸みをもち「く」の字に折れ曲がる。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面下位はタタキのちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ケズリは屈曲部におよんでいない。外面は右上がりのタタキ（4本/1㎝）のち左上がりのハケナデを施す。	内外面2.5Y6/3にぶい黄色	1～3㎜の砂粒含む。	良好	
158	SK 215	古式土師器 甕	底部径 4.4	底部は突出する平底である。体部の内面はユビナデ、外面は右上がりのタタキ（4本/1㎝）を施す。	内面10YR5/2灰黄褐色 外面10YR4/1褐灰色	1～3㎜の砂粒含む。（角閃石を多く含む生駒西麓産）	良好（硬く焼き締まる。）	

表16　出土遺物観察表(16)

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
159	ＳＫ 215	古式土師器 高杯	口径25.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。表部磨耗のため不明瞭である。	内面10R5/2灰赤色 外面10R5/8赤色	２㎜の砂粒含む。	良好	
160	ＳＫ 215	古式土師器 器台	口径9.8	受部は緩やかに外上方へ伸びる。口縁部は屈曲し外反ぎみに伸びる。端部は面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。口縁部の外面下位には細いヘラ状工具の先による直線文を部分的に２条施す。受部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/3浅黄色	１～２㎜の砂粒含む。良	良好	
161	ＳＫ 215	古式土師器 器台	底部径 12.4	裾部は「ハ」の字に外下方へ伸びる。裾部の内面はハケナデのちユビナデ、外面は横方向のヘラミガキを施す。裾部にはスカシ孔が４方向あいている。	内外面5YR6/6橙色	１㎜の砂粒含む。精良	良好	
162 12	ＳＰ 201	古式土師器 小型壺	口径10.4 体部最大径10.0	体部は球形である。口縁部は内湾する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ。を施す。外面は５本のハケナデと１本のヘラミガキを左上がりに交互に施したのち横方向のヘラミガキを施す。内面には黒斑がある。	内面N2/0黒色 外面5YR7/4にぶい橙色	１㎜の砂粒含む。	良好	
163	ＳＰ 201	古式土師器 直口壺	口径10.8	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/2灰黄色	１～２㎜の砂粒含む。	良好	
164	ＳＰ 201	古式土師器 小型鉢	口径8.6	口縁部は緩やかに内湾する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ。外面は左上がりのハケナデのちユビナデを施す。	内外面2.5Y7/1灰白色	１㎜の砂粒含む。	良好	
165	ＳＤ 201	古式土師器 小型壺	体部最大径8.6	口縁部は球形の体部から屈曲し内湾ぎみに伸びる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/3浅黄色	１㎜の砂粒含む。	良好	
166	７層	古式土師器 小型壺	口径11.2	口縁部は内湾する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面は横方向のヘラミガキ、外面は左上りのハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR6/3にぶい褐色 外面7.5YR4/3褐色	１～２㎜の砂粒含む	良好	
167	７層	古式土師器 甕	口径16.4	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外面の下位に数箇所ヘラ状工具をの痕跡がある。外面には煤が付着している。体部の内面はヘラケズリを施す。外面は右上がりのタタキ（６本/１cm）のち左上がりのハケナデを施す。	内面10YR6/2灰黄褐色 外面10YR7/2にぶい黄橙色	１～４㎜の砂粒含む(角閃石を多く含む生駒西麓産)	良好（硬く焼締まる。）	
168	７層	古式土師器 甕	口径15.3	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外面には煤が付着している。	内面10YR6/1褐灰色 外面10YR5/1褐灰色	１㎜の砂粒含む	良好	
169	７層	古式土師器 高杯	口径16.6	口縁部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。口縁部の内面は左上がりのハケナデのち放射状にヘラミガキを施す。外面は左上がりのハケナデのち横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/2明褐灰色 外面7.5YR7/4にぶい橙色	１㎜の砂粒含む	良好	
170	７層	古式土師器 有段口縁鉢	口径16.4	体部は内湾する。口縁部は屈曲し内湾する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR6/2灰黄褐色	１㎜の砂粒含む	良好	
171	７層	古式土師器 器台	底部径 11.4	裾部は「ハ」の字に直線的に外下方へ伸びる。端部は内側へつまみ出し丸く終わる。裾部の内面はハケナデのちユビナデを施す。粘土接合の痕跡がある。外面は縦方向のち横方向のヘラミガキを施す。裾部にはスカシ孔が４方向あいている。	内外面7.5YR7/2明褐灰色	１㎜の砂粒含む	良好	
Ｗ５	７層	板状木製品	長さ40.1 幅11.7厚み4.3	板状の木製品で、平面と断面の形状は長方形の形状である。燃えて炭化した部分が数箇所認められる。	内外面5YR3/4暗赤褐色			
172	８層	古式土師器 甕	口径15.0	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、一部は屈曲部におよんでいる。屈曲部にはユビナデを施し、粘土接合の痕跡がある。外面は縦方向のハケナデを施す。体部の外面は全体に煤が付着している。	内面7.5YR7/1明褐灰色 外面7.5YR6/8橙色	１㎜の砂粒含む	良好	
173	８層	古式土師器 有段口縁鉢	口径15.0	口縁部は段をもち、外反する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/1灰白色	１～２㎜の砂粒含む	良好	

３区

調査の結果、現地表下約2.0m（T.P.+6.9m）で古墳時代前期に相当する土坑５基（ＳＫ301～305）、溝１条（ＳＤ301）を検出した。なおこの調査区の南側約1/3は、既存の排水施設により現地表下約2.5mまで壊されていたため、この部分についての調査はできなかった。

ＳＫ301～305

平面形状は楕円形、不定形 、隅丸方形に分けることができる。断面形状は皿状で、ＳＫ301は２層の埋土である。それ以外の土坑は単一の埋土であった。各土坑からの遺物の出土はなく、遺構の詳しい時期は不明である。なお、検出した各土坑の詳細については表17にまとめた。

表17　３区土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径（m）	短径（m）	径（m）	断面形状	深さ（m）	埋土	出土遺物
ＳＫ301	Ⅵ－18－９Ⅰ	ＳＤ301を切っている。隅丸方形	1.2	1.2	－	皿形	0.1	上から10Y2/1黒色細粒シルト混粘土、5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土	なし
ＳＫ302	Ⅵ－18－９Ⅰ	東西に長い楕円形	0.45	0.35	－	皿形	0.06	10Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
ＳＫ303	Ⅵ－18－９Ⅰ	南東―北西に長い楕円形	1.8	1.0	－	皿形	0.06	2.5Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
ＳＫ304	Ⅵ－18－８・９Ⅰ	不定形	1.9	1.85	－	皿形	0.07	10Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
ＳＫ305	Ⅵ－18－８・９Ⅰ	南北に長い楕円形	1.2	0.9	－	皿形	0.08	10Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし

ＳＤ301

Ⅵ－18－９Ⅰ地区で検出した。西側の一部はＳＫ301で切られている。検出長5.5mで、南東－北西にほぼ直線に伸びる。幅は約1.1～1.5mを測り、中央が幅広で、北西側と南東側が狭い平面形状である。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はａ層5Y2/1黒色細粒シルト混粘土、ｂ層5B3/1暗青灰色粘土で、遺物の出土はなかった。

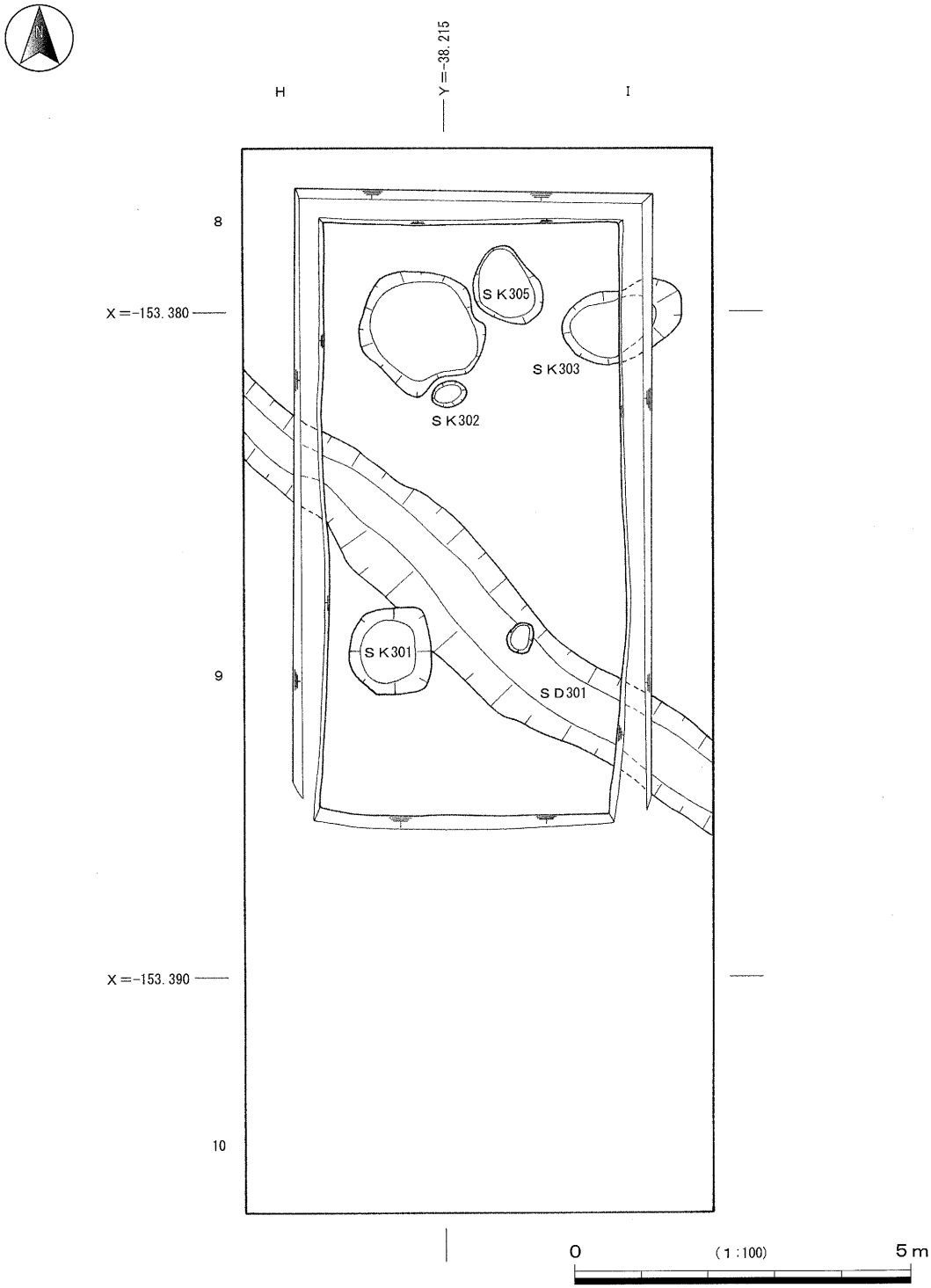
遺構に伴わない出土遺物

３層からは土師器の破片、石製品、種実などが少量出土した。このうち図化した遺物は174とＳ２である。

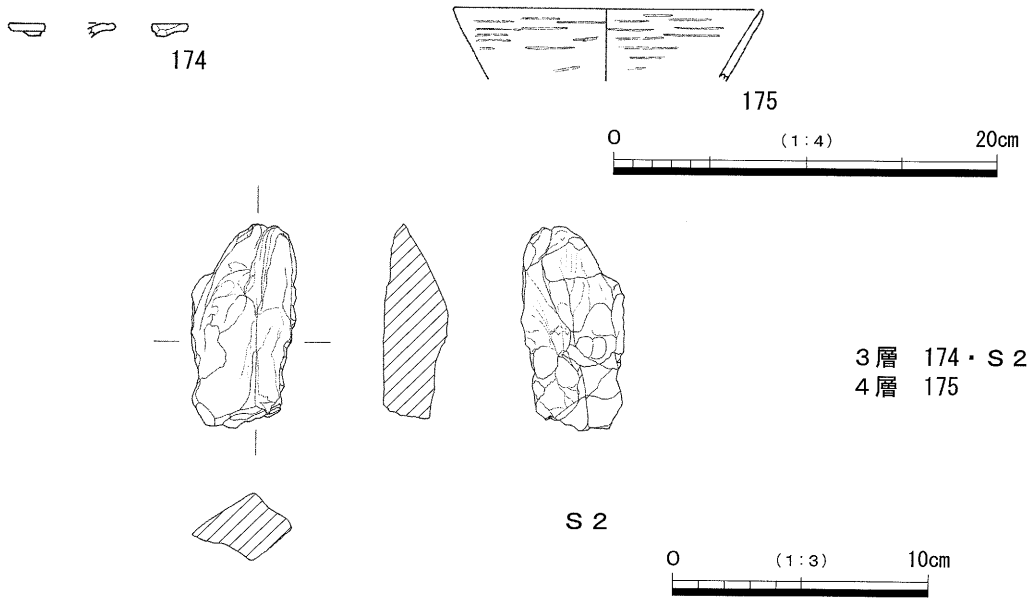
174は土師器の皿で平安時代頃に比定できる。Ｓ２はサヌカイトの石製品で石槍か石剣の未製品と思われる。また、桃と思われる種が８点（Ｗ６－１～８）出土した。

４層からは土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は175である。

175は古式土師器の直口壺で、口縁部の内外面に横方向のヘラミガキを施す。


H
Y=-38.215
I
8
X=-153.380
SK305
SK303
SK302
SK301
9
SD301
X=-153.390
10
0
(1:100)
5m

第22図　３区　平面図



第23図　３区　３層、４層出土遺物実測図

表18　出土遺物観察表(17)

遺物番号 図版番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
174	３層	土師器皿		口縁部は外反する。端部は内側へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/6 浅黄橙色	1mm程度の砂粒含む。	良好	
S2	３層	石槍か石剣の未製品	長さ 8.0 幅 3.8 厚み2.6	縦長の石材で、横断面は菱形である。表面は全体的に磨く。	5B2/1青黒色			
175	４層	古式土師器 直口壺	口径16.0	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2 にぶい黄橙色	1mm程度の砂粒含む。	良好	
W 6-1 12	３層	桃？種	長さ1.7　幅1.6　厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			図版12に実物大写真を掲載
W 6-2 12	３層	桃？種	長さ1.7　幅1.6　厚み0.6 半分残存。端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			
W 6-3 12	３層	桃？種	長さ2.0　幅1.9　厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			
W 6-4 12	３層	桃？種	長さ2.1　幅1.8　厚み1.4 端が尖る倒卵形である。		5YR5/2灰褐色			
W 6-5 12	３層	桃？種	長さ2.0　幅1.8　厚み1.4 端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			
W 6-6 12	３層	桃？種	長さ2.1　幅1.9　厚み1.5 端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			
W 6-7 12	３層	桃？種	長さ2.3　幅1.9　厚み1.6 端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			
W 6-8 12	３層	桃？種	長さ2.1　幅1.9　厚み1.5 端が尖る倒卵形である。		5YR2/1黒褐色			

第３章　まとめ

１・２区

古墳時代初頭～前期の居住域を**１区**と**２区**のT.P.+5.8～5.85mで確認した。同時期における遺構は周辺の調査でも検出しており、おもな検出例を紹介し、古墳時代初頭から前期の居住域や墓域の位置を推測してみたい。

１・２区の西に隣接するセンター調査の亀井北遺跡Ａ～Ｃ地区ではT.P.+5.6～6.0mで古墳時代初頭庄内式新相～前期布留式古相の遺構を多数検出している。特に**１区**と近接しているＡトレンチでは古墳時代前期Ⅰ（古墳時代初頭庄内式新相に比定）で、竪穴住居10棟と多数のピットを確認した。また、古墳時代前期Ⅲ（古墳時代前期布留式古相に比定）では、土坑や溝を確認している（服部他1986）。

北東に隣接する研究会第22次調査地では、１調査区のT.P.+5.5～5.7mで古墳時代初頭～前期の居住域を、３調査区で同時期の墓域を検出している（原田2001）。また、北西部にあるセンター調査の久宝寺遺跡南地区ではＨ～Ｊ地区のT.P.+5.5m前後で古墳時代初頭～前期の居住域を、Ｆ地区で同時期の墓域を検出している（一瀬他1987　若林1998）。

南に隣接する研究会第１次調査地では、T.P.+5.8.～6.0mで古墳時代前期布留式古相（布留Ⅰ期）の土器溜まりを２箇所で検出した（原田1993）。また、同第１次調査地の南隣では、同第９次調査地があり、T.P.+5.8～6.0mで古墳時代前期布留式古相の竪穴住居および井戸や溝を検出している（成海1992）。

これらの調査結果から、今回の調査地の**１・２区**で検出した古墳時代初頭～前期の居住域は、亀井北遺跡Ａ地区、研究会第22次１調査区、久宝寺遺跡南地区のＨ～Ｊ地区、研究会第１次調査地および第９次調査地付近に存在し、その範囲は、**１区**を中心とした場合、半径100m程度あったと推測できる。また、同時期の墓域は、東部の研究会第22次調査地の３調査区付近と南西部の亀井北遺跡Ｂ地区付近にあったと推測できる。

３区

３区では、周辺で行った市教委調査［久宝寺遺跡90－398］（渕1991）の結果から、ＧＬ－2.0mで古墳時代の砂層の検出が予想された。今回の調査では、予想通り砂層を検出し、その砂層の上層で、粘土層を３枚（第３～５層）確認した。確認した粘土層のうち一番下の第５層上面で遺構を検出した。検出した土坑には配置などの規則性は見られなかった。また断面形状は皿形を呈し、深さは0.1m未満で非常に浅く、遺物の出土がないことから、各土坑は遺構として捉えたが、水溜まり状の浅いくぼみが自然に埋まった可能性が考えられる。

他地域系の土器について

久宝寺遺跡内では、他地域系の土器が出土することがあり、特に古墳時代初頭～前期には比較的多くある。ここでは今回の調査で得た北陸系および讃岐、阿波系の土器に類似した例を紹介し遺跡内における出土地の分布を考えてみたい。

北陸系

北陸地域から搬入された可能性が高い古墳時代前期の布留式古相の鉢（５）は１区の竪穴住居（ＳＩ101）から出土した。

ＳＩ101と同時期の北陸系の土器には、研究会第22次調査のＳＤ－３から出土した高杯（92）や鉢（94）が挙げられ、加賀南部からの搬入品とされている（原田2001）。この他、亀井北遺跡Ｂ地区の１号墓のマウンド上面からも北陸系の器台（243）が出土している（服部他1986）。

また、古墳時代初頭庄内式古相の遺構からは北陸系の土器が出土した例がある。研究会第34次調査のＳＫ502から出土した古墳時代初頭（庄内Ⅱ）の甕（181）がその例で、この甕は石川県の漆町遺跡Ⅰ（田島1986）による器種分類では「月影式」系在地甕形土器の甕Ａ1類に分類されるもので、時期的には漆町５・６群土器に盛行する器種とされている（原田2007）。また、センターが実施した大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査（以下センター竜華東西線調査）の１～５区においては、古墳時代初頭（庄内Ⅱ）に比定される531井戸から北陸系の複合口縁壺（273）が出土した。この壺は、緩やかに外反する口縁部外面に直線文を巡らせ、体部外面に斜方向ハケ、内面にケズリを施し、口縁部には打欠きがある。同時期の408土坑からも口縁部の外面に直線紋を施し、体部は球形に近い北陸系の複合口縁壺（190）が出土している（西村2004）。

さらにセンターが実施した平成12～16年度の寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査（以下センター水処理調査）では、05272土坑から装飾器台（229頁図211－7）が、05421流路から複合口縁壺（476頁図499-23）が、第４－２層から甕（502頁図526－6）が出土し、これらも北陸からの搬入品とされている（亀井2007）。

以上から、北陸系の土器は古墳時代初頭（庄内式古相）には研究会第34次調査地とセンター竜華東西線調査の１～５区付近から多く出土しており、古墳時代前期（布留式期古相（布留Ⅰ））には今回の１区と研究会第22次調査地、亀井北遺跡Ｂ地区付近で出土していることがわかった。

阿波系・讃岐系

２区で検出したＳＫ211やＳＫ212内からは布留式期古相（布留Ⅰ）の時期の讃岐や阿波の特徴をもつ土器【ＳＫ211：壺（131）、甕（134）　ＳＫ212：壺（141・143）、甕（145）】が出土した。

壺（131、141）の類例には、センター調査の久宝寺遺跡南地区（その１）の４Ｂ，Ｂトレンチで検出したＫ３号墓上層堆積から出土した壺（134頁図Ⅱ-96-19）が挙げられる。また同遺構上層堆積からは、讃岐系の複合口縁壺（135頁図Ⅱ-97-２）も出土している。さらに同遺構の周溝内下層からは阿波系の壺が出土し（若林1999）、この壺はおそらく、古墳時代初頭期の大阪府では、焼成前に穿孔された唯一の例であることを指摘している。一方、東四国地域（讃岐・阿波）では墳墓に焼成前穿孔の壺を供献する事例が多いことが知られている（山田2006）。このことから、讃岐における墓制との共通点がある墓と見ることができるであろう。

甕（134）は器面に施す調整と器形が讃岐のものに酷似し、讃岐産の土を使用した可能性が高いと思われることから、同地域からの搬入品であると言えるであろう。類例には、研究会第22次調査のＳＤ－１から出土した甕（57）が挙げられ、この土器も東四国系とされている（原田2001）。

壺（143）の類例には、『動態Ⅶ』の久宝寺遺跡（その２）Ⅰトレンチ第４－ｃ地区ＳＤ45出土の（263頁図Ⅱ－225　18）が挙げられる（若林他1999）。このほか、センター水処理調査の05272土坑か

ら出土した内傾する頸部から外へ開く口縁部を特徴とする阿波系の広口壺(230頁図212－８)（亀井他2007)も頸部～口縁部の形状が似ている。

甕(145)も器面に施す調整と器形が東四国地域の甕の特徴に似ていることから、讃岐か阿波系と判断できる。

これらから、古墳時代前期の布留式期古相(布留Ⅰ)の讃岐・阿波系の土器は、今回の**２区**が位置する同遺跡西部で比較的多く出土する傾向にあると言えるであろう。

参考文献

・服部文章他　1986『亀井北（その１）』(財)大阪文化財センター
・一瀬和夫他　1987『久宝寺南（その２）』(財)大阪文化財センター
・渚　斎　1991「21.久宝寺遺跡（90－398）の調査」『八尾市内遺跡平成２年度発掘調査報告書Ⅰ』　八尾市文化財調査報告22　八尾市教育委員会
・成海佳子　1992「13. 久宝寺遺跡第９次調査(KH91－９)」『平成３年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
・原田昌則　1993「Ⅱ　久宝寺遺跡(第１次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告37　(財)八尾市文化財調査研究会
・原田昌則　2001『久宝寺遺跡第22次発掘調査報告書』-大阪竜華都市拠点地区区画道路２号線に伴う-(財)八尾市文化財調査研究会報告68　(財)八尾市文化財調査研究会
・若林邦彦　1998「弥生～古墳時代前期の久宝寺遺跡」『大阪の弥生遺跡の検討』平成９年度広域研究活動支援事業活動実績報告書　大阪の弥生遺跡検討会
・若林邦彦他　1999『河内平野遺跡群の動態Ⅶ』(財)大阪府文化財調査研究センター
・西村　歩他　2004『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書　第118集　(財)大阪府文化財センター
・山田隆一　2006「大阪府出土の讃岐・阿波・播磨系の土器」『邪馬台国時代の阿波・讃岐・播磨と大和』ふたかみ邪馬台国シンポジウム６　香芝市教育委員会
・原田昌則　2007『久宝寺遺跡第34次発掘調査報告書』(財)八尾市文化財調査研究会報告96　(財)八尾市文化財調査研究会
・亀井　聡他　2007『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅶ－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他－』　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第156集　財団法人大阪府文化財センター

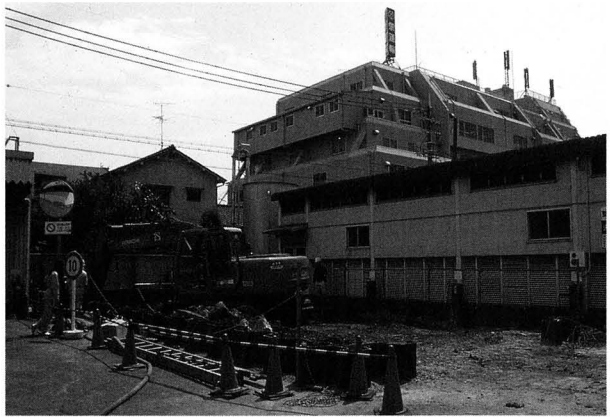
図　版

図版1

１・２区周辺（西から）【中央～左は国鉄竜華操車場跡地　奥は生駒山地】

１区　機械掘削（北西から）

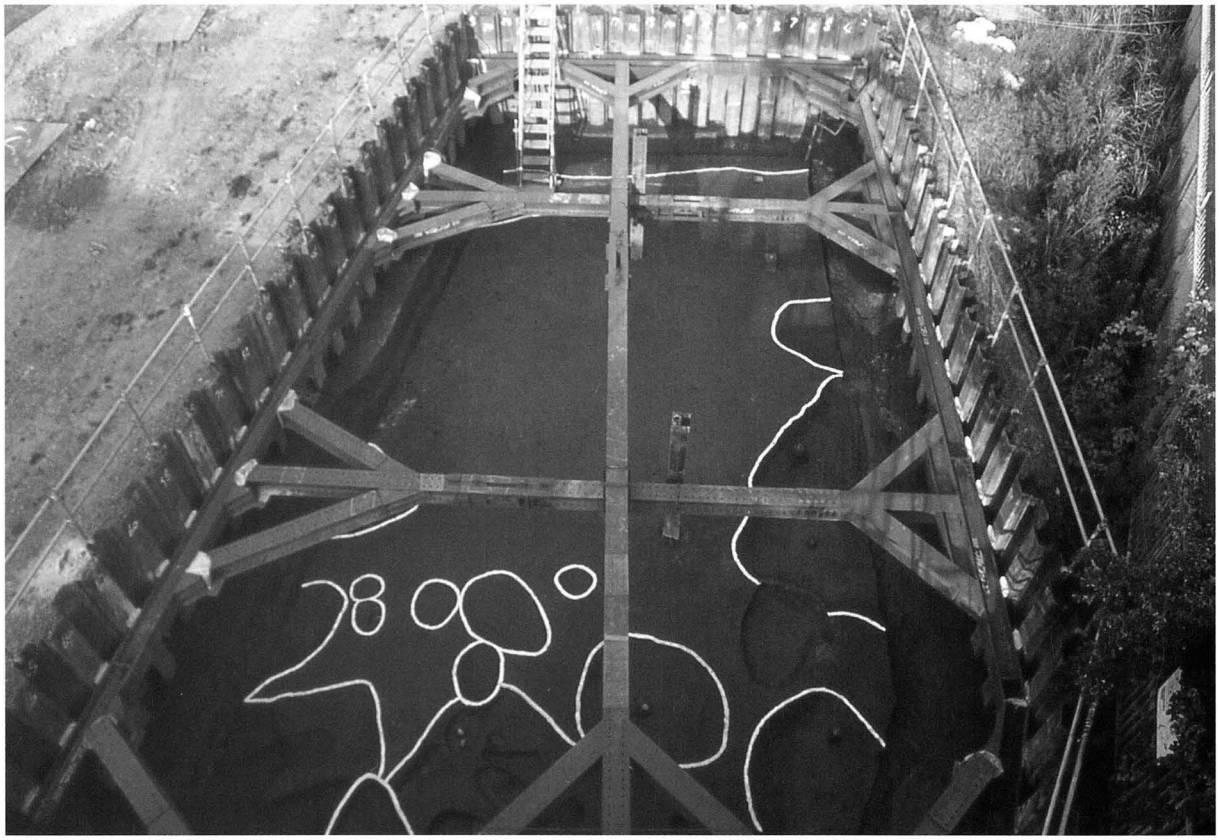
２区　機械掘削（西から）



３区　機械掘削（北東から）

２区　第１面調査状況（西から）

図版2



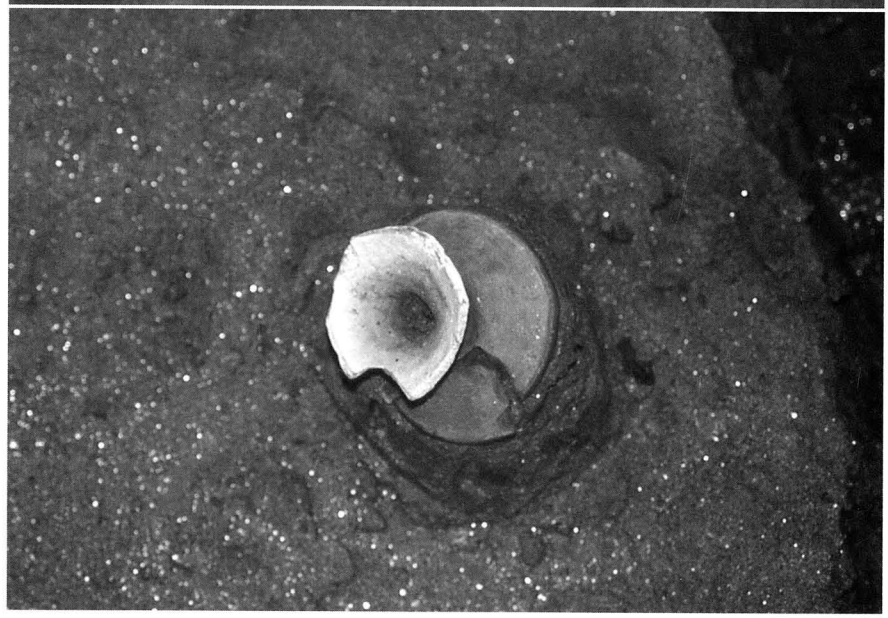
1区　第2面全景(西から)

1区　SI101(北東から)

図版3

1区　SI101
調査状況（南東から）

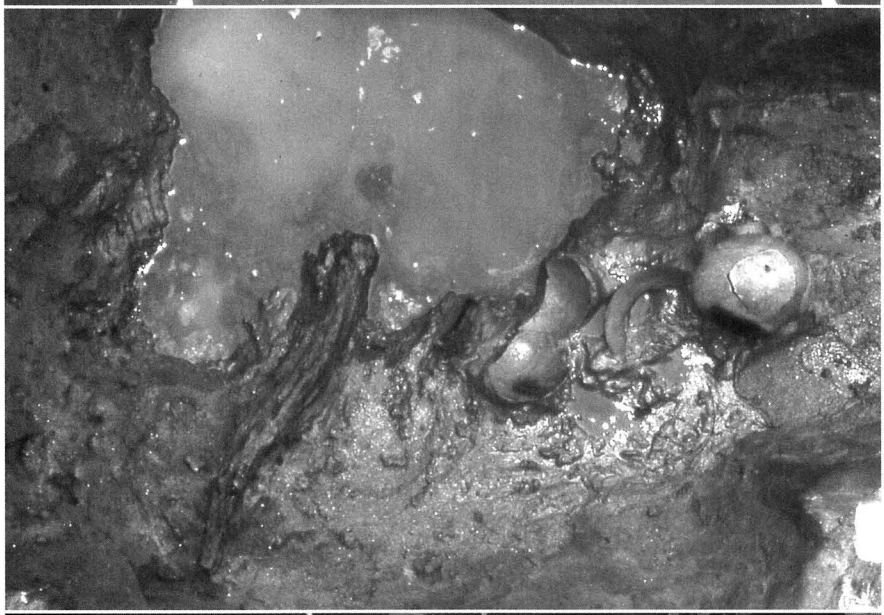
1区　SI101
K－1遺物出土状況（西から）



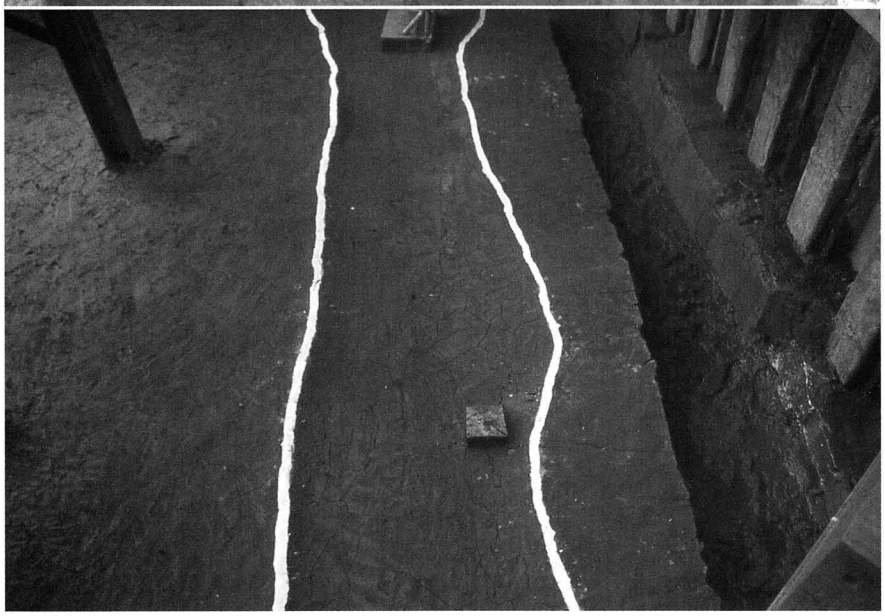
1区　SK103
遺物出土状況（北から）

図版4

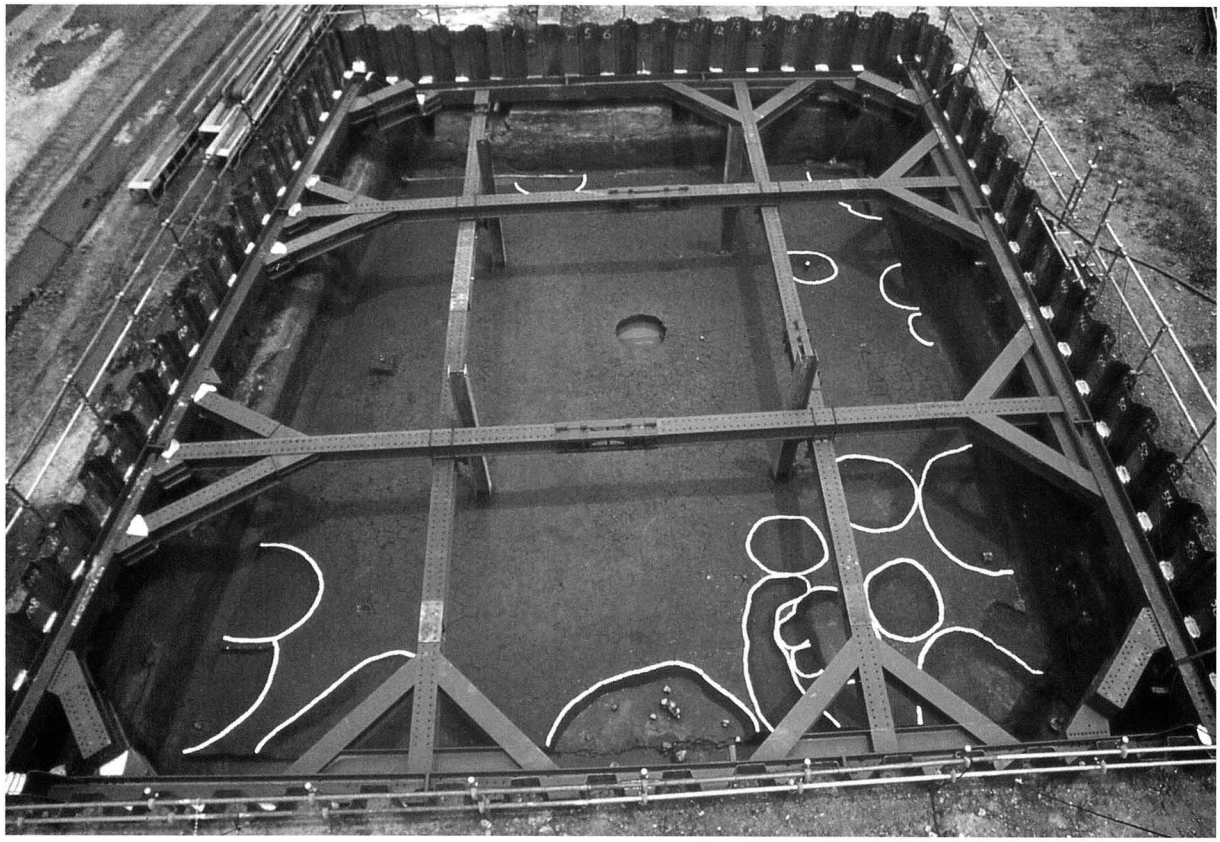
1区　ＳＫ113・114(南東から)



1区　ＳＫ114
遺物出土状況(西から)



1区　ＳＤ101(南から)

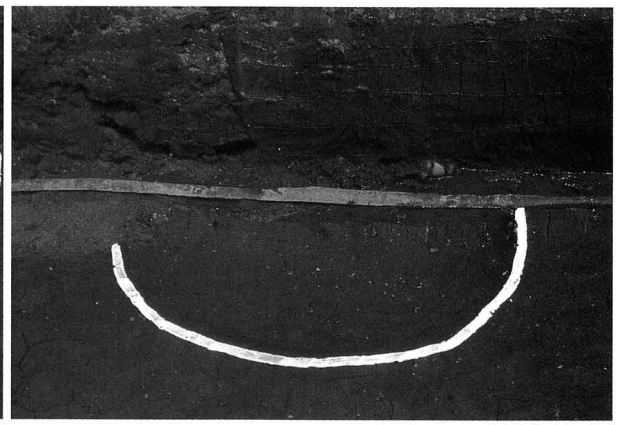


２区　第２面全景（西から）

２区　ＳＫ201（北から）

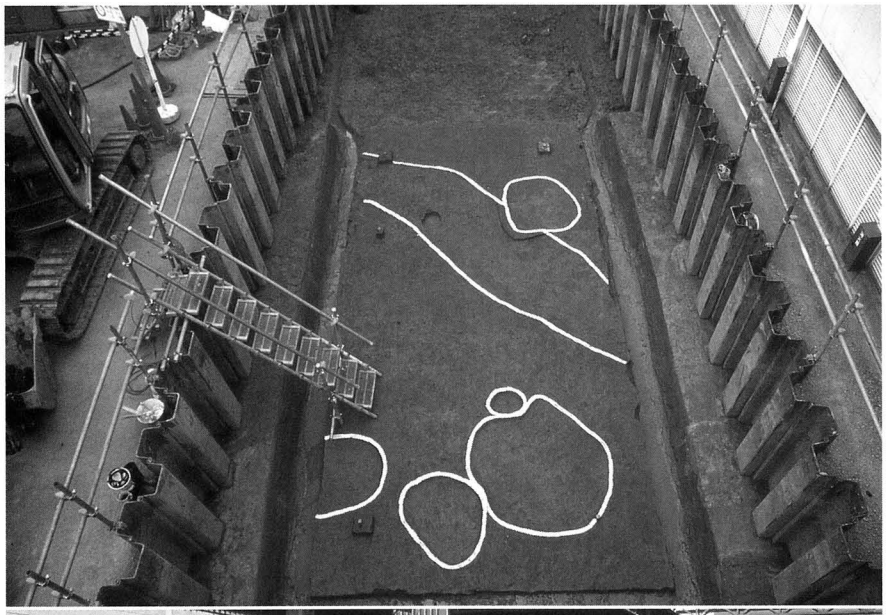
２区　ＳＫ201遺物出土状況（北から）

２区　ＳＫ211（東から）



２区　ＳＫ212（西から）

図版6

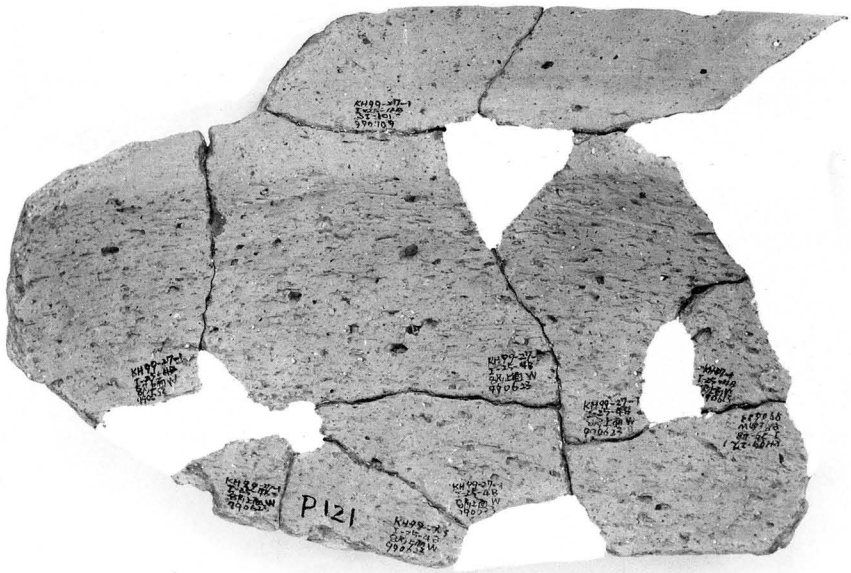


3区　全景（北から）

3区　掘削状況（南東から）

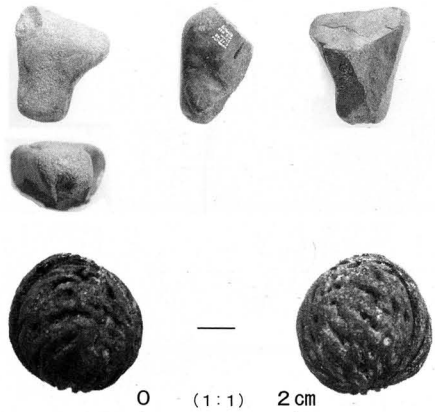
3区　調査状況（南から）

外面



内面
5

1



S 1

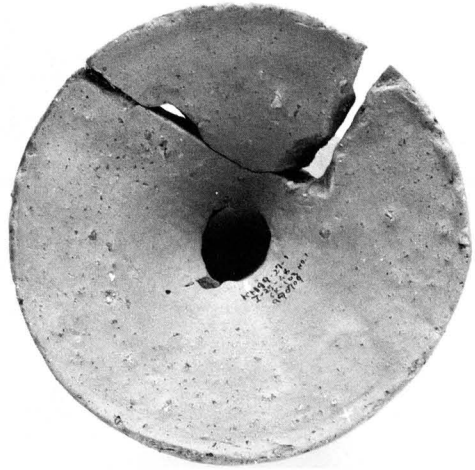
0 (1:1) 2cm

W 1

1区　S I 101(1・5・S 1・W 1)出土遺物

図版8

6



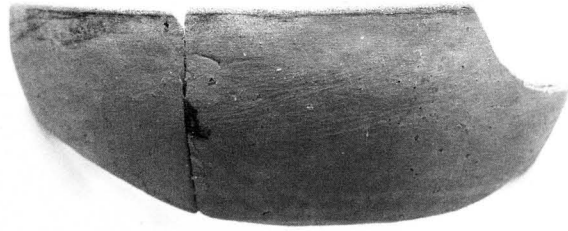
15

18

14

23

25



26

30

1区SK101(6)、1区SK103(14・15)、1区SK104(18)、1区SK109(23・25・26)、1区SK112(30)出土遺物

33

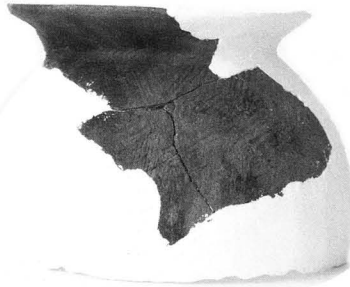
34

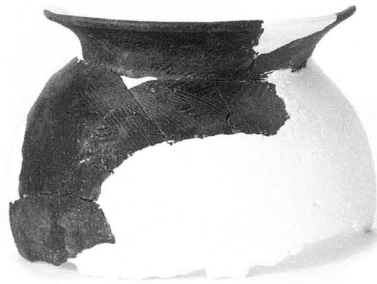
36

35

37

39


40

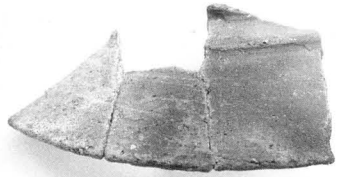

41

42

43

W2

45


47

1区ＳＫ114出土遺物

図版10

50

57

W3－3

W3－4

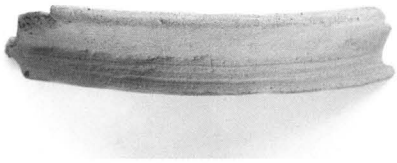
W3－1

0 (1:1) 2cm

W3－2

W3－5

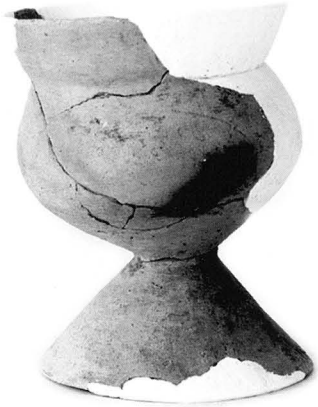
W3－6


60

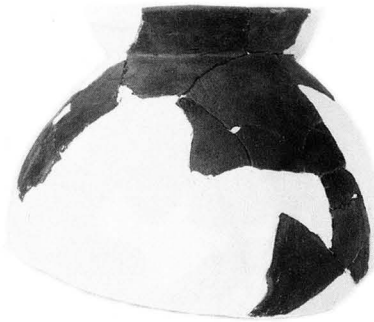
72

90

95


101

102

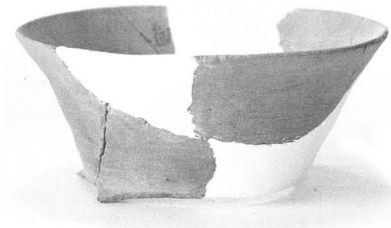

104

106

109

112

１区ＳＤ101(50・57・Ｗ３－１～６)、１区８層(60・72・90・95)、
２区ＳＫ201(98・101・102・104・106・109・112)出土遺物



119

121

124

134

138

131

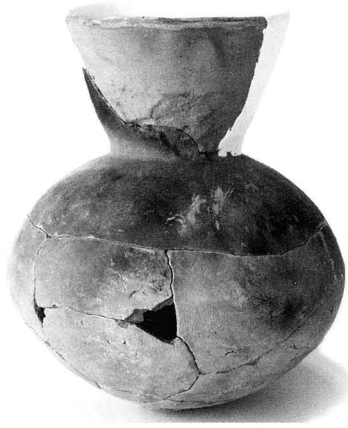
0 (1:1) 2cm

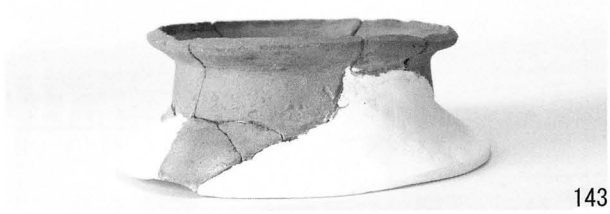
W4

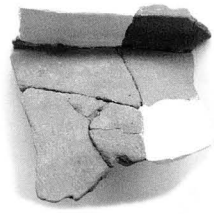
２区ＳＫ205(119・121)、２区ＳＫ207(124)、２区ＳＫ211(131・134・138・Ｗ４)出土遺物

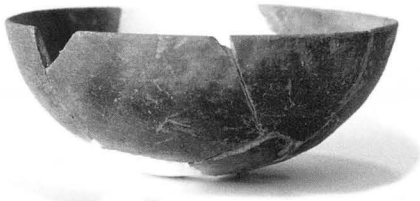
図版12

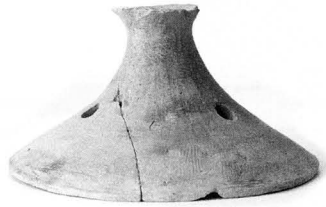
141


142

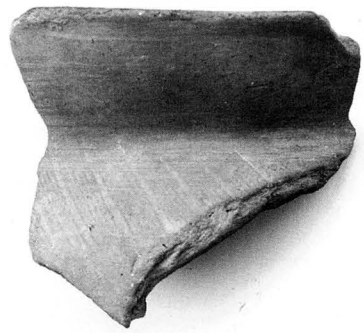

143


145


146


147

149


162

W6－1

W6－2

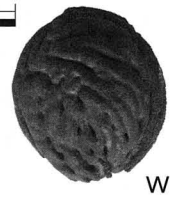
W6－3

W6－4

0 (1:1) 2cm

W6－5

W6－6


W6－7

W6－8

2区SK212(141～143・145～147)、2区SK213(149)、2区SP201(162)、3区3層(W6－1～8)出土遺物

Ⅴ　久宝寺遺跡第59次調査（ＫＨ2004－59）

例　言

1．本書は大阪府八尾市大字亀井940-９(保留地３街区第１画地)で実施した共同住宅建設に伴う久宝寺遺跡第59次発掘調査(ＫＨ2004－59)の発掘調査報告書である。

1．本調査は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が近鉄不動産株式会社から委託を受けて実施したものである。

1．調査は当調査研究会　西村公助が担当した。

1．現地調査は、平成16年８月５日に着手し、同年11月30日に終了した。調査面積は約1539㎡である。

1．現地調査には伊藤静江・岩沢玲子・川村一吉・竹田貴子・村井俊子・村田知子・若林久美子の参加を得た。(敬称略、五十音順)

1．内業整理は下記が参加し、現地調査終了後に着手して平成20年８月31日をもって終了した。(敬称略、五十音順)

遺物実測－市森千恵子・岩沢・中村百合

図面トレース－市森・西村

遺物写真撮影－木村健明・西村

1．本書の執筆及び編集は西村が行った。

本　文　目　次

第１章　はじめに……151

第２章　調査概要……153

　第１節　調査の方法と経過……153

　第２節　層序……154

　第３節　検出遺構と出土遺物……157

第３章　まとめ……187

挿　図　目　次

第１図　調査地周辺図……152
第２図　調査区設定図および地区割図……153
第３図　１・２区地層断面図……155・156
第４図　１区第１面平面図……158
第５図　１区水田101・103、ＳＫ201・204、ＳＤ201出土遺物実測図……159
第６図　１区第２面平面図……160
第７図　１区ＳＫ201平・断面図……161
第８図　１区ＳＤ201遺物出土状況平面図……161
第９図　１区第３面平面図……162
第10図　１区ＳＥ301平・断面図……163
第11図　１区ＳＥ301出土遺物実測図①……163
第12図　１区ＳＥ301出土遺物実測図②……164
第13図　１区ＳＫ304、ＳＤ301・307・308出土遺物実測図……166
第14図　１区ＳＤ308遺物出土状況平面図……166
第15図　１区ＮＲ401、１～３層出土遺物実測図……167
第16図　１区第４面平面図……168
第17図　２区ＳＤ122出土遺物実測図……171
第18図　２区ＳＤ201遺物出土状況平面図……172
第19図　２区第１面平面図……173
第20図　２区第２面平面図……174
第21図　２区ＳＤ201・202・213出土遺物実測図……176
第22図　２区ＳＤ301、ＮＲ401出土遺物実測図……178
第23図　２区第３面平面図……179
第24図　２区第４面平面図……180
第25図　２区ＮＲ601、畦畔701出土遺物実測図……181
第26図　２区第５面～第８面平面図……183
第27図　２区畦畔701、１・２・４層出土遺物実測図……184

表　目　次

表１　１区第１面島畠一覧表……157
表２　１区第１面水田一覧表……157
表３　１区第２面土坑一覧表……161
表４　１区第２面小穴一覧表……161

表５　１区第２面溝一覧表……161
表６　１区第３面土坑構一覧表……165
表７　１区第３面小穴一覧表……165
表８　１区第３面溝一覧表……167
表９　出土遺物観察表（１）……169
表10　出土遺物観察表（２）……170
表11　２区第１面井戸一覧表……172
表12　２区第１面土坑一覧表……172
表13　２区第１面溝一覧表……175
表14　２区第２面土坑一覧表……176
表15　２区第２面小穴一覧表……176
表16　２区第２面溝一覧表……176
表17　２区第３面土坑一覧表……177
表18　２区第３面小穴一覧表……177
表19　２区第３面溝一覧表……178
表20　出土遺物観察表（３）……185
表21　出土遺物観察表（４）……186

図　版　目　次

図版１　調査地周辺（南西から）　調査地周辺（東から）　１区機械掘削（西から）
１区調査状況（南西から）　２区調査状況（南西から）
図版２　１区第１面全景（南から）　１区第２面全景（南から）
図版３　１区第３面全景（南から）　１区第４面全景（南から）
図版４　１区ＳＤ201遺物出土状況（西から）　１区ＳＥ301遺物出土状況（南から）
１区ＳＤ308（西から）　１区ＳＥ301（南から）　１区ＳＤ308遺物出土状況（南西から）
１区ＳＥ301井戸枠検出状況（南から）　１区ＮＲ401（南から）
１区ＳＥ301調査状況（南西から）
図版５　２区第１面全景（西から）　２区第２面全景（西から）
図版６　２区第３面全景（西から）　２区第４面全景（西から）
図版７　２区ＳＤ201（北から）　２区ＳＤ201遺物出土状況（北から）　２区ＳＤ201調査状況（南から）
図版８　２区ＮＲ401（北から）　２区下層トレンチ№６畦畔701検出状況（南から）
２区下層トレンチ№６畦畔701遺物出土状況（北から）
図版９　１区　ＳＤ201、ＳＥ301出土遺物
図版10　１区ＳＫ304、ＳＤ308、２層、３層、２区ＳＤ122、ＳＤ201、ＮＲ401、畦畔701出土遺物

第1章　はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市の西部に位置し、長瀬川と平野川に挟まれた沖積地に立地する。本遺跡は、市内の北西部に存在し、現在の行政区画では、北久宝寺・久宝寺・西久宝寺・南久宝寺・神武町・北亀井町・龍華町・渋川町の東西約1.8km、南北約1.7kmがその範囲である。

本遺跡の発見の契機は、1935年(昭和10年)に八尾市久宝寺五丁目で行われた道路工事中に、弥生～古墳時代の土器および丸木船の残片などが出土したことによる(吉岡1988)。しかしその後、発掘調査は実施されることなく、本遺跡の実態は十分把握できていなかった。

本遺跡における本格的な発掘調査は、本書Ⅰに記載した通り昭和50年代に入ってからである。なかでも(財)大阪府文化財センター(以下センター)が行った近畿自動車道建設に伴う発掘調査(久宝寺遺跡北地区・久宝寺遺跡南地区・亀井北遺跡)では、弥生時代～近代までの夥しい数の遺構および遺物が発見され、集落を営んでいたことが判明した。

この調査以降、本遺跡内では大阪府教育委員会(以下府教委)、センター、八尾市教育委員会(以下市教委)、(財)八尾市文化財調査研究会(以下研究会)によって数多くの発掘調査が行なわれている。以下では、今回の調査地の近隣で行われた主な発掘調査について概略を紹介する。

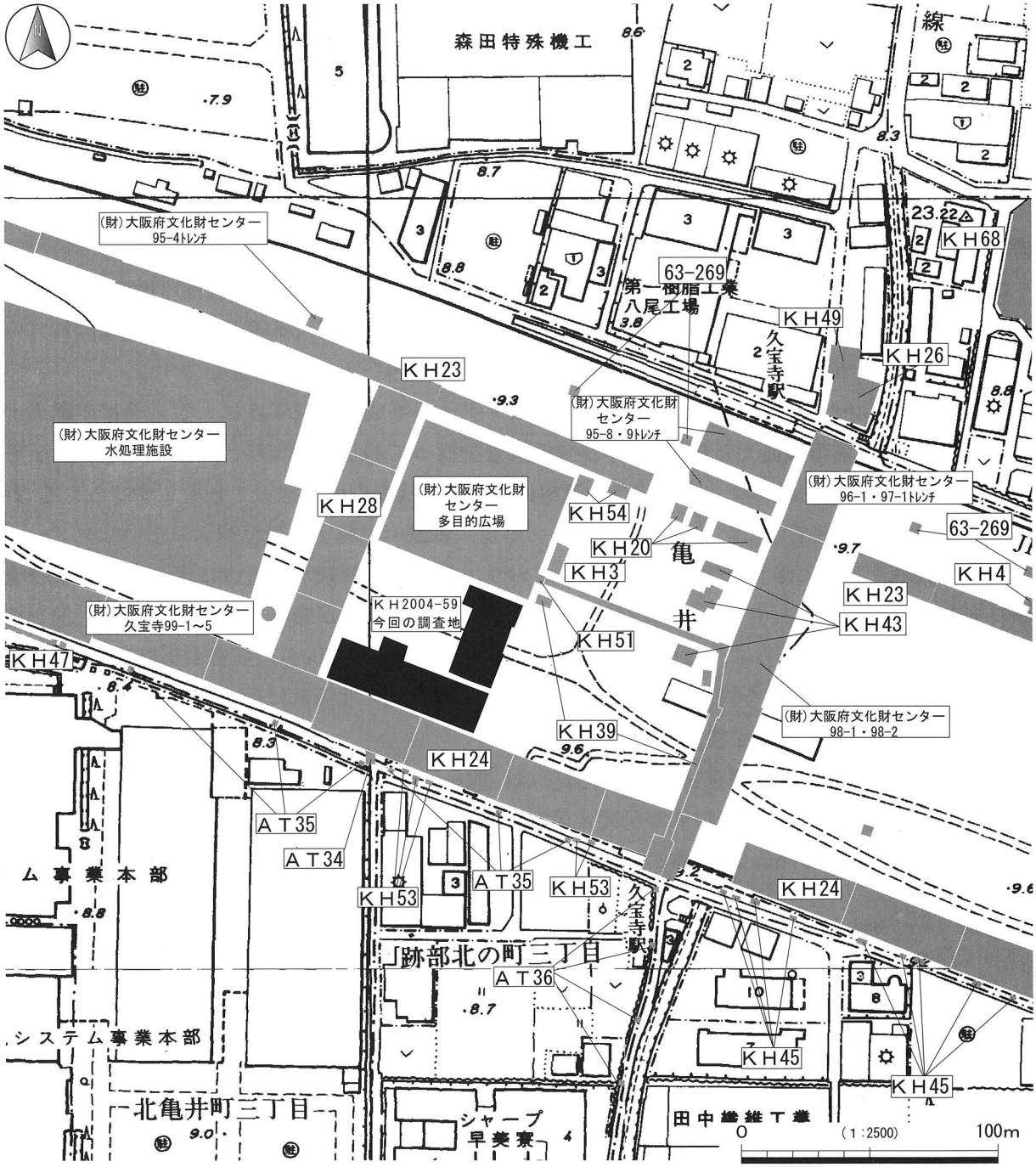
今回の調査地から北西部約30mの地点では、センターが平成12～13年度に大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査を行っており、縄文時代晩期から中世に至る遺構および遺物の検出があり、特筆できる遺構には古墳時代前期の久宝寺1号墳が挙げられる(西村2003)。さらに西部ではセンターが平成12～16年度に寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査を実施しており、縄文時代晩期から近世に至る遺構および遺物の検出が多数あった。中でも古墳時代初頭～前期には、周溝墓が密集して築いている状況を確認した(亀井他2007)。さらに、北西部の研究会第23次調査(原田他2006)、研究会第28次調査(原田他2004)でも同時代の墳墓を検出したことから、今回の調査地の北西部には、古墳時代初頭～前期の墓域が存在している結果を得た。

このほか、研究会第28次調査(原田他2004)では、飛鳥時代、平安時代の遺構を検出している(原田他2004)。さらに南約10mの地点の研究会第24次調査では、古墳時代中期、飛鳥時代、平安時代などの遺構を検出している(原田他2001)。

参考文献

・吉岡哲　　1988『考古編 第三章』『八尾市史(前近代)』本文編　八尾市役所
・寺川史郎他　1987『久宝寺北(その1～3)近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告』(財)大阪文化財センター
・松岡良憲他　1987『久宝寺南（その1）』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
・一瀬和夫他　1987『久宝寺南（その2）』(財)大阪文化財センター
・服部文章他　1986『亀井北（その1）』(財)大阪文化財センター
・奥　和之他　1986『亀井北（その2）』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
・西村　歩他　2003『八尾市亀井地内所在　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅴ』-大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書　第103集　(財)大阪府文化財センター
・原田昌則他　2001『久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線3工区の掘削工事に伴う-』(財)八尾市文化財調査研究会報告69　(財)八尾市文化財調査研究会
・原田昌則他　2004「Ⅰ　久宝寺遺跡(第28次調査)」『久宝寺遺跡　(財)八尾市文化財調査研究会報告77』(財)八尾

市文化財調査研究会
・西村　歩他　2004『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書　第118集　(財)大阪府文化財センター
・原田昌則他　2006「Ⅰ　久宝寺遺跡(第23次調査)」『久宝寺遺跡　(財)八尾市文化財調査研究会報告89』　(財)八尾市文化財調査研究会
・亀井　聡他　2007『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅷ－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他－』　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第156集　財団法人大阪府文化財センター



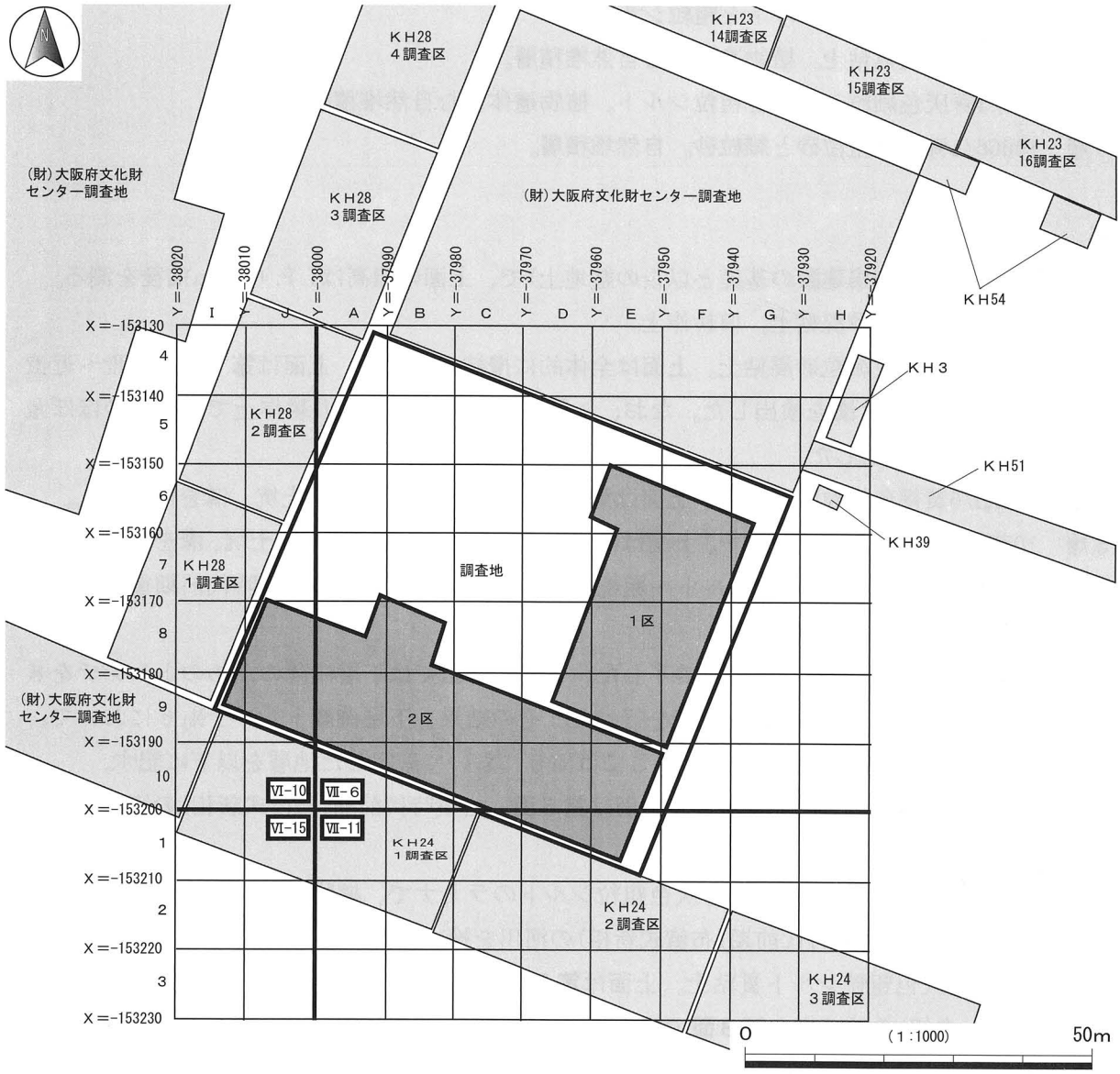
第１図　調査地周辺図

第２章　調査概要

第１節　調査の方法と経過

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴う調査で、当研究会が久宝寺遺跡内で行った第59次調査にあたる。調査区は２箇所で、建物の南北棟を**１区**、東西棟を**２区**と呼称した。調査は**１区**、**２区**の順で行った。今回の調査地での地区割は、八尾都市計画事業大阪竜華都市拠点土地区画整理事業に伴う発掘調査を実施する際に研究会が区割りしたものを使用した。なお地区割りの詳細は研究会報告68(原田2001)を参考されたい。今回の調査地の**１区**はⅦ－６－６～10・D～G地区、**２区**はⅦ－６－８～10・A～E、Ⅶ－11－１・C～E、Ⅵ－10－８～10・Ⅰ～J地区にあたる。

掘削は市教委の埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約1.5m前後までを機械で掘削し、以下約0.4mの厚みの地層を人力で掘削し調査を進め、遺構および遺物の検出に努めた。出土遺物は、コンテナ（縦0.6m×横0.4m×深さ0.2m）20箱を数える。



第２図　調査区設定図および地区割図

第２節　層序

１区

０層　盛土(竜華操車場建設の基礎と以後の整地土)で、上面の標高はT.P.+9.0m前後を測る。

１層　5B3/1暗青灰色細粒砂混粘土。上面は全体的に攪拌を受ける。水田(Ａ～Ｃ層)および島畠(Ⅰ～Ⅵ層)の耕作土で地層の厚さは約0.6～0.7mである。上面は**第１面**。中世～近代の水田、島畠、近世の土坑を検出した。

２層　10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土。上面は**第２面**。飛鳥～平安時代の土坑、溝を検出した。

３層　10YR4/2灰黄褐色細粒シルト。上面は**第３面**。古墳時代中期の井戸、土坑、溝を検出した。

４層　7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト。上面は**第４面**。古墳時代前期新相の河川を検出した。

以上で調査地全体の平面的な調査は終了した。さらに**１区**では下層確認のためのトレンチを１箇所設定し、人力による調査を行った。その結果、遺構の検出および遺物の出土はなかった。ここでは確認した地層を以下に記す。

５層　10YR5/1褐灰色細粒シルトと粗粒シルト

６層　5B4/1暗青灰色粘土。植物遺体含む自然堆積層。

７層　5B5/1青灰色細粒シルトと粗粒シルト。植物遺体含む自然堆積層。

８層　10BG6/1青灰色粗粒砂と細粒砂。自然堆積層。

２区

０層　盛土(竜華操車場建設の基礎と以後の整地土)で、上面の標高はT.P.+9.2m前後を測る。

Ａ層　5Y4/1灰色粗粒砂混粘土。旧耕作土。

１層　5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土。上面は全体的に攪拌を受ける。上面は**第１面**。中世～近世の井戸、土坑、溝を検出した。なお、１層とＡ層の間は島畠の耕作土で調査区のほぼ全域にわたり確認した。

２層　10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土。上面は**第２面**。飛鳥～平安時代の土坑、溝を検出した。

３層　10YR4/2灰黄褐色細粒シルト。上面は**第３面**。古墳時代中期の井戸、土坑、溝を検出した。

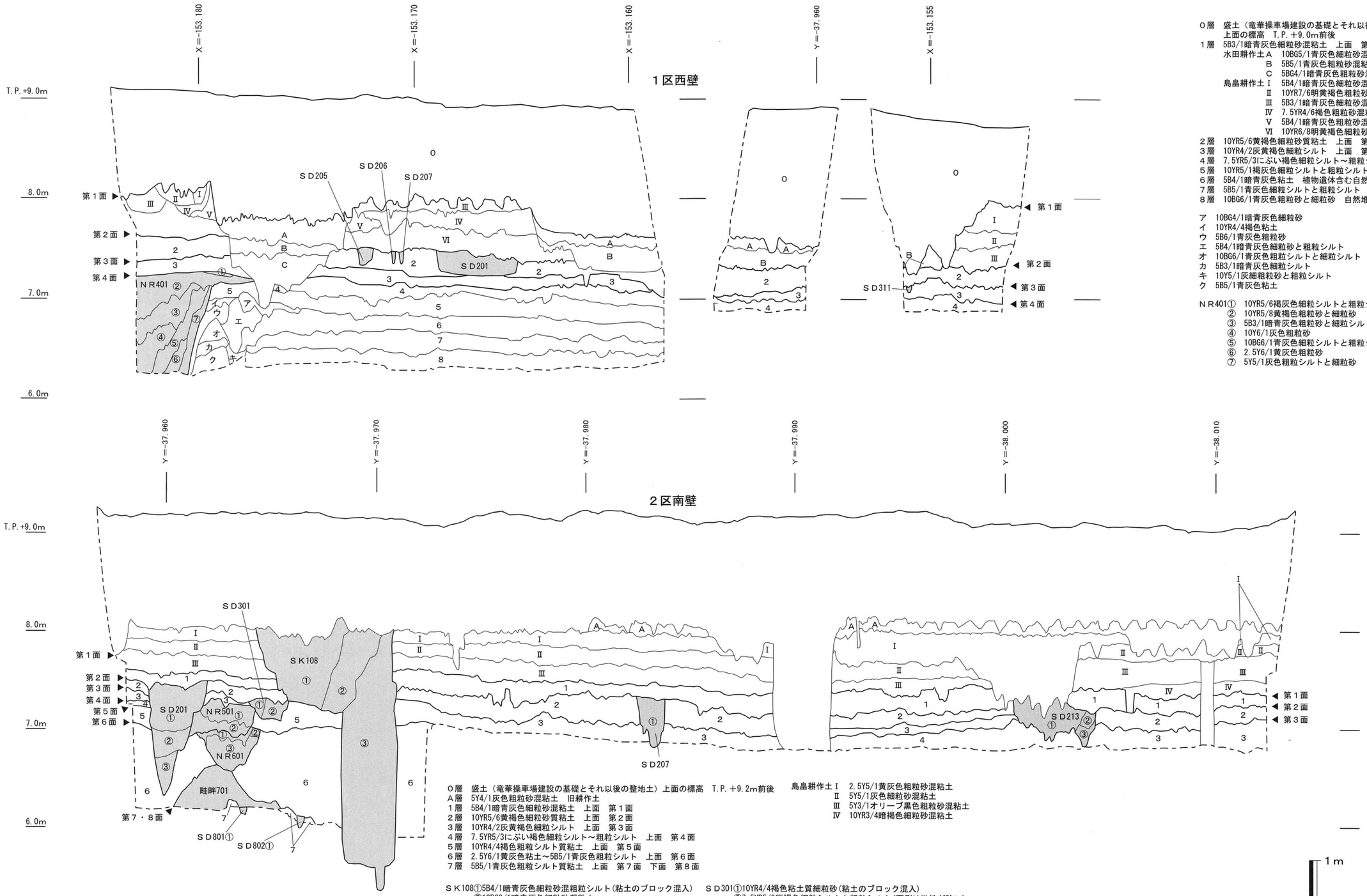
４層　7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト。上面は**第４面**。古墳時代前期後半～中期前半の河川を検出した。

以上で調査地全体の平面的な調査は終了した。さらに**２区**では下層確認のためのトレンチを８箇所(№.１～８)設定し、人力による調査を行った。その結果、下層確認トレンチ№.６において、遺構を４面(**第５面**～**第８面**)検出した。ここでは№.６において確認した地層を以下に記す。

５層　10YR4/4褐色粗粒シルト質粘土。上面は**第５面**。古墳時代前期(布留式新相)の河川を検出した。

６層　2.5Y6/1黄灰色粘土～5B5/1青灰色粗粒シルトのラミナで、植物遺体含む自然堆積層。上面は**第６面**。古墳時代前期(布留式新相)の河川を検出した。

７層　5B5/1青灰色粗粒シルト質粘土。上面は**第７面**と**第８面**。**第７面**では古墳時代前期(布留式古～中相)の畦畔を、**第８面**では古墳時代前期(布留式古相)以前の溝を検出した。



O層　盛土（竜華操車場建設の基礎とそれ以後の整地土）
　　上面の標高　T.P.+9.0m前後
1層　5B3/1暗青灰色細粒砂混粘土　上面　第1面
　　水田耕作土A　10BG5/1青灰色細粒砂混粘土
　　B　5B5/1青灰色粗粒砂混粘土
　　C　5BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土質シルト
　　島畠耕作土Ⅰ　5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土
　　Ⅱ　10YR7/6明黄褐色粗粒砂混粘土
　　Ⅲ　5B3/1暗青灰色細粒砂混粘土
　　Ⅳ　7.5YR4/6褐色粗粒砂混粘土
　　Ⅴ　5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土
　　Ⅵ　10YR6/8明黄褐色細粒砂混粘土
2層　10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土　上面　第2面
3層　10YR4/2灰黄褐色細粒シルト　上面　第3面
4層　7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト　上面　第4面
5層　10YR5/1褐灰色細粒シルトと粗粒シルト
6層　5B4/1暗青灰色粘土　植物遺体含む自然堆積
7層　5B5/1青灰色細粒シルトと粗粒シルト　植物遺体含む自然堆積
8層　10BG6/1青灰色粗粒砂と細粒砂　自然堆積

ア　10BG4/1暗青灰色細粒砂
イ　10YR4/4褐色粘土
ウ　5B6/1青灰色粗粒砂
エ　5B4/1暗青灰色細粒砂と粗粒シルト
オ　10BG6/1青灰色粗粒シルトと細粒シルト
カ　5B3/1暗青灰色細粒シルト
キ　10Y5/1灰細粗粒砂と粗粒シルト
ク　5B5/1青灰色粘土

NR401①　10YR5/6褐灰色細粒シルトと粗粒シルト
　　②　10YR5/8黄褐色粗粒砂と細粒砂
　　③　5B3/1暗青灰色粗粒砂と細粒シルト
　　④　10Y6/1灰色粗粒砂
　　⑤　10BG6/1青灰色細粒シルトと粗粒シルト
　　⑥　2.5Y6/1黄灰色粗粒砂
　　⑦　5Y5/1灰色粗粒シルトと細粒砂

O層　盛土（竜華操車場建設の基礎とそれ以後の整地土）上面の標高　T.P.＋9.2m前後
A層　5Y4/1灰色粗粒砂混粘土　旧耕作土
1層　5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土　上面　第1面
2層　10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土　上面　第2面
3層　10YR4/2灰黄褐色細粒シルト　上面　第3面
4層　7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト　上面　第4面
5層　10YR4/4褐色粗粒シルト質粘土　上面　第5面
6層　2.5Y6/1黄灰色粘土～5B5/1青灰色粗粒シルト　上面　第6面
7層　5B5/1青灰色粗粒シルト質粘土　上面　第7面　下面　第8面

島畠耕作土Ⅰ　2.5Y5/1黄灰色粗粒砂混粘土
　　Ⅱ　5Y5/1灰色細粒砂混粘土
　　Ⅲ　5Y3/1オリーブ黒色粗粒砂混粘土
　　Ⅳ　10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土

SK108①5B4/1暗青灰色細粒砂混粗粒シルト（粘土のブロック混入）
　　②10BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土
　　③10Y4/1灰色粗粒砂混粘土（細粒砂混粘土のブロック混入）
SD201①7.5YR7/6橙色細粒砂混粘土
　　②7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土
　　③10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土
SD207①5Y7/1灰白色細粒砂混粘土
SD213①2.5Y5/3黄褐色細粒シルトと細粒砂
　　②10YR4/6褐色細粒シルトと粗粒シルト
　　③2.5Y5/1黄灰色粗粒砂

SD301①10YR4/4褐色粘土質細粒砂（粘土のブロック混入）
　　②7.5YR5/2灰褐色細粒シルトと粗粒シルト（西側は粘性が強い）
NR501①7.5YR6/2灰褐色粗粒砂と細粒砂
　　②10YR5/2灰黄褐色粗粒砂
NR601①10YR5/8黄褐色細粒砂と粗粒砂
　　②10YR7/1灰白色細粒砂と粗粒シルト
　　③10BG4/1暗青灰色細粒シルトと粗粒シルト
畦畔701①5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土
SD801①N2/0黒色細粒シルト　炭化物を多く含む
SD802①N2/0黒色細粒シルト質粘土　炭化物を多く含む

1m
（1:40）
（1:200）
0
10m
0

第3図　1・2区地層断面図

第３節　検出遺構と出土遺物

１区

１層上面(**第１面**)では、近代の土坑１基(ＳＫ101)、中世～近世の島畠４条(**島畠101～104**)、水田３筆(**水田101～103**)を検出した。２層上面(**第２面**)では、飛鳥時代～平安時代の土坑６基(ＳＫ201～206)・小穴２個(ＳＰ201・202)・溝11条(ＳＤ201～211)、３層上面(**第３面**)では、古墳時代中期の井戸１基(ＳＥ301)・土坑11基(ＳＫ301～311)・小穴19個(ＳＰ301～319)・溝11条(ＳＤ301～311)を、４層上面(**第４面**)で古墳時代前期後半～中期前半の河川１条(ＮＲ401)を検出した。

第１面

ＳＫ101

Ⅶ－６－６・７Ｅ区で検出した。平面形状は南北方向に長い楕円形で、長径1.45m、短径1.1mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.3m測る。中央に方形に木枠を組んでいた。枠内の埋土は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、掘形の埋土は10YR4/4褐色細粒砂混粘土である。土坑内からは近世瓦や陶磁器の破片が出土した。

島畠101～104

島畠は調査区内では東西方向に展開している。島畠の上面はT.P.+7.8～8.0mを測り、水田面からの高さは0.5～0.7mを測る。上面は攪拌を受け、砂やシルトと粘土が混ざった状態であった。検出した各島畠の詳細については表１にまとめた。

水田101～103

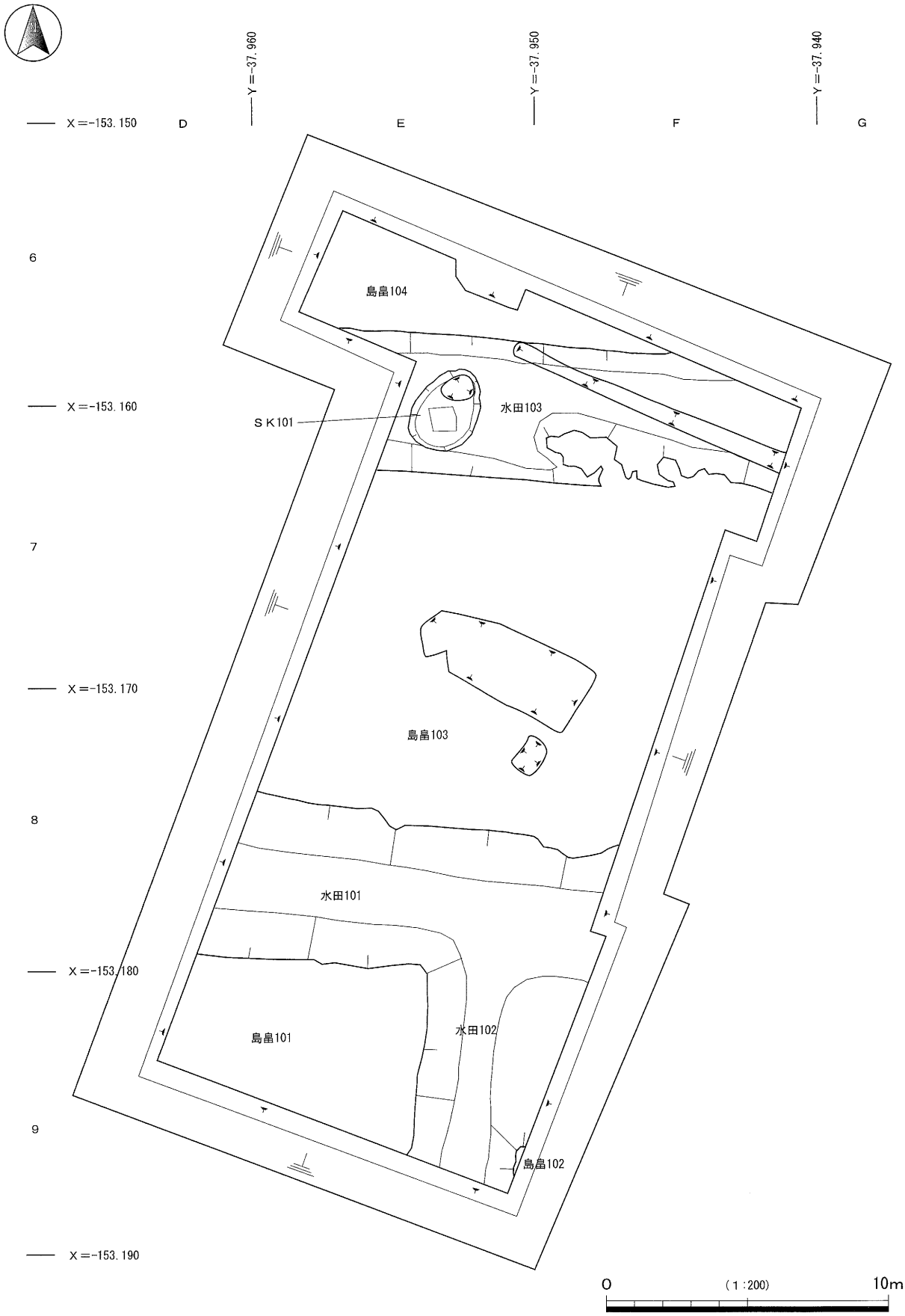
水田上面の標高はT.P.+7.7～7.8mを測る。島畠に挟まれた範囲を水田として耕作していた。**水田101～103**からは中世の土師器および近世の陶磁器や瓦の破片が出土した。このうち図化したものは**水田101**出土の土師器小皿(１)・土錘(２)、**水田103**出土の土師器小皿(３)・瓦器小皿(４)である。なお、検出した各水田の詳細については表２にまとめた。

表１　１区第１面島畠一覧表

遺構番号	地区	平面形状	規模（m）	断面形状	高さ（m）	堆積土
島畠101	Ⅶ-6-8・9D・E	南西部分は調査区外に至る検出した平面形状は東西方向に長い長方形	東西幅9.0以上、南北幅6.7以上	台形	0.6	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠102	Ⅶ-6-9E	南東部分は調査区外に至る南北方向に長い長方形	東西幅0.4以上、南北幅1.0以上	台形	0.7	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠103	Ⅶ-6-7・8E・F	東西両側は調査区外に至る検出した平面形状は東西方向に長い長方形	東西幅14.0以上、南北幅12.5以上	台形	0.5	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠104	Ⅶ-6-6E・F	北西部分は調査区外に至る検出した平面形状は東西方向に長い長方形	東西幅13.0以上、南北幅4.0以上	台形	0.6	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土

表２　１区第１面水田一覧表

遺構番号	地区	平面形状	規模（m）	区画する島畠	耕作土
水田101	Ⅶ-6-8E・F	東西両側は調査区外に至る検出した平面形状は東西方向に長い長方形	東西幅13.0m以上、南北幅4.0m以上	島畠101、島畠102、島畠103	上から10BG5/1青灰色細粒砂混粘土、5B5/1青灰色粗粒砂混粘土　5BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土質シルト
水田102	Ⅶ-6-9E・F	南東は調査区外に至る　検出した平面形状は南北方向に長い長方形	東西幅6.0m以上、南北幅7.0m以上	島畠101、島畠102	上から10BG5/1青灰色細粒砂混粘土、5B5/1青灰色粗粒砂混粘土
水田103	Ⅶ-6-6・7E・F	東西両側は調査区外に至る検出した平面形状は東西方向に長い長方形	東西幅14.0m以上、南北幅5.0m以上	島畠103、島畠104	上から10BG5/1青灰色細粒砂混粘土、5B5/1青灰色粗粒砂混粘土



第４図　１区第１面平面図

第２面

ＳＫ201～204

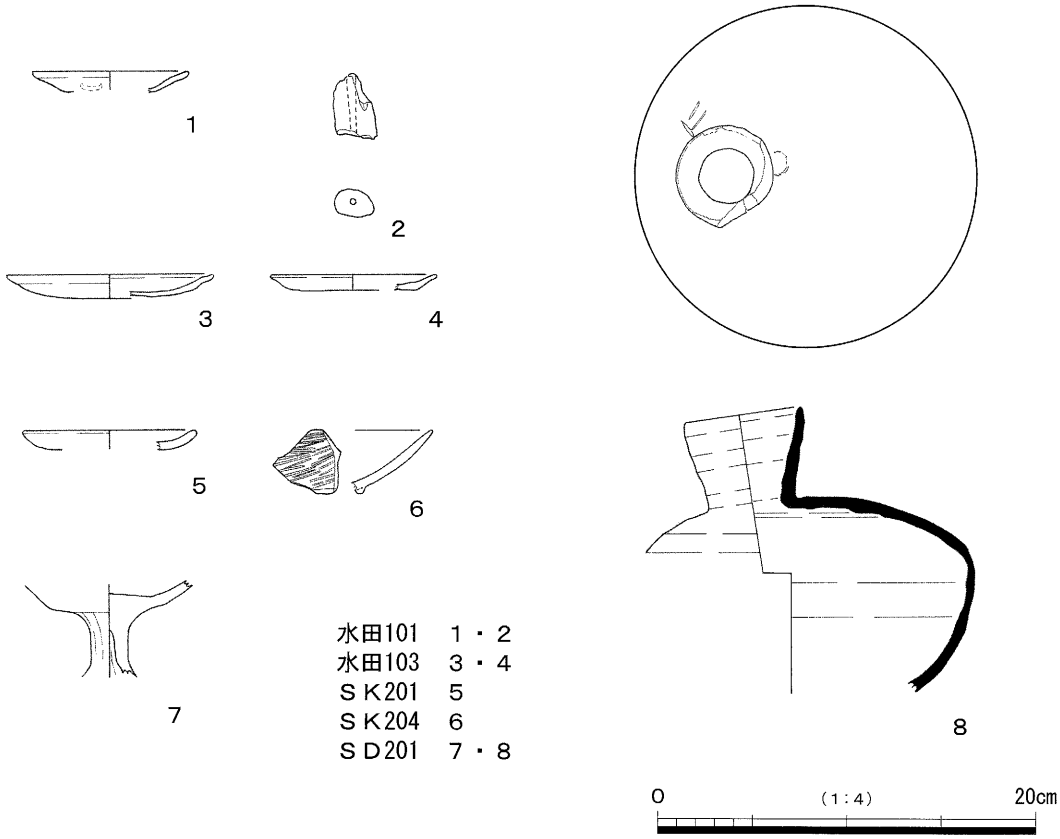
平面形状は楕円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層である。各土坑の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。各土坑内からは土師器や須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはＳＫ201出土の土師器小皿(５)、ＳＫ204出土の黒色土器椀(６)である。なお、検出した各土坑の詳細については表３にまとめた。

ＳＰ201・202

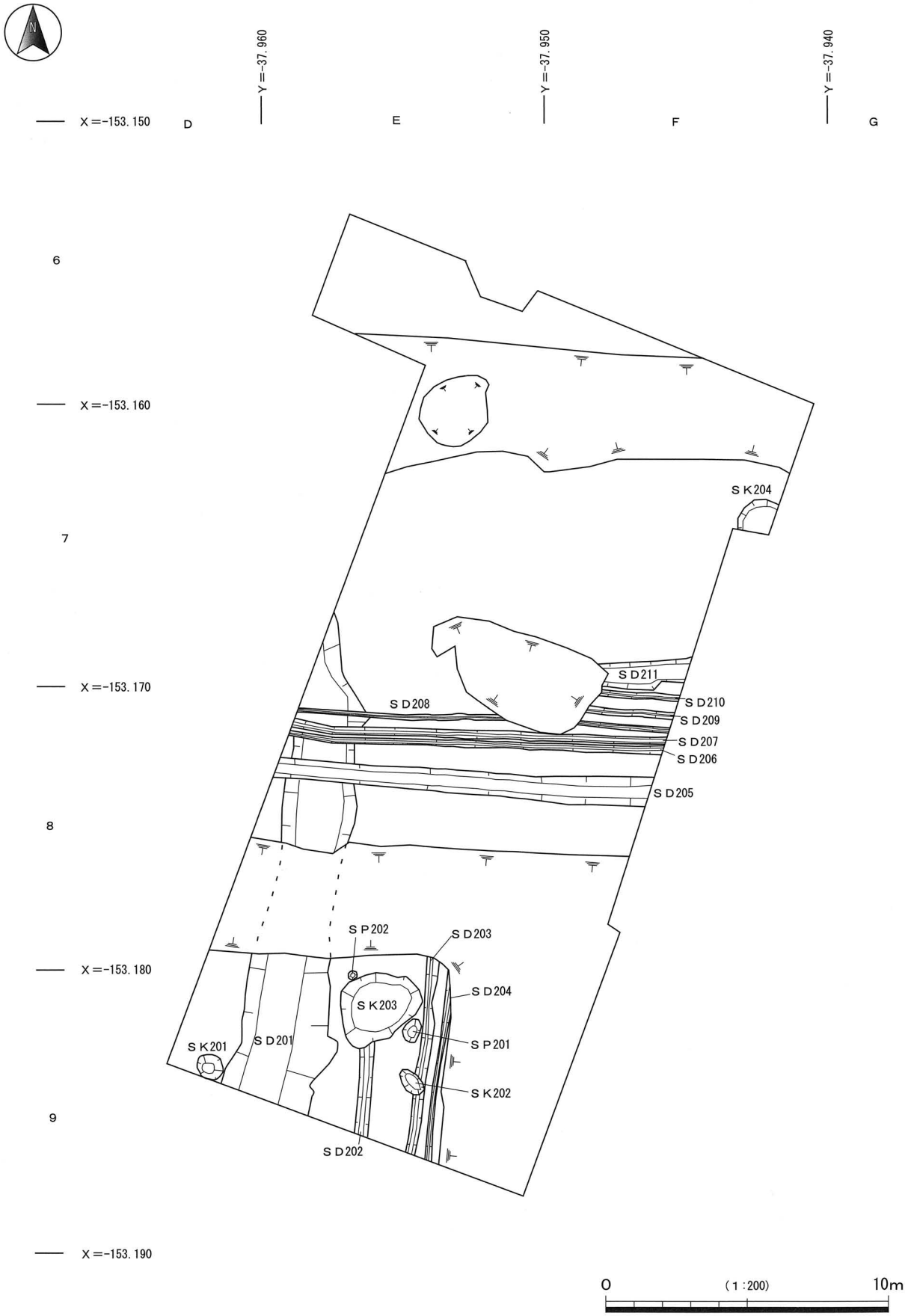
平面形状は楕円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層である。各小穴の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。ＳＰ201からは土師器や須恵器の破片が出土した。なお、検出した各小穴の詳細については表４にまとめた。

ＳＤ201～211

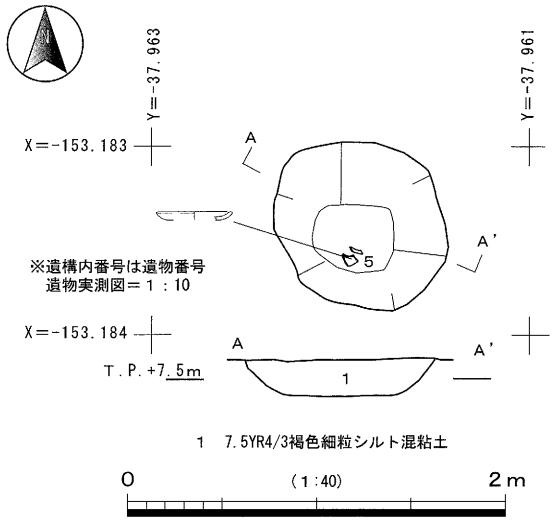
平面形状は南北と東西に直線に伸び、断面形状は逆台形である。埋土はＳＤ201が３層、ＳＤ202～211は単一層である。ＳＤ202～211は形状および規模から耕作に伴う可能性がある。ＳＤ201・205・206からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはＳＤ201出土の土師器高杯(７)、須恵器平瓶(８)である。８は体部上位にヘラ記号がある。飛鳥時代(飛鳥Ⅲ)に比定できる。なお、検出した各溝の詳細については表５にまとめた。



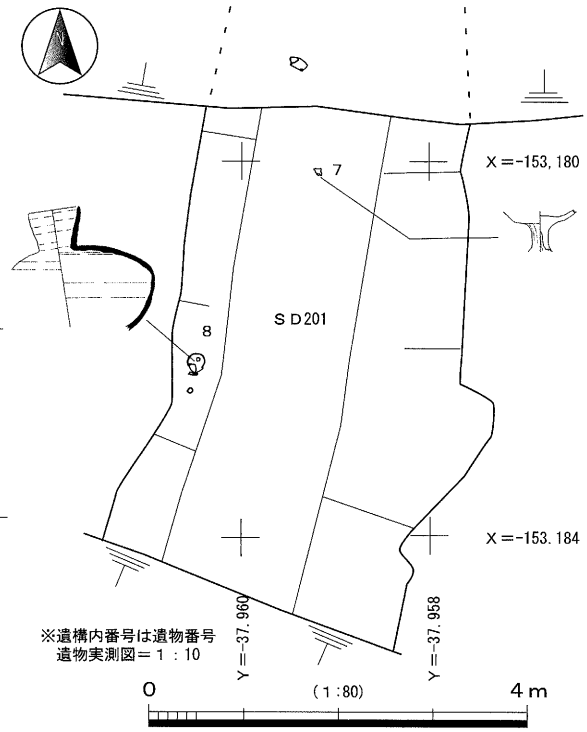
第５図　１区水田101・103、ＳＫ201・204、ＳＤ201出土遺物実測図



第６図　１区第２面平面図



第７図　１区ＳＫ201平・断面図



第８図　１区ＳＤ201遺物出土状況平面図

表３　１区第２面土坑一覧表

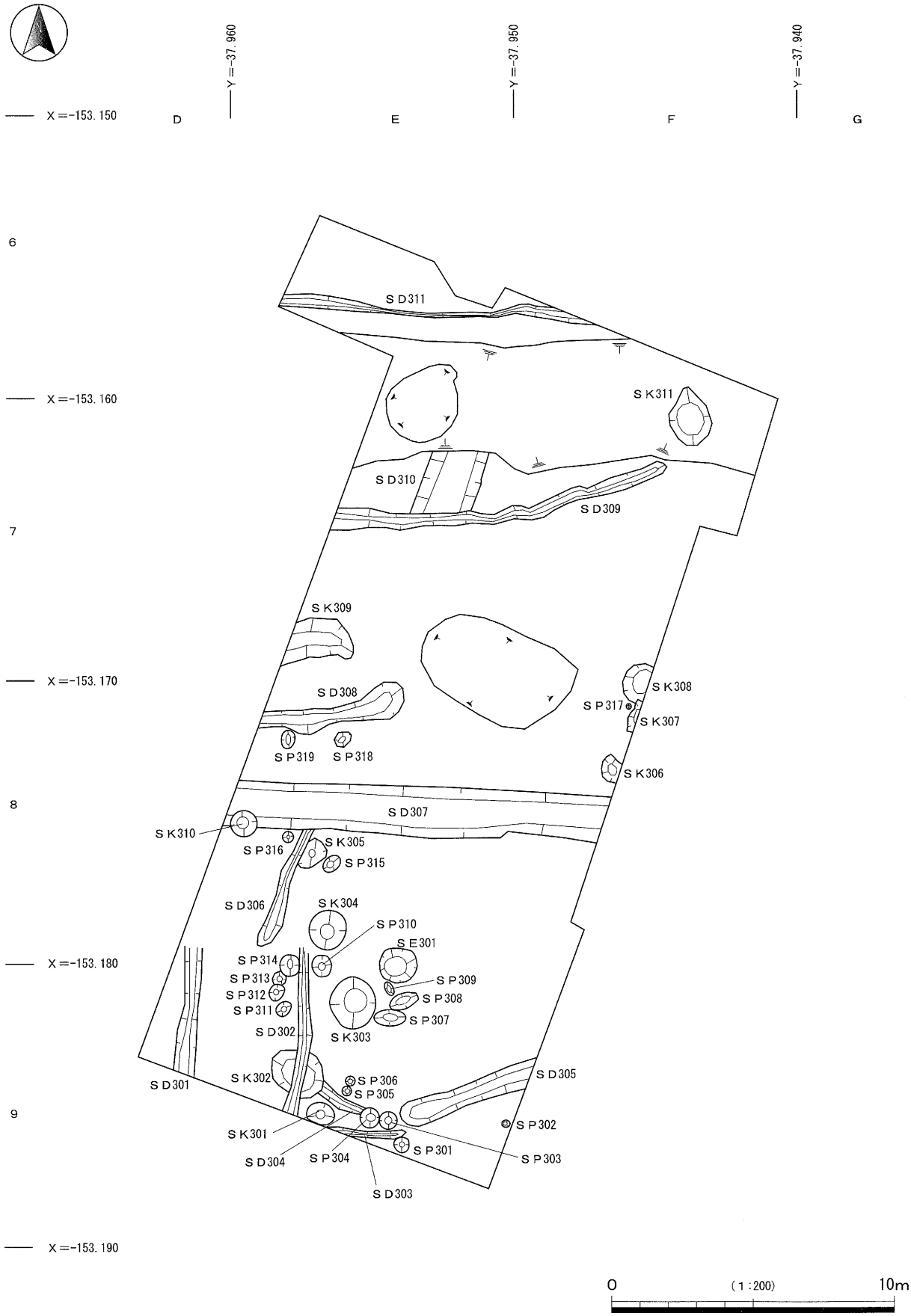
遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＫ201	Ⅶ-6-9D	東西方向に長い楕円形	1.0	0.5	—	逆台形	0.19	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土	土師器
ＳＫ202	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	1.1	0.6	—	逆台形	0.06	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土	土師器・須恵器・瓦
ＳＫ203	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	2.9	2.7	—	逆台形	0.12	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土	土師器・須恵器
ＳＫ204	Ⅶ-6-7F	南東側は調査区外に至る　検出した形状は半円形	—	—	1.2以上	逆台形	0.1以上	10YR4/6褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・黒色土器

表４　１区第２面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＰ201	Ⅶ-6-9E	南北方向に長い楕円形	0.8	0.6	—	逆台形	0.09	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土	土師器・須恵器
ＳＰ202	Ⅶ-6-9E	円形	—	—	0.3	逆台形	0.07	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土	なし

表５　１区第２面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＤ201	Ⅶ-6-8・9D・E	南北方向に直線に伸びる	2.5～3.5	逆台形	0.36	上から7.5YR7/6橙色細粒砂混粘土　7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土　10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ202	Ⅶ-6-9E	南北方向に直線に伸びる。	0.45～0.5	逆台形	0.05	7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ203	Ⅶ-6-8・9E	南北方向に直線に伸びる	0.35～0.4	逆台形	0.12	7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ204	Ⅶ-6-8・9E	南北方向に直線に伸びる	0.2～0.25	逆台形	0.08	7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ205	Ⅶ-6-8E・F	東西方向に直線に伸びる	1.0～1.2	逆台形	0.2	7.5YR5/2灰褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・瓦器等
ＳＤ206	Ⅶ-6-8E・F	東西方向に直線に伸びる	0.35～0.4	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	土師器・瓦器等
ＳＤ207	Ⅶ-6-8E・F	東西方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.05	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
ＳＤ208	Ⅶ-6-8E・F	東西方向に直線に伸びる	0.24	逆台形	0.05	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
ＳＤ209	Ⅶ-6-8F	東西方向に直線に伸びる	0.22	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
ＳＤ210	Ⅶ-6-8F	東西方向に直線に伸びる	0.32	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
ＳＤ211	Ⅶ-6-7・8F	東西方向に直線に伸びる	0.8～1.0	逆台形	0.1	5YR4/6赤褐色粗粒砂混粘土	なし

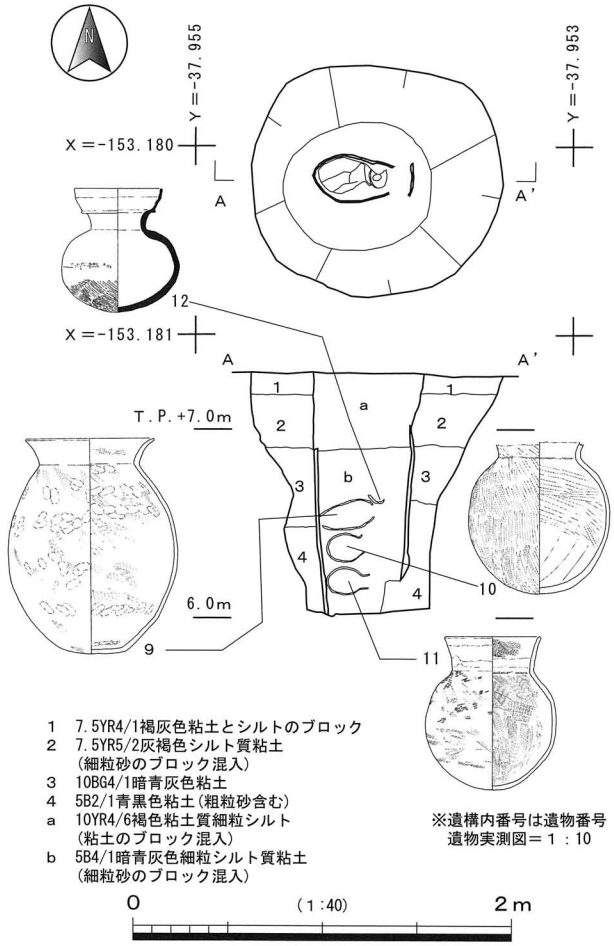


第９図　１区第３面平面図

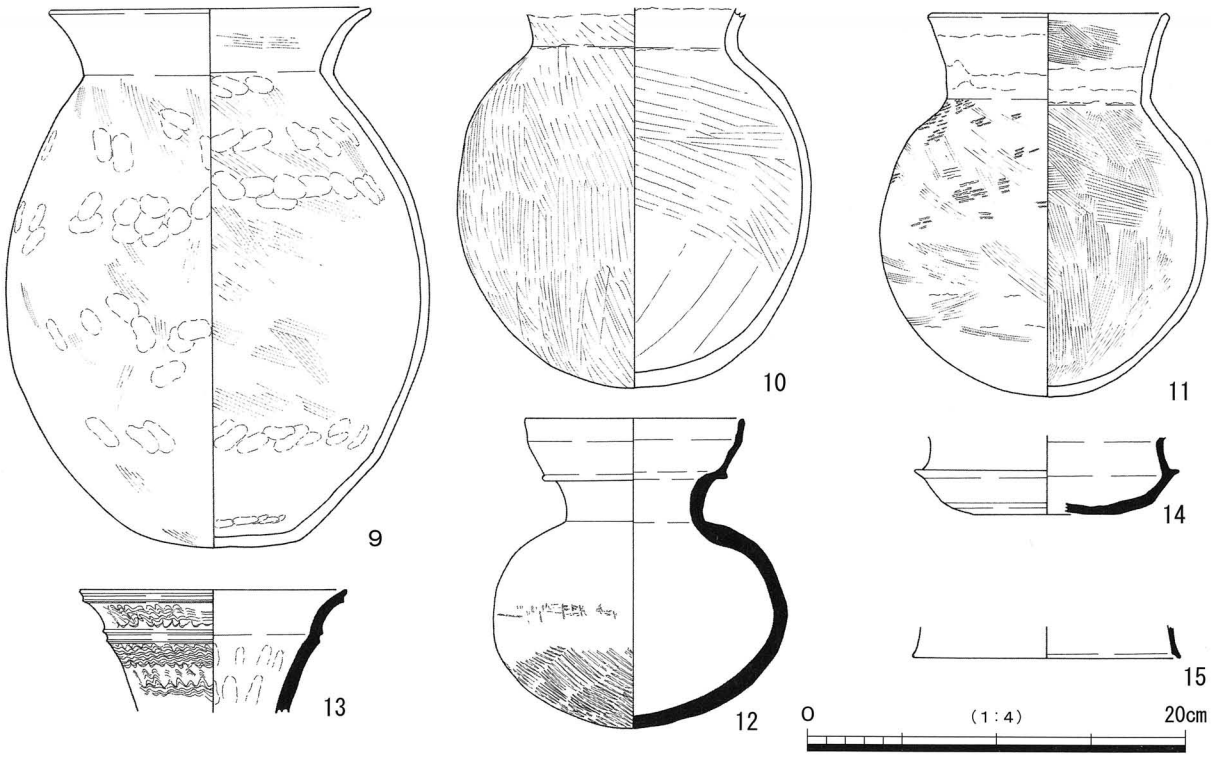
第３面

ＳＥ301

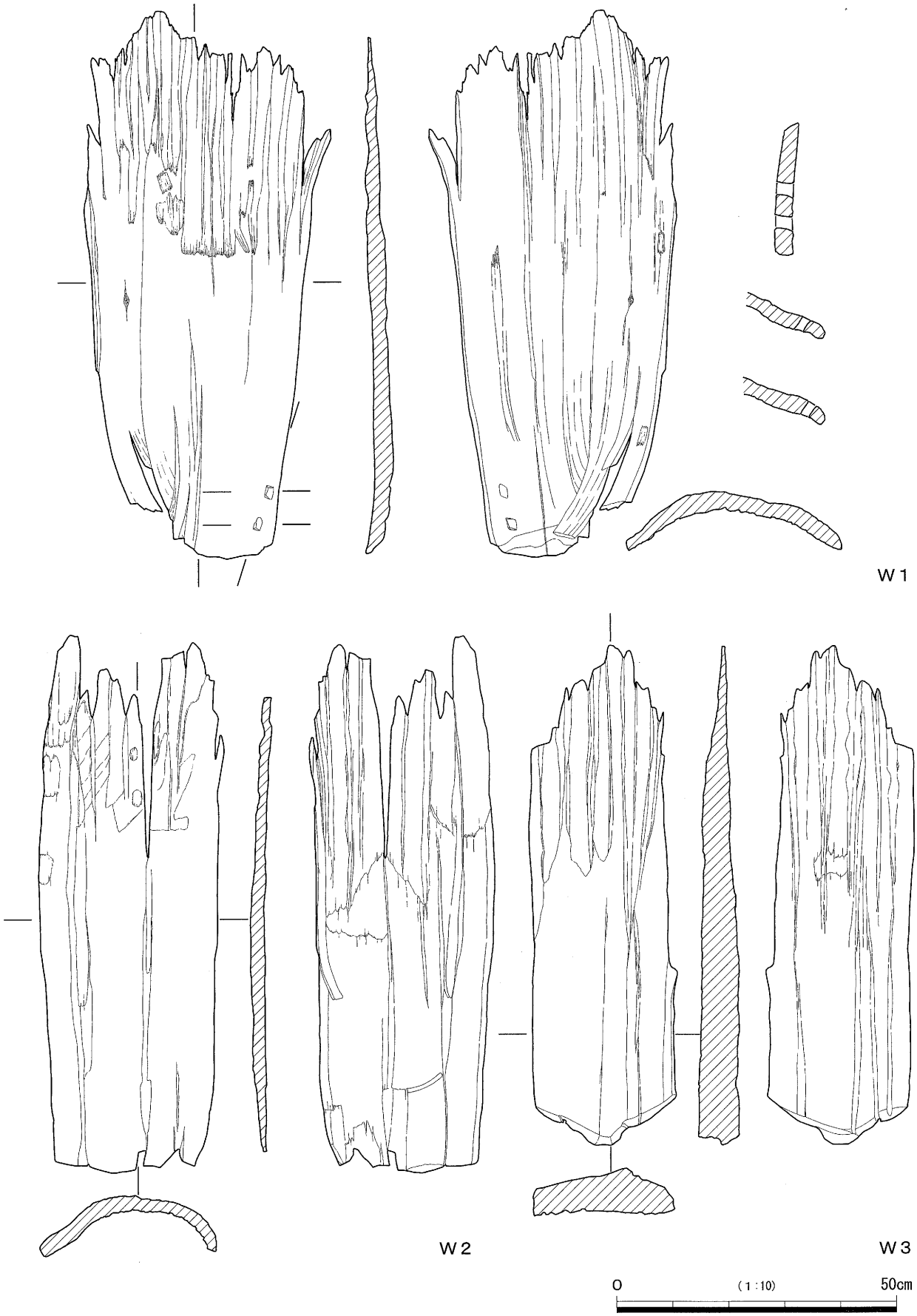
Ⅶ－６－８・９Ｅ地区で検出した。平面形状は東西方向に長い楕円形で、長径1.33m、短径1.22mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約1.3mを測る。検出面から約0.3m下で井戸枠を検出した。井戸枠には木製の板を３枚(Ｗ１～３)使用していた。井戸枠の高さは約1.0mを測る。井戸枠内の埋土は上から10YR4/6褐色粘土質細粒シルト(粘土のブロック混入)、5B4/1暗青灰色細粒シルト質粘土(細粒砂のブロック混入)である。掘形の埋土は上から7.5YR4/1褐灰色粘土とシルトのブロック、7.5YR5/2灰褐色シルト質粘土(細粒砂のブロック混入)、10BG4/1暗青灰色粘土、5B2/1青黒色粘土(粗粒砂含む)である。井戸枠内からは須恵器の壺や土師器の甕などが出土した。このうち図化したものは土師器甕(９～11)、須恵器壺(12・13)・須恵器杯身(14)・須恵器杯蓋(15)、木製板材(Ｗ１～３)である。９～11は井戸枠内のほぼ中央に横向きで積重なった状態で出土した。



第10図　１区ＳＥ301 平・断面図



第11図　１区ＳＥ301 出土遺物実測図①



第12図　１区ＳＥ301出土遺物実測図②

表6　1区第3面土坑一覧表

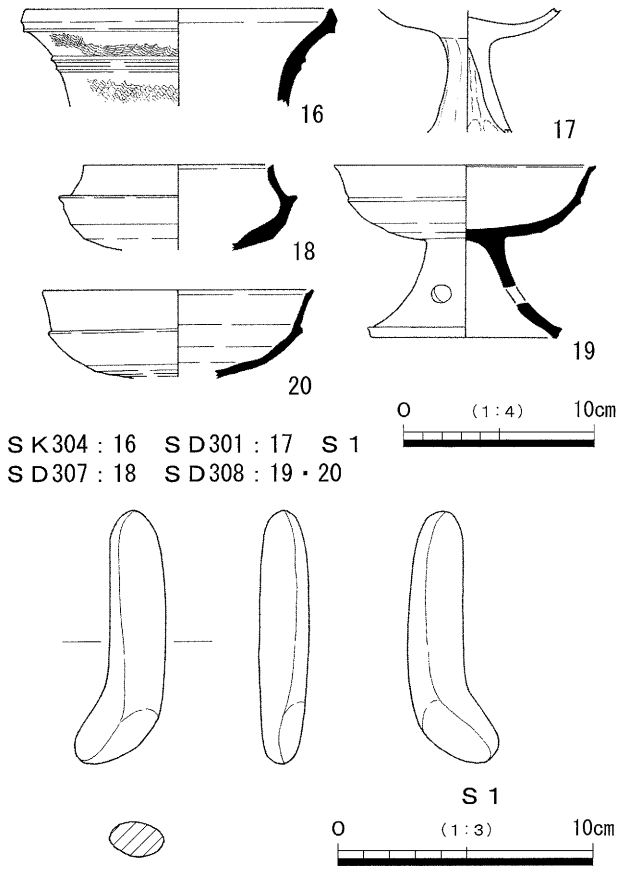
遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
SK301	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	1.05	0.8		逆台形	0.11	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SK302	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	1.9	1.6		逆台形	0.12	2.5Y5/1黄灰色粗粒砂混粘土	なし
SK303	Ⅶ-6-9E	円形			1.75	逆台形	0.2	10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
SK304	Ⅶ-6-8E	円形			1.3	逆台形	0.19	10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
SK305	Ⅶ-6-8E	南北方向に長い楕円形　SD330に切られる	1.1	0.8		逆台形	0.11	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	土師器
SK306	Ⅶ-6-8F	南北方向に長い楕円形	1.0	0.75		逆台形	0.12	2.5Y4/1黄灰色粗粒砂混粘土	なし
SK307	Ⅶ-6-8F	南北方向に長い楕円形　SK326を切る	1.2	0.7		逆台形	0.05	2.5Y4/1黄灰色粗粒砂混粘土	なし
SK308	Ⅶ-6-7・8F	南北方向に長い楕円形　SK324に切られる	1.5	1.2		逆台形	0.04	2.5Y3/2黒褐色粗粒砂混粘土	なし
SK309	Ⅶ-6-7E	東西方向に長い楕円形	2.6	1.3		逆台形	0.26	10YR4/6褐色粗粒シルト混粘土	土師器・須恵器
SK310	Ⅶ-6-8D・E	円形　SD307を切る			1.0	逆台形	0.13	5Y4/1灰色粗粒シルト混粘土	土師器
SK311	Ⅶ-6-7F	南北方向に長い楕円形	2.1	1.5		逆台形	0.12	5Y5/1灰色細粒砂混粘土	なし

表7　1区第3面小穴一覧表

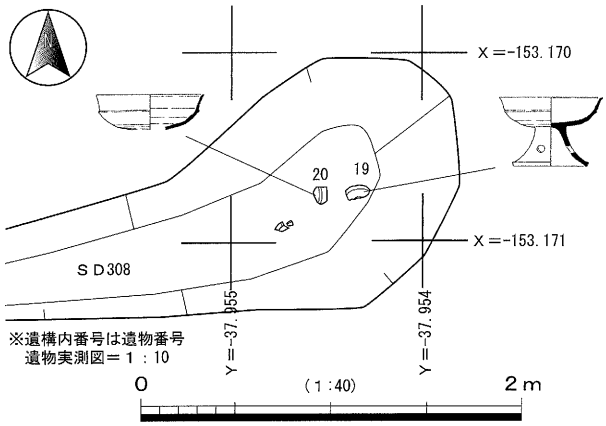
遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
SP301	Ⅶ-6-9E	円形			0.5m	逆台形	0.1	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP302	Ⅶ-6-9E	円形			0.2	逆台形	0.05	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP303	Ⅶ-6-9E	円形			0.6	逆台形	0.1	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP304	Ⅶ-6-9E	円形　SD304を切る			0.65	逆台形	0.13	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP305	Ⅶ-6-9E	円形			0.4	逆台形	0.06	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP306	Ⅶ-6-9E	円形			0.3	逆台形	0.07	10YR5/6黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのブロック混入	なし
SP307	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	0.93	0.6		逆台形	0.06	2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂混粘土	土師器
SP308	Ⅶ-6-9E	東西方向に長い楕円形	0.95	0.6		逆台形	0.07	2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂混粘土	なし
SP309	Ⅶ-6-9E	南北方向に長い楕円形	0.5	0.37		逆台形	0.15	2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂混粘土	なし
SP310	Ⅶ-6-8・9E	円形			0.7	逆台形	0.1	10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
SP311	Ⅶ-6-9E	円形			0.45	逆台形	0.05	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	なし
SP312	Ⅶ-6-9E	円形　SK318を切る			0.55	逆台形	0.07	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	なし
SP313	Ⅶ-6-9E	円形　SK317とSK319に切られる			0.45	逆台形	0.08	2.5Y5/4黄褐色粗粒シルト混粘土	なし
SP314	Ⅶ-6-8・9E	円形　SK318を切る			0.75	逆台形	0.08	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	なし
SP315	Ⅶ-6-8E	南北方向に長い楕円形	0.7	0.5		逆台形	0.11	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	なし
SP316	Ⅶ-6-8E	円形			0.35	逆台形	0.13	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	土師器
SP317	Ⅶ-6-8F	円形			0.36	逆台形	0.05	2.5Y4/1黄灰色粗粒砂混粘土	なし
SP318	Ⅶ-6-8E	南北方向に長い楕円形	0.6	0.4		逆台形	0.09	10YR7/1灰白色細粒砂混粘土	なし
SP319	Ⅶ-6-8E	南北方向に長い楕円形	0.6	0.47		逆台形	0.05	10YR7/1灰白色細粒砂混粘土	なし

出土遺物から遺構の時期は5世紀中頃に比定できる。9～11の体部外面には煤が、内面には焦げが付着しており、付着状況から、浮き置きで煮炊きしている可能性が高い。また、体部外面の上位には側面からの加熱の痕跡が見られる[註1]。

註1　9～11の表面観察においては、北陸学院大学小林正史教授からご教示いただいた。記して感謝いたします。



第13図　１区ＳＫ304、ＳＤ301・307・308出土遺物実測図



第14図　１区ＳＤ308遺物出土状況平面図

ＳＫ301～311

平面形状は楕円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層である。各土坑の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。ＳＫ303～305・309・310からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはＳＫ304出土の須恵器壺(16)である。なお、検出した各土坑の詳細については表６にまとめた。

ＳＰ301～319

平面形状は楕円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層で、深さ0.05～0.13mと浅い。各小穴はⅦ－６－８Ｅ地区以南で検出したが、建物などを構成する柱はなく、検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。ＳＰ301～303・307・308・313・314・316からは土師器および須恵器の破片が出土したが、図化できるものはなかった。なお、検出した各小穴の詳細については表７にまとめた。

ＳＤ301～311

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがあり、断面形状は逆台形である。埋土は全てが単一層である。ＳＤ307は深さ0.3mと比較的深く、この溝から南部に井戸、土坑、小穴が多く存在しており、居住域を区画する溝の可能性がある。ＳＤ301・305・307～311からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはＳＤ301出土の土師器高杯(17)、石製品(Ｓ１)、ＳＤ307出土の須恵器杯身(18)、ＳＤ308出土の須恵器高杯(19・20)である。なお、検出した各土坑の詳細については表８にまとめた。

表８　１区第３面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＤ301	Ⅶ-6-8・9D	南北方向に直線に伸びる	0.5～0.7	逆台形	0.15	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・石
ＳＤ302	Ⅶ-6-8・9E	南北方向に直線に伸びる ＳＫ308を切る	0.3～0.4	逆台形	0.11	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ303	Ⅶ-6-9E	東西方向に直線に伸びる	0.25	逆台形	0.06	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ304	Ⅶ-6-9E	東西方向に直線に伸びる ＳＫ304とＳＫ308に切られる	0.3	逆台形	0.1	7.5YR5/1褐灰色細粒シルト混粘土	なし
ＳＤ305	Ⅶ-6-9E・F	東西方向に直線に伸びる	0.8	逆台形	0.13	5Y4/1灰色細粒シルト混粘土	土師器
ＳＤ306	Ⅶ-6-8E	南北方向に直線に伸びる ＳＤ307に切られる	0.4～0.6	逆台形	0.11	10BG3/1暗青灰色細粒シルト混粘土	なし
ＳＤ307	Ⅶ-6-8D～F	東西方向に直線に伸びる	1.5～1.7	逆台形	0.3	2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ308	Ⅶ-6-8E	東西方向に直線に伸びる	0.5～0.9	逆台形	0.12	7.5YR6/1褐灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ309	Ⅶ-6-7E・F	東西方向に蛇行して伸びる	0.6	逆台形	0.09	5Y5/1灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ310	Ⅶ-6-7E	南北方向に直線に伸びる	1.9	逆台形	0.14	10YR4/6褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ311	Ⅶ-6-6E・F	東西方向に蛇行して伸びる	0.1～0.5	逆台形	0.1	5Y5/1灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器

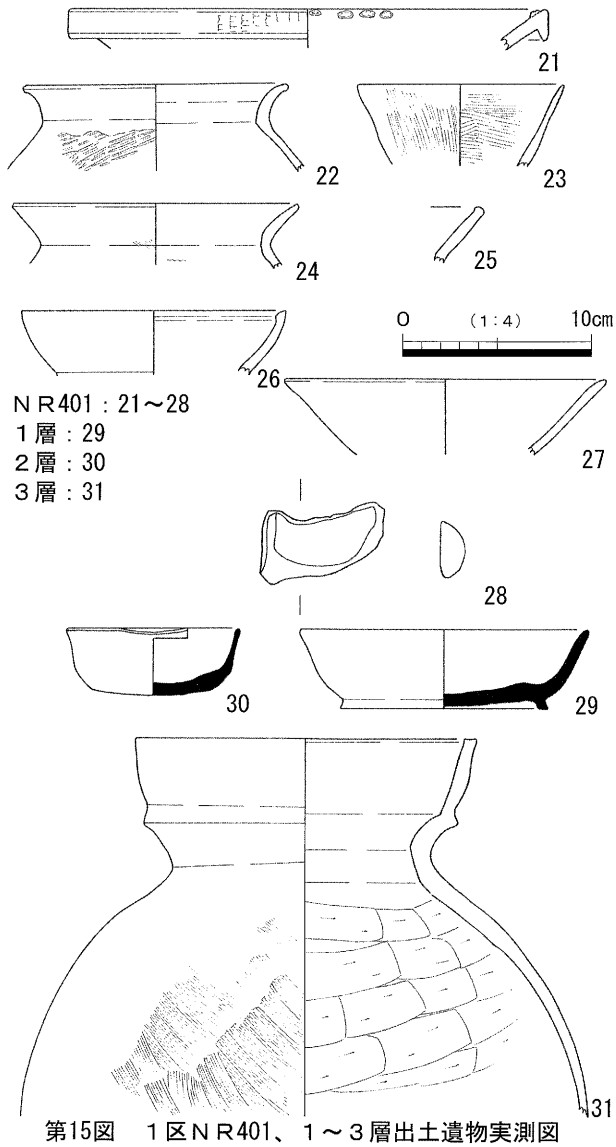
第４面

ＮＲ401

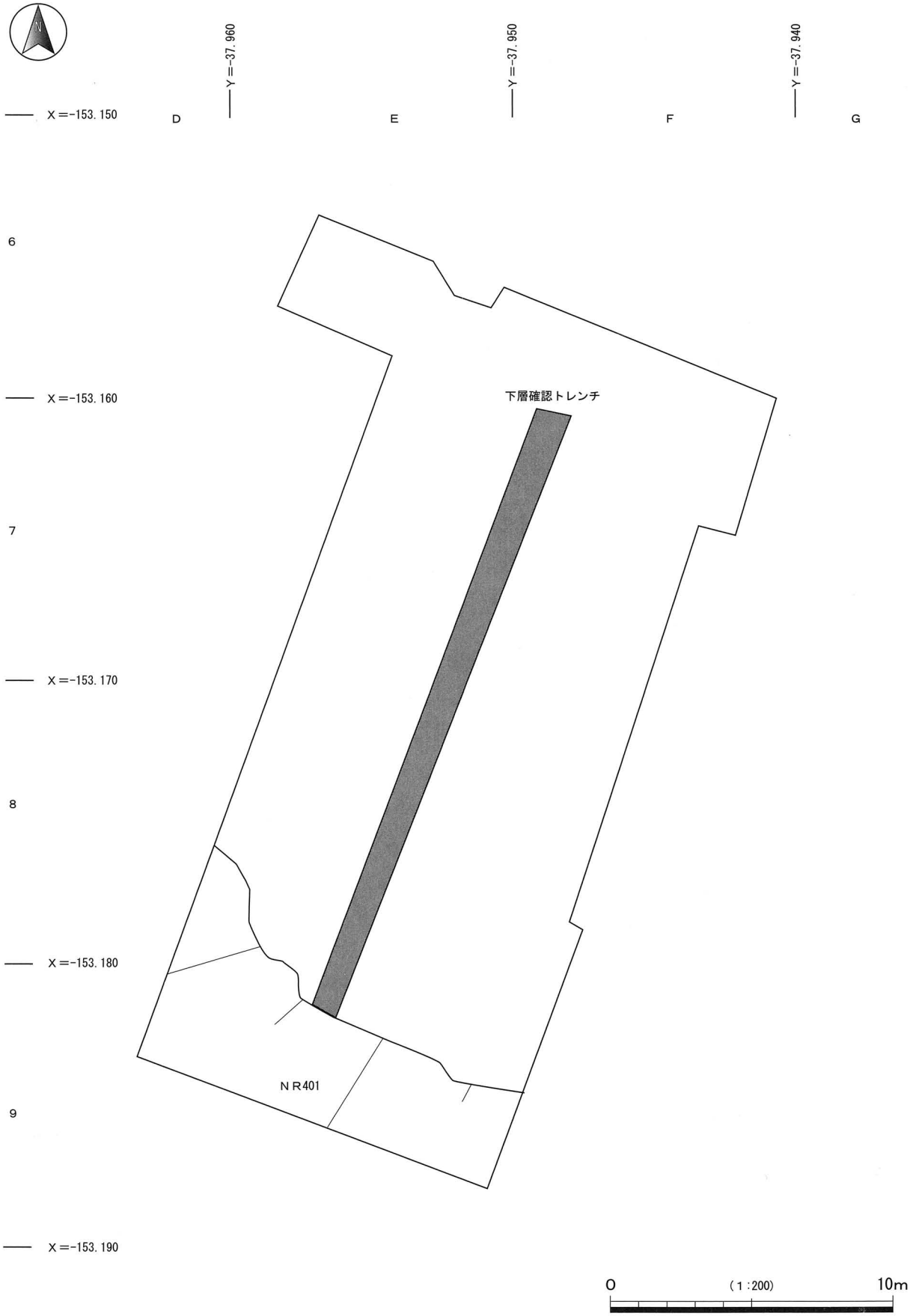
Ⅶ－６－８・９ｄ～ｆ地区で検出した。平面形状は南東－北西方向に蛇行して伸びる。幅は２区で検出したＮＲ401と合わせると約16.0ｍである。断面形状は逆台形で、深さ約0.85ｍを測る。埋土は細粒～粗粒シルト、細粒～粗粒砂の流水堆積である。埋土からは弥生土器、土師器が出土した。このうち図化したものは、弥生土器壺(21)・甕(22)、古式土師器壺(23)・甕(24～26)・高杯(27)、土師器の甑か鍋の把手(28)である。遺構の時期は古墳時代前期後半～中期前半に比定できる。

遺構に伴わない出土遺物

１層からは土師器・瓦器・須恵器・瓦、２層からは土師器・須恵器、３層からは土師器・須恵器が出土した。このうち図化したものは１層出土の須恵器杯身(29)、２層出土の須恵器杯身(30)、３層出土の古式土師器（布留式）壺(31)である。30は飛鳥時代（飛鳥Ⅲ）に、31は古墳時代前期（布留式）に比定できる。



第15図　１区ＮＲ401、１～３層出土遺物実測図



第16図　１区第４面平面図

表9　出土遺物観察表(1)

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
1	水田 101	土師器 小皿 口縁部	口径9.0 器高1.2	底部は平らである。口縁部は外反し丸く終わる。口縁部および底部の内外面はユビナデを施す。口縁端部の内面には煤が付着している。	10YR7/3にぶい黄橙色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
2	水田 101	土錘	長さ3.4 幅2.3 厚み1.6 孔径0.3	平面形状は欠損しており不明である。断面形状は卵形で、中央に丸い孔があけられている。	2.5YR7/8橙色	2㎜の砂粒を含む。	良好	
3	水田 103	土師器 小皿 口縁部	口径11.8 器高1.3	底部は上げ底である。口縁部は2段に屈曲し、外反し丸く終わる。口縁部および底部の内外面はユビナデを施す。口縁部の内外面には煤が付着している。	2.5Y8/1灰白色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
4	水田 103	瓦器 小皿 口縁部	口径9.4 器高0.9	底部は上げ底である。口縁部は外反し丸く終わる。口縁部および底部の内外面はユビナデを施す。	N2/0黒色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
5	SK 201	土師器 小皿 口縁部	口径9.6 器高1.1	底部は平らである。口縁部は内湾し丸く終わる。口縁部および底部の内外面はユビナデを施す。	7.5YR6/6橙色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
6	SK 204	黒色土器 椀 口縁部		両黒の黒色土器である。体部は内湾する。口縁端部は丸く終わる。体部の内面はヘラミガキ、外面と高台部はユビナデを施す。	N2/0黒色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
7	SD 201	土師器 高杯 脚部		杯部は平らである。脚部は筒状で、「ハ」の字にひらく裾部が付く。杯部の内外面と脚部の内面はユビナデ、脚部の外面はヘラミガキを施す。脚部の内面にはしぼり目がある。	5YR5/8明赤褐色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
8 9	SD 201	須恵器 平瓶 口縁～体部	口径6.6	体部は丸みのある逆台形である。口縁部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。端部は丸く終わる。口縁部および体部の内外面は回転ナデを施す。体部の外面にはヘラ状工具による記号文がある。	5B6/1青灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
9 9	SE 301	土師器 甕 完形	口径16.8 器高28.4	体部は縦長の砲弾形である。口縁部は外反する。端部は丸みのある面を形成する。口縁部の内面ハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内外面はハケナデのちユビナデを施す。体部外面には煤が、内面には焦げが付着している。	7.5YR5/1褐灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
10 9	SE 301	土師器 甕 ほぼ完形 (口縁部欠損)	体部最大径18.8	体部は縦長の球形である。口縁部は外反する。口縁部の内外面はハケナデのちヨコナデ。体部の内面下位は板状工具によるナデ、上位はハケナデを施す。外面はハケナデを施す。体部外面には煤が、内面には焦げが付着している。	10YR6/3にぶい黄橙色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
11 9	SE 301	土師器 甕 ほぼ完形	口径12.4 器高20.2 体部最大径 17.2	体部は横長の球形である。口縁部は外反する。端部は面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。粘土接合の痕跡がある。体部の内面はユビナデ後ハケナデ、外面はタタキのちハケナデを施す。	10YR6/3にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
12 9	SE 301	須恵器 壺 完形	口径11.5 器高16.2 体部最大径 15.5	体部は横長の球形である。口縁部は屈曲し段をもち内湾しながら外上方へ伸びる。口縁部の内外面は回転ナデを施す。体部の内面は回転ナデ、外面下位はタタキを、中位～上位は回転ナデを施す。	5B6/1青灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
13 9	SE 301	須恵器 壺 口縁部	口径14.0	口縁部は外反する。端部は面を形成する。口縁部の内外面は回転ナデを施す。外面の端部と中央部に2条の突帯文を施し、その間に波状文を施す。	N5/0灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
14	SE 301	須恵器 杯身 受部	受部径 14.0	底部は上げ底である。体部は内湾する。受部は水平に伸び、端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部は外反する。口縁部、受部の内外面は回転ナデを施す。体部の内面は回転ナデ、外面は回転ヘラケズリを施す。	5PB5/1青灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
15	SE 301	須恵器 杯蓋 口縁部	口径14.0	口縁部は外下方へ直線的に伸びる。端部の内面には凹線状にくぼむ段がある。口縁部の内外面は回転ナデを施す。	5B6/1青灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
W1 9	SE 301	板状木製品	長さ98.0 幅43.3 厚み3.6	平面形状は長方形の板状である。下部に方形の孔が2箇所あけられている。断面形状は三日月形である。				井戸枠 No.1
W2 9	SE 301	板状木製品	長さ95.8 幅31.5 厚み3.0	平面形状は上部欠損していることから不明であるが、長方形の板状になると思われる。断面形状は三日月形である。				井戸枠 No.2
W3 9	SE 301	板状木製品	長さ90.2 幅25.4 厚み8.0	平面形状は上部欠損していることから不明であるが、長方形の板状になると思われる。断面形状は長方形である。				井戸枠 No.3

表10　出土遺物観察表（2）

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
16 10	SK 304	須恵器 壺 口縁部	口径16.0	口縁部は外反する。端部は面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面は回転ナデを施す。外面には２条の突帯文を施し、突帯の上位と下位に波状文を施す。	5B6/1青灰色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
17	SD 301	土師器 高杯 脚部		杯部は平らである。筒状の脚部で、「ハ」の字に外下方へ伸びる。杯部および脚部の内外面はユビナデを施す。脚部の内面にはしぼり目がある。	5YR6/8橙色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
S１	SD 301	石製品 杵？	長さ8.4 幅3.0 厚み1.6	L字に曲がる平面形状で、断面は楕円形である。全面磨いており滑らかである。	10YR8/2灰白色			
18	SD 307	須恵器 杯身 口縁部	口径10.0	体部は内湾する。口縁部は内上方へ外反して伸びる。端部は面を形成する。受部は水平に伸びる。口縁部の内外面および体部の内面は回転ナデ。体部の外面下位は回転ケズリ、上位は回転ナデを施す。	5B3/1暗青灰色	１～７㎜の砂粒を含む。	良好	
19 10	SD 308	須恵器 高杯 口縁～裾部	口径13.6 器高9.1 裾径9.6	杯部は平らである。口縁部は外上方へ外反し伸びる。端部は外へつまみ出し面を形成する。脚部は筒状で、「ハ」の字に外下方へ伸びる。裾端部は面を形成する。杯部および脚部の内外面は回転ナデを施す。裾部にはスカシ孔が３方向にあけられている。	5B6/1青灰色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
20	SD 308	須恵器 高杯 口縁部	口径14.0 器高4.6	杯部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。端部は上方へつまみ出し面を形成する。杯部の内外面は回転ナデを施す。	5G7/1明緑灰色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
21	NR 401	弥生土器 （中期） 壺 口縁部	口径25.0	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。端部は面を形成する。口縁部の端面は磨耗して不明瞭であるが、簾状文を施すと思われる。口縁の端部内面には円形浮文を４個+αを貼り付ける。	10YR5/4にぶい黄褐色	１～４㎜の砂粒を含む。（生駒西麓産）	良好	
22	NR 401	弥生土器 （後期） 甕 口縁部	口径13.8	口縁部は外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面はタタキを施す。	2.5Y8/3淡黄色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
23	NR 401	古式土師器 （布留式） 壺 口縁部	口径10.8	口縁部は上外方に直線的に伸びる。端部は丸く終わる。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外面縦方向のハケナデのちヨコナデを施す。	5Y7/1灰白色	１～２㎜の砂粒を含む。	良好	
24	NR 401	古式土師器 （布留式） 甕 口縁部	口径15.0	口縁部は「く」の字に屈曲し外反する。口縁部の内面はユビナデ、外面はヨコナデのちハケナデを施す。体部の外面はハケナデを施す。体部の内面には粘土接合の痕跡がある。	10YR8/6黄橙色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
25	NR 401	古式土師器 （布留式） 甕 口縁部		口縁部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。端部は肥厚し面を形成する。端面は凹線状にくぼむ。口縁部の内外面は回転ナデを施す。	10YR7/8黄橙色	１～２㎜の砂粒を含む。	良好	
26	NR 401	古式土師器 （布留式） 甕 口縁部	口径14.0	口縁部は内湾する。端部は肥厚し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外面には煤が付着している。	2.5Y6/1黄灰色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
27	NR 401	古式土師器 （布留式） 高杯 口縁部	口径16.8	口縁部は外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヘラミガキ施すと思われるが、表部磨耗のため調整は不明瞭である。	7.5YR7/8黄橙色	１～２㎜の砂粒を含む。	良好	
28	NR 401	土師器 甑か鍋？ 把手		把手部分は外上方へ曲がり伸びる。端部は丸く終わる。内外面はユビナデを施す。	2.5Y7/2灰黄色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
29	１層	須恵器 杯身 口縁～底部	口径15.2 器高4.2 高台径 11.0	底部は平らである。口縁部は外上方に直線的に伸びる。端部は丸く終わる。断面台形の高台が「ハ」の字に貼り付く。口縁部および底部の内外面は回転ナデを施す。	5B7/1明青灰色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
30 10	２層	須恵器 杯身 ほぼ完形	口径9.0 器高3.5	底部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。端部は丸く終わる。口縁部は+片口である。口縁部および体部の内外面は回転ナデを施す。	10Y6/1灰色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
31 10	３層	古式土師器 壺 口縁～体部	口径17.9	複合口縁の壺。口縁部は２段屈曲し直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は左上がりのハケナデを施す。	10YR7/4にぶい黄橙色	１～５㎜の砂粒を含む。	良好	

２区

第１面では、近代の井戸３基(ＳＥ101～103)、中世から近世の土坑11基(ＳＫ101～111)・溝22条(ＳＤ101～122)を検出した。また、全域に島畠が存在していたことが、断面で確認できた。**第２面**では、飛鳥～平安時代の土坑３基(ＳＫ201～203)・小穴１基(ＳＰ201)・溝14条（ＳＤ201～214）を検出した。**第３面**では、古墳時代中期の土坑５基(ＳＫ301～305)・小穴11基(ＳＰ301～311)・溝４条(ＳＤ301～304)を検出した。**第４面**では、古墳時代前期後半～中期前半の河川１条(ＮＲ401)を検出した。

また、下層確認トレンチ№.６では、**第５面**で古墳時代前期(布留式新相)の河川１条(ＮＲ501)、**第６面**で古墳時代前期(布留式新相)の河川１条(ＮＲ601)、**第７面**で古墳時代前期(布留式古～中相)の畦畔１条(**畦畔701**)、**第８面**で古墳時代前期(布留式古相)以前の溝３条(ＳＤ801～803)を検出した。

第１面

ＳＥ101～103

平面形状は円形、楕円形、方形に分けられる。断面形状は逆台形である。埋土はＳＥ101が単一層で、ＳＥ102・103が２層である。ＳＥ101からは須恵器、ＳＥ102から陶器や瓦の破片が出土した。なお、検出した各井戸の詳細については表11にまとめた。

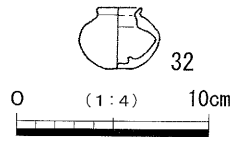
ＳＫ101～111

平面形状は円形、楕円形、長方形、不定形に分けられる。断面形状は逆台形で、ＳＫ101には一部に窪みがある。埋土はＳＫ108が３層に分けられるが、他は単一層である。ＳＫ101～104・106・107・109・110からは土師器・須恵器・磁器・瓦等の破片が出土した。ＳＫ108は深さが2.6mを測り、素掘りの井戸になる可能性がある。なお、検出した各土坑の詳細については表12にまとめた。

ＳＤ101～122

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがある。断面形状は逆台形とＵ字形のものがある。埋土はＳＤ101～117・119～122が単一層で、ＳＤ118が２層である。ＳＤ101～104・111・115～118・120・122からは土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦の破片が出土した。このうち図化したものはＳＤ122出土の土師器ミニチュア壺(32)である。なお、検出した各溝の詳細については表13にまとめた。

※**第１面**の上部には、島畠が存在していることを断面で確認し、東西方向に展開していることが判明した。なお、**２区第１面**で検出したＳＤ117と118の間の上部に存在する島畠は、**１区**で検出した**島畠101**に対応する。



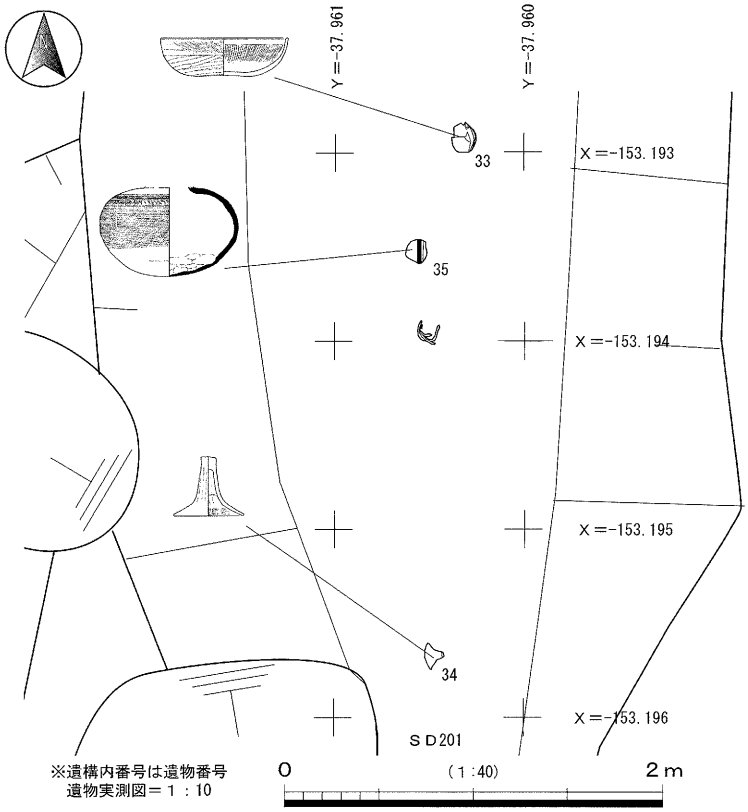
第17図　２区ＳＤ122出土遺物実測図

表11　２区第１面井戸一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＥ101	Ⅶ-11-1D	南北に長い楕円形	1.9m	1.6m		逆台形	1.3以上	掘形10YR3/3暗褐色粗粒砂混粘土 井戸側内10BG2/1青黒色粗粒砂混粘土	須恵器
ＳＥ102	Ⅶ-6-10C	方形	—	—	一辺2.3m	逆台形	1.2以上	掘形10YR3/3暗褐色粗粒砂粘土 5G4/1暗緑灰色細粒砂混粘土　井戸側内10BG2/1青黒色粗粒砂混粘土 5BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土	陶器・瓦等
ＳＥ103	Ⅶ-6-9B	検出した平面形状は半円形	1.8以上	1.0以上	—	逆台形	1.7以上	掘形10YR3/3暗褐色粗粒砂粘土 5G4/1暗緑灰色細粒砂混粘土　井戸側内10BG2/1青黒色粗粒砂混粘土 5BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土	なし

表12　２区第１面土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＫ101	Ⅶ-6-10E	検出した平面形状は半楕円形	2.9以上	1.4以上	—	逆台形(一部窪む)	0.95	10BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土	土師器・磁器・瓦等
ＳＫ102	Ⅶ-6-10E Ⅶ-11-1E	検出した平面形状は半楕円形(西側が突出する)	2.2以上	1.1以上	—	逆台形	0.12	10BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土	陶器
ＳＫ103	Ⅶ-6-10D	不定形　ＳＤ102を切る	2.1	1.5		逆台形	0.31	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	土師器等
ＳＫ104	Ⅶ-6-10D	不定形　ＳＤ102を切る	1.8	1.7		逆台形	0.72	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	磁器
ＳＫ105	Ⅶ-6-10D	東西方向に長い長方形　ＳＤ103を切る	1.3	0.9	—	逆台形	0.23	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＫ106	Ⅶ-6-10D	円形(南側が突出する)			2.0	逆台形	0.66	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	瓦等
ＳＫ107	Ⅶ-6-10C・D	東西方向に長い楕円形	2.9	2.5	—	逆台形	0.72	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器等
ＳＫ108	Ⅶ-6-10D Ⅶ-11-1C・D	検出した平面形状は半楕円形	3.2以上	1.5	—	逆台形	2.0	上から5B4/1暗青灰色細粒砂混粗粒シルト(粘土のブロック混入) 10BG3/1暗青灰色細粒砂混粘土 10Y4/1灰色粗粒砂混粘土(細粒砂混粘土のブロック混入)	なし
ＳＫ109	Ⅶ-6-9C・D10C	検出した平面形状は不定形　ＳＤ104を切る	5.7以上	2.7	—	逆台形	0.37	7.5Y3/1オリーブ灰色細粒砂混粘土(粗粒砂混粘土のブロック混入)	土師器・須恵器・瓦
ＳＫ110	Ⅵ-10-9I8・9J	検出した平面形状は長方形	4.0	3.7	—	逆台形	0.5以上	7.5YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土	瓦等
ＳＫ111	Ⅶ-6-10C・D	東西方向に長い楕円形	1.0	0.8	—	逆台形	0.15	5B3/1暗青灰色粗粒砂混粘土	なし



第18図　２区ＳＤ201遺物出土状況平面図

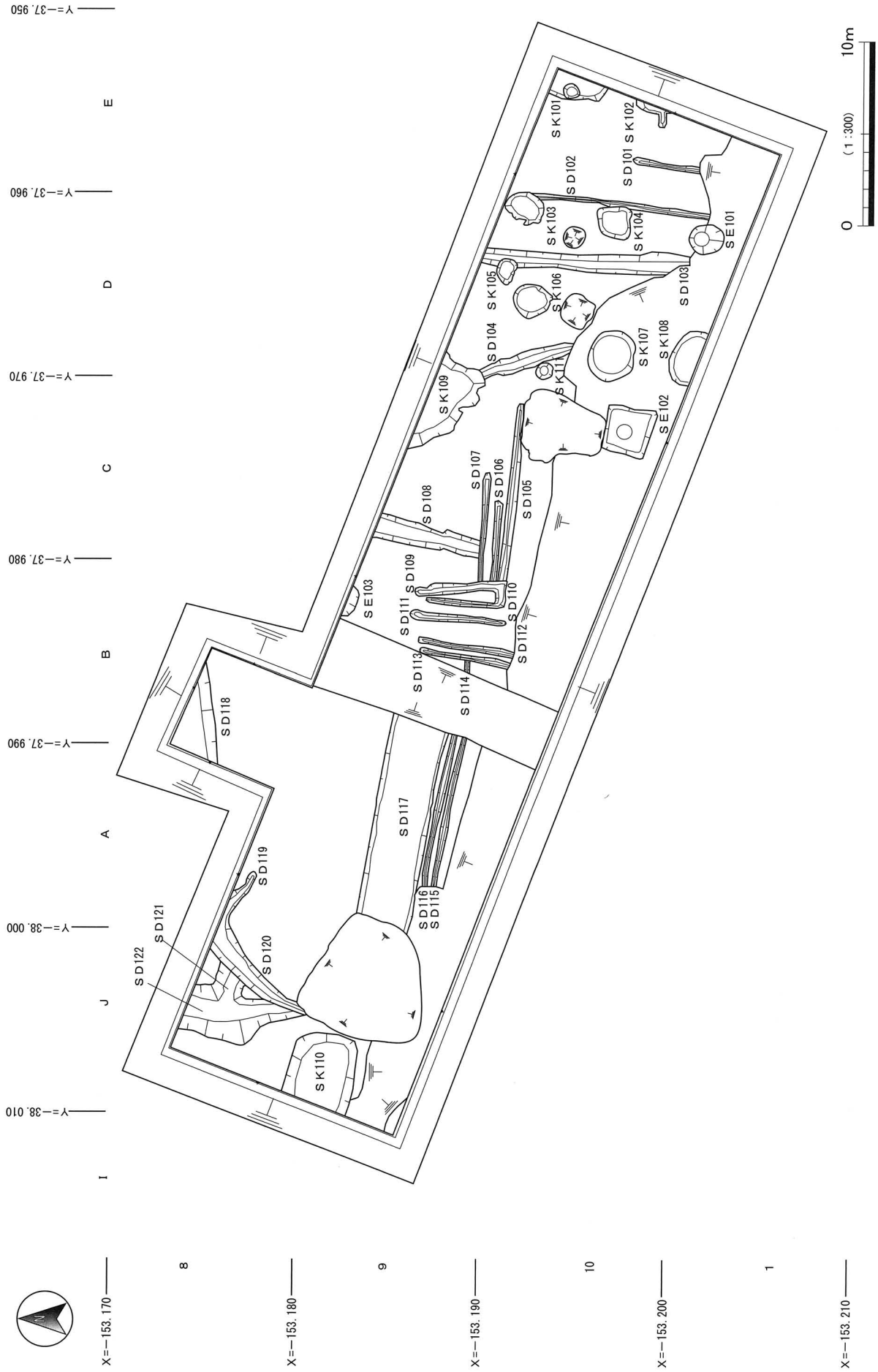
第２面

ＳＫ201～203

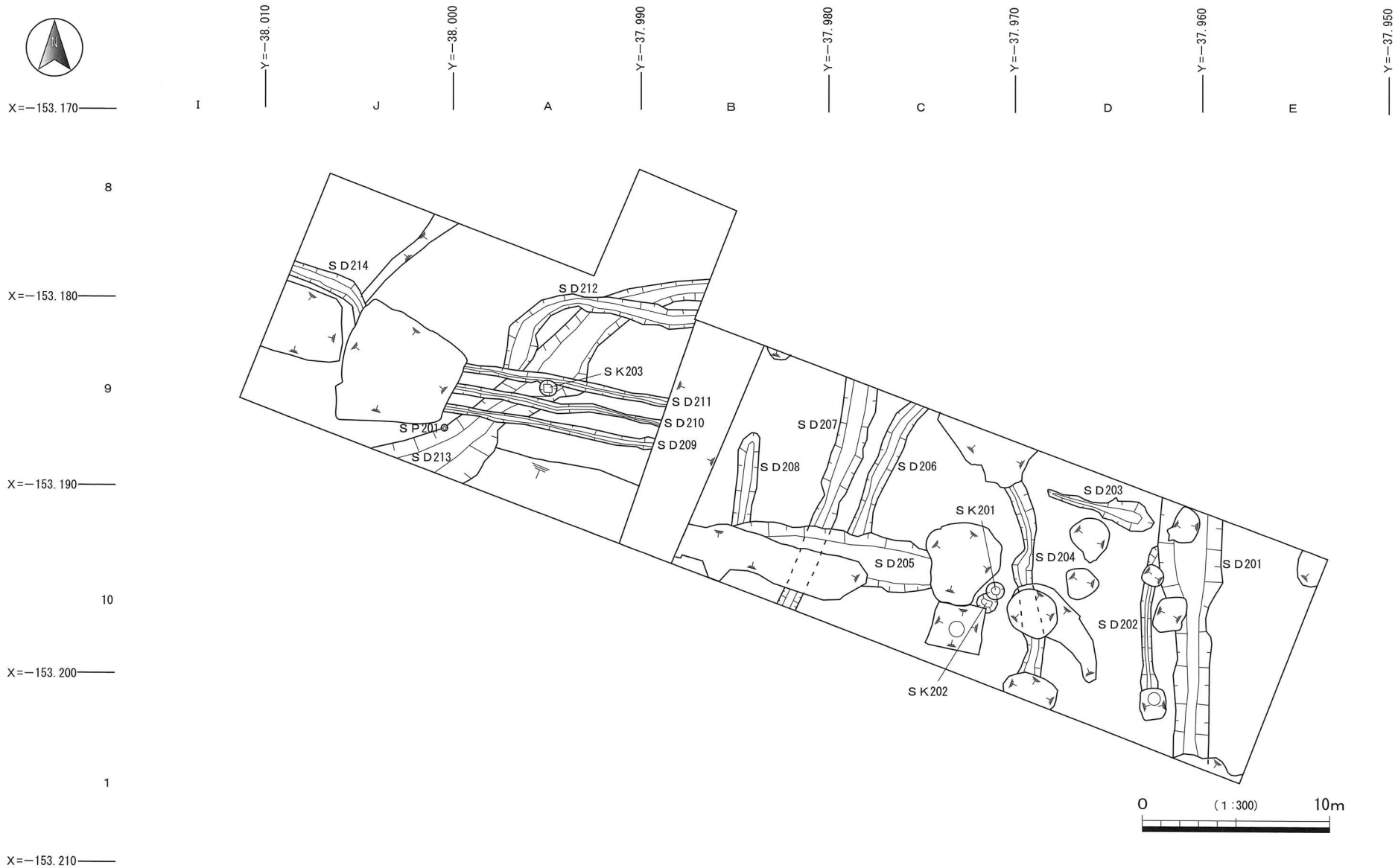
平面形状は円形である。断面形状は逆台形である。埋土はＳＫ201・202が２層に分けられ、ＳＫ203が３層に分けられる。ＳＫ202からは土師器の破片が出土した。なお、検出した各土坑の詳細については表14にまとめた。

ＳＰ201

平面形状は円形である。断面形状は逆台形である。埋土は単一層で、土師器の破片が出土した。なお、検出した小穴の詳細については表15にまとめた。



第19図　2区第1面平面図



第20図　２区第２面平面図

表13　２区第１面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＤ101	Ⅶ -6-10E Ⅶ-11-1E	南北方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.1	10YR4/1褐灰色細粒砂混粘土	土師器
ＳＤ102	Ⅶ -6-10D Ⅶ-11-1D	南北方向に直線に伸びる　ＳＫ103・ＳＫ104に切られる。	0.3	逆台形	0.1	10YR4/1褐灰色細粒砂混粘土	土師器
ＳＤ103	Ⅶ-6-9・10D Ⅶ-11-1D	北側は調査区外に至る　南北方向に直線に伸びる　ＳＫ106に切られる	0.7～1.2	逆台形	0.15	10Y3/1オリーブ黒色粗粒砂混粘土	土師器
ＳＤ104	Ⅶ -6-9D10C・D	南東-北西方向に直線に伸びる　ＳＫ110に切られる	0.5～1.0	逆台形	0.17	5Y6/8オリーブ色細粒シルト混粘土	土師器
ＳＤ105	Ⅶ-6-10B・C	東西方向に直線に伸びる　ＳＤ109に切られる	0.5	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ106	Ⅶ-6-10B・C	東西方向に直線に伸びる　ＳＤ109に切られる	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ107	Ⅶ -6-9 ・10B・C	東西方向に直線に伸びる　ＳＤ109に切られる	0.2	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ108	Ⅶ-6-9C	北側は調査区外に至る　南北方向に直線に伸びる	0.9～1.4	逆台形	0.26	10Y3/1オリーブ黒色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ109	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる　ＳＤ105～107を切る　ＳＤ110と合流	0.4～0.6	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ110	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる　ＳＤ109と合流	0.3	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ111	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる	0.3～0.5	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ112	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ113	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ114	Ⅶ-6-9B	東西方向に直線に伸びる	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ115	Ⅶ-6-9A・B	東西方向に直線に伸びる	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦
ＳＤ116	Ⅶ-6-9A・B	東西方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	土師器・瓦器
ＳＤ117	Ⅶ-6-9A・B Ⅵ-10-9J	東西方向に直線に伸びる	3.0	逆台形	0.1	2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・陶器・磁器等
ＳＤ118	Ⅶ-6-8A・B	北側は調査区外　東西方向に直線に伸びる	2.2以上	逆台形	0.13以上	上から7.5Y6/1灰色細粒砂混粘土 10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器
ＳＤ119	Ⅶ-6-8A・B	北側は調査区外　南東-北西方向に直線に伸びる　ＳＤ120と合流	0.4	逆台形	0.17	5Y4/1灰色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ120	Ⅵ-10-8・9J	北側は調査区外　南西-北東方向に直線に伸びる　ＳＤ121・ＳＤ122を切る　ＳＤ119と合流	0.8～1.5	U字形	0.12	5Y4/1灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ121	Ⅵ-10-8J	南東-北西方向に直線に伸びる　ＳＤ120に切られる　ＳＤ122と合流	1.5	逆台形	0.15	10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
ＳＤ122	Ⅵ-10-8・9J	北側は調査区外　南北方向に直線に伸びる　ＳＤ120に切られる　ＳＤ121と合流	1.3～2.5	逆台形	0.29以上	10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器・瓦器

ＳＤ201～214

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがある。断面形状は逆台形である。埋土はＳＤ201・213が３層、それ以外は単一層である。ＳＤ201は１区のＳＤ201と同一の溝である。ＳＤ201～205・207・212～214からは土師器・須恵器等が出土した。このうち図化したものはＳＤ201出土の土師器杯(33)・土師器高杯(34)・須恵器壺(35)、ＳＤ202出土の須恵器杯身(36)、ＳＤ213出土の須恵器壺(37)である。33は飛鳥時代(飛鳥Ⅲ)に比定できる。なお、検出した各溝の詳細については表16にまとめた。

表14　２区第２面土坑一覧表

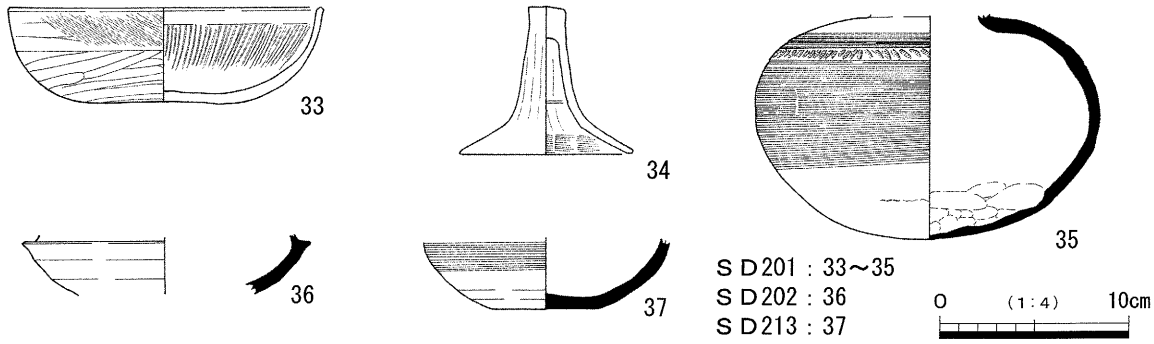
遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＫ201	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	1.0	逆台形	0.4	上から7.5Y4/4褐色細粒砂混粘土 10BG5/1青灰色細粒砂混粘土	なし
ＳＫ202	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	1.3	逆台形	0.34	上から10YR4/6褐色細粒シルト混粘土　5B5/1青灰色粘土	土師器
ＳＫ203	Ⅶ-6-9A	円形　ＳＤ211・ＳＤ213を切る	—	—	1.44	逆台形	0.68	上から5Y6/1灰色細粒砂混粗粒砂(粘土のブロック混入)　7.5Y5/1褐灰色細粒砂混粘土　10BG5/1青灰色粘土	なし

表15　２区第２面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＰ201	Ⅵ-10-9J	円形	—	—	0.3	逆台形	0.28	5Y4/1灰色細粒砂混粘土	土師器

表16　２区第２面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＤ201	Ⅶ-6-10D・E Ⅶ-11-1D・E	南北に直線に伸びる　ＳＤ202を切る	1.6～3.4	逆台形	0.3	7.5YR7/6橙色細粒砂混粘土 7.5YR6/1褐灰色粗粒砂混粘土 10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ202	Ⅶ-6-10D Ⅶ-11-1D	南北に直線に伸びる　ＳＤ201に切られる	0.5～0.9	逆台形	0.15	2.5Y6/1黄灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ203	Ⅶ-6-10D	東西方向に直線に伸びる	0.3～1.6	逆台形	0.15	10YR5/6黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ204	Ⅶ-6-9・10C・D	南北方向に蛇行し伸びる	0.5～1.0	逆台形	0.2	10YR4/4褐色粗粒砂	土師器
ＳＤ205	Ⅶ-6-10B・C	東西方向に直線に伸びる	2.6	逆台形	0.4	7.5YR5/8明褐色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ206	Ⅶ-6-9・10C	南北方向に直線に伸びる	1.3	逆台形	0.13	5Y4/1灰色粘土	なし
ＳＤ207	Ⅶ-6-9・10B・C	南北方向に直線に伸びる	1.0～1.7	逆台形	0.2	5Y7/1灰白色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ208	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に直線に伸びる	1.1	逆台形	0.13	7.5YR6/1褐灰色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ209	Ⅶ-6-9A・B Ⅵ-10-9J	東西方向に直線に伸びる	0.5	逆台形	さ0.15	2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ210	Ⅶ-6-9A・B	東西方向に直線に伸びる	0.2～0.7	逆台形	0.1	2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ211	Ⅶ-6-9A・B	東西方向に直線に伸びる　ＳＤ212・ＳＤ213を切る　ＳＫ203に切られる	0.3～0.4	逆台形	0.15	2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土	なし
ＳＤ212	Ⅶ-6-8・9A9B	東西方向に弧を描き伸びる ＳＤ213を切る　ＳＤ211に切られる	1.0～1.5	逆台形	0.2	10BG5/1青灰色細粒シルト質粘土	土師器
ＳＤ213	Ⅶ-6-9A Ⅵ-10-9J	南西-北東方向に蛇行し伸びる　ＳＫ203・ＳＫ204・ＳＤ209～ＳＤ212に切られる	1.2～2.2	逆台形	0.4	上から2.5Y5/3黄褐色細粒シルトと細粒砂のラミナ　10YR4/6褐色細粒シルトと粗粒シルトのラミナ　2.5Y5/1黄灰色粗粒砂	土師器・須恵器
ＳＤ214	Ⅵ-10-8・9J	南東-北西方向に弧を描いて伸びる	0.8	逆台形	0.18	10YR7/1灰白色粗粒シルト混粘土	土師器・瓦



第21図　２区ＳＤ201・202・213出土遺物実測図

第３面

ＳＫ301～305

平面形状は円形と楕円形に分けられ、断面形状は逆台形である。埋土は全て単一層で、各土坑からの遺物の出土はなかった。各土坑の検出状況からは規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。なお、検出した各土坑の詳細については表17にまとめた。

ＳＰ301～311

平面形状は円形と楕円形に分けられ、断面形状は逆台形である。埋土は全て単一層で、ＳＰ311からは土師器・須恵器の破片が出土した。各小穴はⅦ－11－１ＥとⅦ－６－10ｃ区に集中し検出したが、検出状況からは規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。なお、検出した各小穴の詳細については表18にまとめた。

表17　２区第３面土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＫ301	Ⅶ-11-1E	円形	—	—	1.1	逆台形	0.09	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＫ302	Ⅶ-6-10E	東西方向に長い楕円形	1.55	1.2	—	逆台形	0.16	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＫ303	Ⅶ-6-10C	東西方向に長い楕円形	1.2	1.0	—	逆台形	0.17	10YR4/4　褐色粘土(粗粒シルトのブロック混入)	なし
ＳＫ304	Ⅶ-6-10C	南東-北西方向に長い楕円形	1.6	1.0	—	逆台形	0.19	10YR4/4　褐色粘土(粗粒シルトのブロック混入)	なし
ＳＫ305	Ⅶ-6-8B	南北方向に長い楕円形	1.4	1.0	—	逆台形	0.19	7.5YR4/3褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし

表18　２区第３面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	径(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＰ301	Ⅶ-11-1E	円形	—	—	0.4	逆台形	0.1	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ302	Ⅶ-11-1E	円形	—	—	0.5	逆台形	0.11	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ303	Ⅶ-11-1E	円形	—	—	0.85	逆台形	0.07	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ304	Ⅶ　-6-10E Ⅶ-11-1E	円形	—	—	0.55	逆台形	0.08	5YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ305	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.5	逆台形	0.18	10YR4/4　褐色粘土(粗粒シルトのブロック混入)	なし
ＳＰ306	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.55	逆台形	0.15	10YR4/4　褐色粘土(粗粒シルトのブロック混入)	なし
ＳＰ307	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.62	逆台形	0.14	10YR4/4　褐色粘土(粗粒シルトのブロック混入)	なし
ＳＰ308	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.33	逆台形	0.05	10YR5/1　褐灰色粘土(細粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ309	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.5	逆台形	0.07	10YR5/1　褐灰色粘土(細粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ310	Ⅶ-6-10C	円形	—	—	0.65	逆台形	0.08	10YR5/1　褐灰色粘土(細粒砂のブロック混入)	なし
ＳＰ311	Ⅶ-6-10B	東西方向に長い楕円形	0.8	0.6	—	逆台形	0.07	10YR5/1　褐灰色粘土(細粒砂のブロック混入)	土師器・須恵器

表19　２区第３面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
ＳＤ301	Ⅶ　-6-10D Ⅶ-11-1D	南北方向に蛇行し伸びる	0.6～2.3	逆台形	0.2	上から10YR4/4褐色粘土質細粒砂(粘土のブロック混入) 7.5YR5/2灰褐色細粒シルトと粗粒シルトのラミナ(西側は粘性が強い)	土師器・須恵器
ＳＤ302	Ⅶ-6-9・10B	南北方向に蛇行し伸びる　ＳＤ303と合流する	0.4～1.25	逆台形	0.3	上から7.5YR6/2灰褐色細粒砂 7.5YR4/3褐色粘土質シルト　N4/0灰色細粒シルトと粗粒シルトのラミナ　N3/0暗灰色粘土	土師器
ＳＤ303	Ⅶ-6-10B	南北方向に直線に伸びる　ＳＤ302と合流する	0.4	逆台形	0.08	7.5YR6/2灰褐色細粒砂	なし
ＳＤ304	Ⅶ-6-8A・B	南西-北東方向に直線に伸びる	0.35	逆台形	0.08	5Y4/2灰褐色粗粒砂と細粒砂のラミナ	土師器

ＳＤ301～304

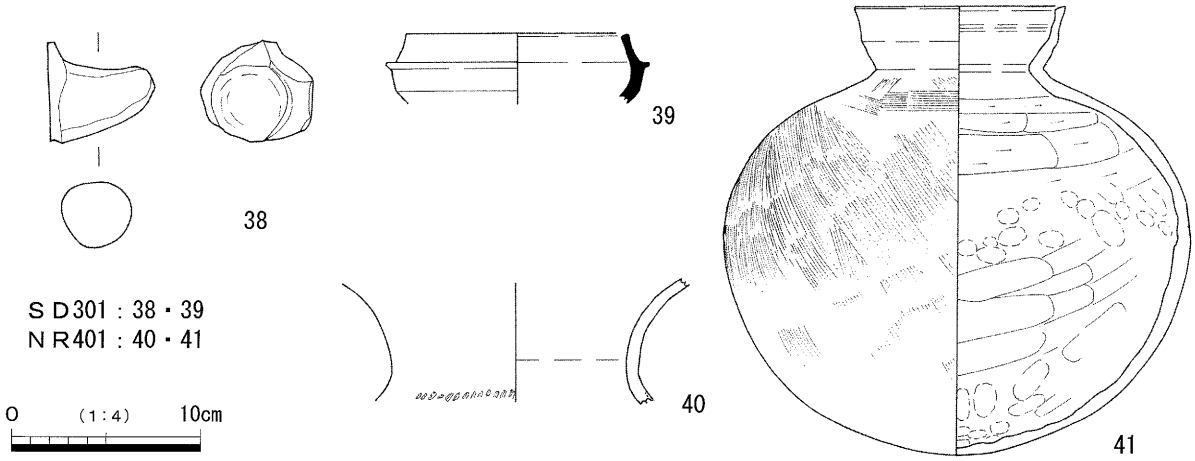
溝の平面形状は蛇行するものと直線に伸びるものに分けられる。断面形状は逆台形を呈す。埋土は流水堆積を示すシルトや砂の堆積であった。ＳＤ301・302・304からは土師器や須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはＳＤ301から出土した土師器の甑か鍋の把手(38)、須恵器杯身(39)である。なお、検出した各溝の詳細については表19にまとめた。

第４面

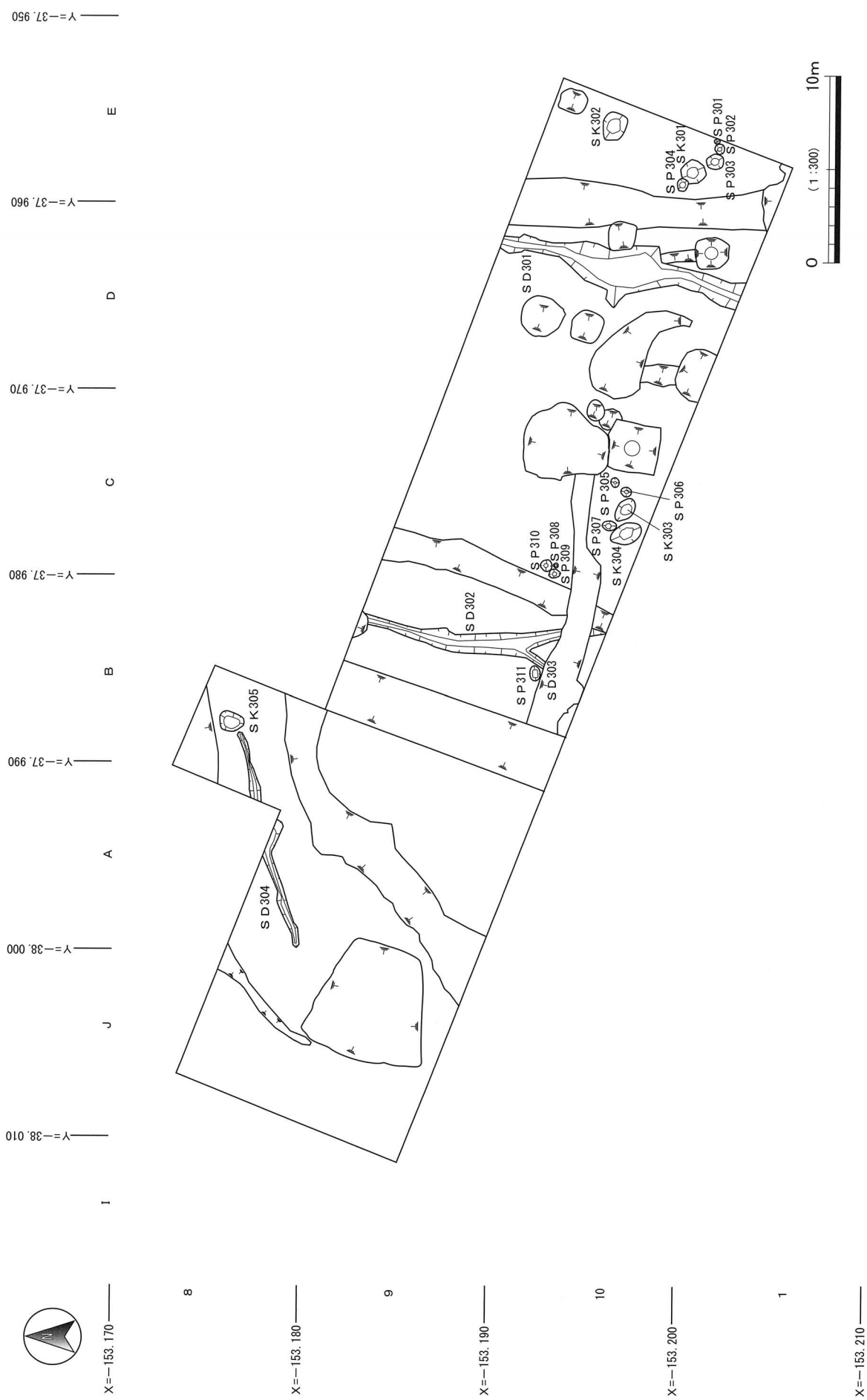
ＮＲ401

Ⅶ－６－８・９Ａ・Ｂ　９ＢＣ　10Ｃ・Ｄ・Ｅ区　Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南東－北西方向に蛇行して伸び、幅は１区検出のＮＲ401と合わせると幅16.0ｍになる。断面形状は逆台形で、深さ約0.85ｍ以上を測る。埋土は細粒シルト～粗粒シルト、細粒砂～粗粒砂の流水堆積である。埋土からは弥生土器、土師器が出土した。このうち図化したものは弥生土器壺(40)、古式土師器壺(41)で、41は布留式期に比定できる。

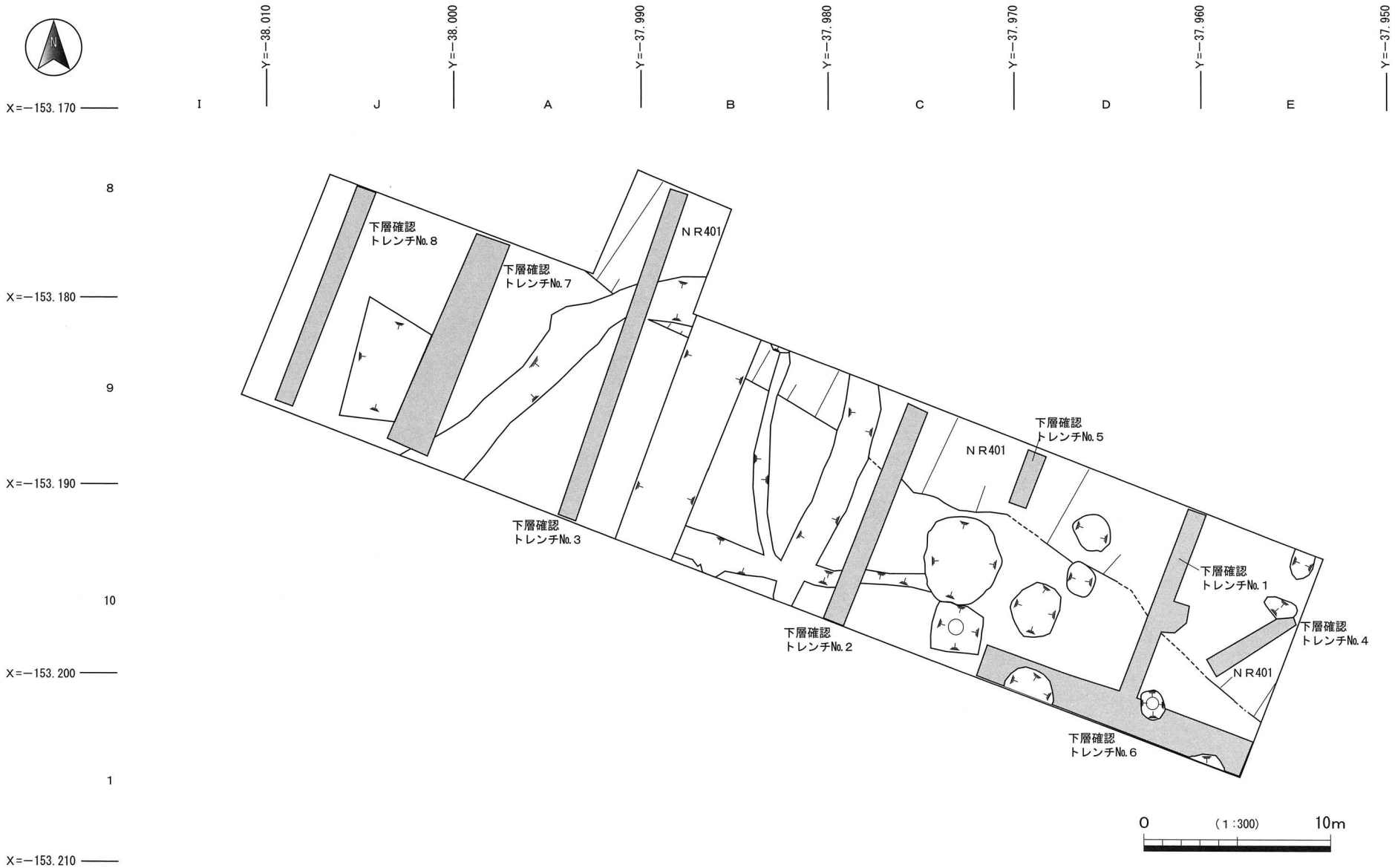
河川の時期は古墳時代前期後半～中期前半に比定できる。



第22図　ＳＤ301、ＮＲ401出土遺物実測図



第23図　２区第３面平面図



第24図No.2区第4面平面図

第５面

ＮＲ501

Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南北方向に直線に伸び、幅4.0ｍを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.34ｍを測る。埋土は上から7.5YR6/2灰褐色粗粒砂と細粒砂、10YR5/2灰黄褐色粗粒砂で、自然木が出土した。この遺構は古墳時代前期(布留式新相)に比定できる。

第６面

ＮＲ601

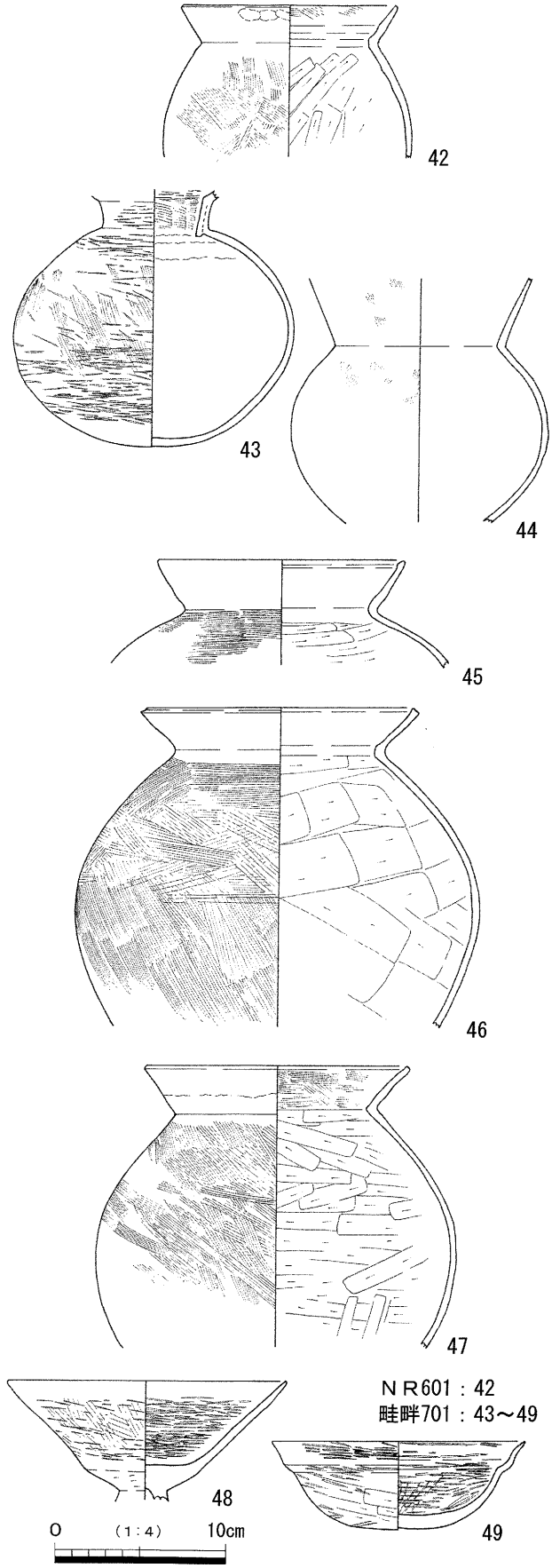
Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南北方向に直線に伸び、幅3.2ｍを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.43ｍを測る。埋土は上から10YR5/8黄褐色細粒砂と粗粒砂、10YR7/1灰白色細粒砂と粗粒シルト、10BG4/1暗青灰色細粒シルトと粗粒シルトで、土師器、木製品が出土した。このうち図化したものは古式土師器甕(42)である。この遺構は古墳時代前期(布留式新相)に比定できる。

第７面

畦畔701

Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南東から北西に直線に伸び、上幅1.0～2.0ｍ、下幅3.0～4.0ｍを測る。断面形状は台形で、高さ0.6ｍを測る。盛土は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土で、南西側の裾部からは古式土師器、木製品が出土した。このうち図化したものは古式土師器壺(43・44)、甕(45～47)、高杯(48)、鉢(49)、用途不明木製品(Ｗ４)、アカ取り(Ｗ５)である。

43～49は古墳時代前期(布留式古～中相)のものである(原田1993)。Ｗ５は、アカ取りと呼ばれる木製品で、類例には、センター調査の久宝寺遺跡出土のものがある(亀井他2007)。また、センター調査の弓削ノ庄遺跡(田中他2005)や、(財)大阪市文化財協会調査の長原遺跡(大庭2005)でもアカ取りは出土している。この遺構



第25図　２区ＮＲ601、畦畔701出土遺物実測図

は古墳時代前期(布留式古相)に比定できる。

第８面

ＳＤ801

Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.07mを測る。埋土はN2/0黒色細粒シルト(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

ＳＤ802

Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.12mを測る。埋土はN2/0黒色細粒シルト質粘土(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

ＳＤ803

Ⅶ－11－１Ｅ区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.34mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.09mを測る。埋土はN3/0暗灰色粘土(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

遺構に伴わない出土遺物

１層からは土師器･瓦器・須恵器・瓦・朝顔形円筒埴輪・円筒埴輪、２層からは土師器･須恵器・円筒埴輪、４層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは１層出土の土師器甑(50)・須恵器鉢(51)・朝顔形円筒埴輪(52)・円筒埴輪(53)、２層出土の土師器二重口縁壺(54)・須恵器杯身(55)・円筒埴輪(56)、４層出土の古式土師器高杯(57)である。

57は布留式中相の布留Ⅲ(原田1993)に比定できる。

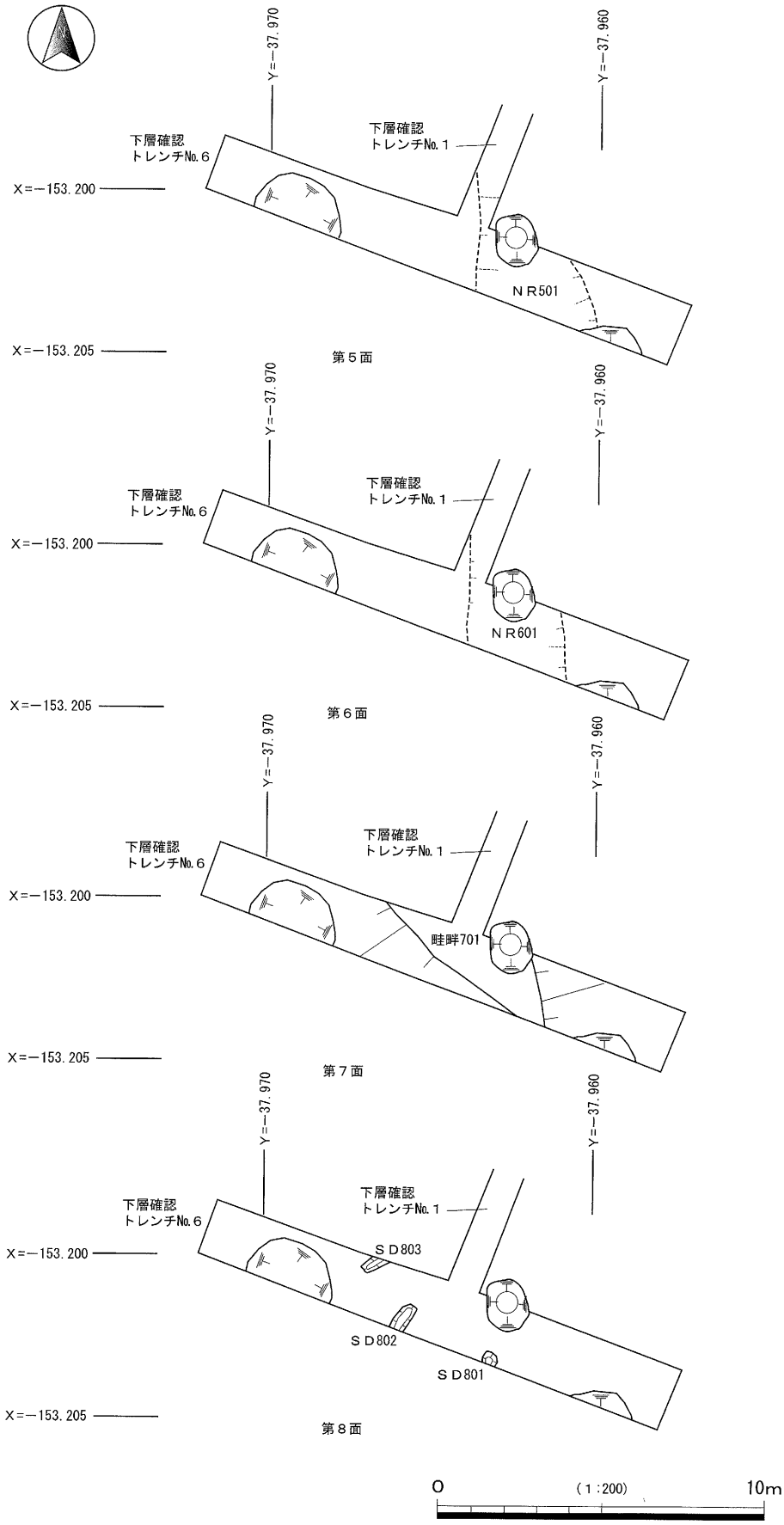
参考文献

・亀井　聡他　2007『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅶ－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他－』　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第156集　財団法人大阪府文化財センター

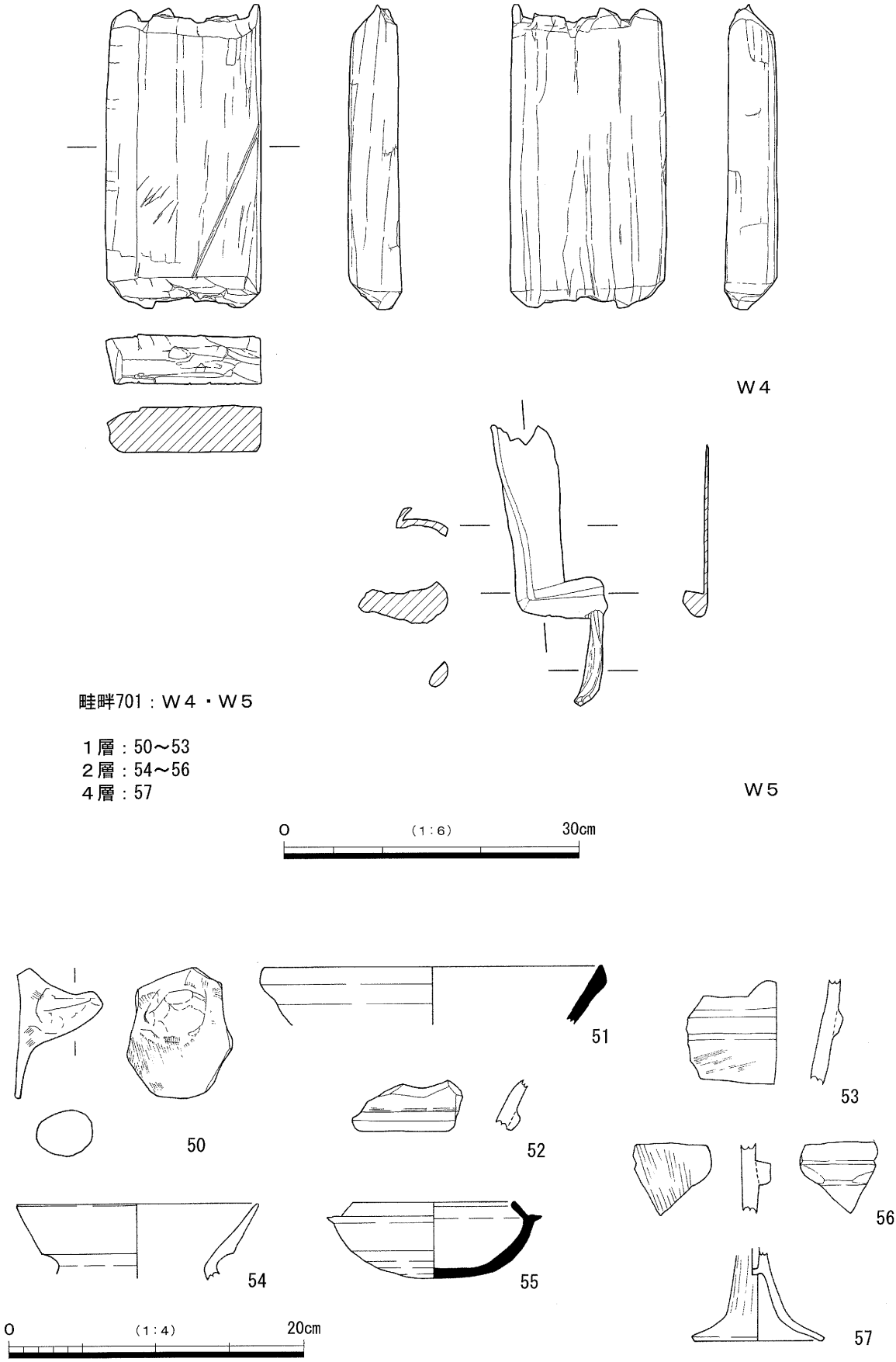
・田中龍男他　2005『弓削ノ庄遺跡　他』大阪外環状線(東大阪市)連続立体交差事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第133集　財団法人大阪府文化財センター

・大庭重信　2005『大阪市平野区　長原遺跡発掘調査報告ＸⅡ』市営長吉長原東住宅６・９号館建設に伴う発掘調査報告書　財団法人大阪市文化財協会

・原田昌則　1993「Ⅱ久宝寺遺跡(第１次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告37　(財)八尾市文化財調査研究会



第26図　２区第５面～第８面平面図



第27図　2区畦畔701、1・2・4層 出土遺物実測図

表20　出土遺物観察表(3)

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
32 10	SD 122	土師器 ミニチュア 壺	口径2.2 器高3.2	口縁は短く外反する。端部は丸く終わる。体部は丸味のある算盤玉形。口縁部および体部の内外面はユビナデを施す。	10Y8/1灰白色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
33 10	SD 201	土師器 杯	口径16.3 器高5.0	底部は平らである。口縁部は内湾する。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。底部の内面はユビナデ、外面はヘラミガキを施す。口縁部の内面はユビナデのち放射状のヘラミガキ、外面はハケナデをを施す。	5YR6/8橙色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
34	SD 201	土師器 高杯	裾径9.0	裾部は「ハ」の字に伸びる。端部は丸く終わる。脚部は中空である。脚部の内面はユビナデを施し、シボリ目がある。外面は縦方向のヘラミガキを施す。裾部の内面はハケナデ、外面はユビナデを施す。	5YR7/8橙色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
35 10	SD 201	須恵器 壺	体部最大径18.2	体部は横長の球形である。体部の内面上～中位は回転ナデ、下位はユビナデを施す。外面の上～中位は回転カキメ、下位は回転ナデを施す。外面の上位に凹線文を2条施す。凹線文の間には櫛状工具によるキザミ目を施す。	10BG4/1暗青灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
36	SD 202	須恵器 杯身	受部径 15.2	体部は内湾する。受部は水平に伸びる。受端部は丸く終わる。体部および受部の内外面は回転ナデを施す。	5B4/1暗青灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
37	SD 213	須恵器 壺？		底部は平らである。体部は内湾する。体部および底部の内面は回転ナデを施す。体部の外面下位は回転ッヘラケズリ、中位は回転カキ目を施す。	5B4/1暗青灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
38	SD 301	土師器 鍋か甑？		把手部分は外上方へ曲がり伸びる。端部は丸く終わる。内外面はユビナデを施す。	5YR6/8橙色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	
39	SD 301	須恵器 杯身	11.8	体部は内湾する。受部は水平に伸びる。受端部は丸く終わる。口縁部は内上方へ直線的に伸びる。端部は面を形成する。口縁部、受部の内外面は回転ナデを施す。体部の内面は回転ナデ、外面は回転ヘラケズリを施す。	5B6/1青灰色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
40	NR 401	弥生土器 (後期) 壺	頸部径 13.0	頸部は体部からゆるやかに曲がり外反する。頸部の内外面はヨコナデを施す。頸部の外面下位にキザミ目を施す。	10YR6/8明黄褐色	1～2㎜の砂粒を含む。	良好	
41 10	NR 401	土師器 壺	口径11.0 器高23,7	口縁部は2段に屈曲する複合口縁である。端部は肥厚し面を形成する。体部は横長の球形である。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面下位はユビナデ、上位はヘラケズリとユビナデを施す。外面はハケナデを施す。	10YR7/8黄橙色	1～4㎜の砂粒を含む。	良好	
42	NR 601	古式土師器 甕	口径12.4 体部最大径14.6	口縁部は体部から屈曲し内湾する。端部は丸く終わる。口縁部の内面はハケナデ、外面はユビナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面はハケナデを施す。口縁部、体部の内外面には煤が付着している。	10YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
43 10	畦畔 701	古式土師器 壺	頸部径 6.5 体部最大径16.5	体部は横長の球形である。口縁部は直立する頸部から屈曲し外上方に伸びると思われる。体部の内面はユビナデを施す。下位にはヘラ状工具による痕跡がある。外面はハケナデのちヘラミガキを施す。頸部の内面はハケナデのちヘラミガキ、外面はヘラミガキを施す。体部の外面下位には黒斑がある。	10YR6/1褐灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
44	畦畔 701	古式土師器 甕	頸部径 10.2 体部最大径15.2	体部は球形である。口縁部は「く」の字に屈曲し直線的に外上方に伸びる。口縁部の内面はヨコナデ、外面はハケナデのちヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面はハケナデを施す。体部の外面には黒斑がある。	5YR3/1黒褐色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
45	畦畔 701	古式土師器 甕	口径14.4	口縁部は体部から屈曲し内湾する。端部は内側に肥厚し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、ヘラケズリは屈曲部まで及んでいない。外面はハケナデを施す。体部の外面には煤が付着している。	5YR5/1褐灰色	1㎜の砂粒を含む。	良好	
46	畦畔 701	古式土師器 甕	口径15.6 体部最大径23.8	体部は球形である。体部最大径は中位にある。口縁部は内湾する。端部は面を形成し凹線状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施しヘラケズリは屈曲部におよんでいない。外面はハケナデを施す。体部の外面には煤が付着している。	2.5Y6/1黄灰色	1～3㎜の砂粒を含む。	良好	

表21　出土遺物観察表（４）

遺物番号 図版番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
47 10	畦畔701	古式土師器 甕	口径15.3 体部最大径21.3	体部は球形である。体部最大径は中位にある。口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、ヘラケズリは屈曲部までおよんでいる。外面は左上がりのハケナデを施す。体部の外面には煤が付着している。	2.5Y6/1黄灰色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
48	畦畔701	古式土師器 高杯	口径16.3	杯部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部、杯部の内面はヘラミガキのちヨコナデを施す。口縁部の外面はハケナデとヘラミガキのちヨコナデを施す。杯部の外面はヘラケズリを施す。杯部の外面には黒斑がある。	10YR7/2にぶい黄橙色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
49 10	畦畔701	古式土師器 鉢	口径15.0 器高5.0	口縁部は２段に屈曲する。端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヘラミガキのちヨコナデを施す。体部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキを施す。外面下位はヘラケズリ、上位はヘラミガキを施す。	5YR6/8橙色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
W4 10	畦畔701	板状木製品	長さ31.5 幅16.0 厚み5.3	長方形の板状木製品。短辺端部に方形のくぼみが数箇所みられる。				
W5 10	畦畔701	アカ取り	長さ29.0 幅9.0 厚み2.6	一木から刳り貫き加工している。塵取りに似た形の木製品である。				
50	１層	土師器 甑？		把手は外上方に伸びる。端部は面を形成する。体部の内面はユビナデ。外面はハケナデを施す。把手部はナデを施す。	5Y7/1灰白色	１～２㎜の砂粒を含む。	良好	
51	１層	須恵器 鉢	口径23.8	口縁部は外上方にやや内湾して伸びる。端部は面を形成する。口縁部の内外面は回転ナデを施す。	N6/0灰色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
52	１層	朝顔形円筒 埴輪		タガの断面は台形である。内面はユビナデ、外面はヨコハケを施す。タガ部はヨコナデを施す。	7.5YR6/8橙色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
53	１層	円筒埴輪		タガの断面は台形である。内面はユビナデ、外面はヨコハケを施す。タガ部はヨコナデを施す。	7.5YR7/8黄橙色	１～３㎜の砂粒を含む。	良好	
54	２層	土師器 二重口縁壺	口径16.4	口縁部は２段に屈曲し外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	10YR8/8黄橙色	１～４㎜の砂粒を含む。	良好	
55	２層	須恵器 杯身	口径11.0 器高5.2	底部は平らである。口縁部は内湾する。端部は丸く終わる。口縁部、受部、体部の内面は回転ナデを施す。体部の外面上位は回転ナデ、下位は回転ヘラケズリを施す。	5B6/1青灰色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
56	２層	埴輪 円筒埴輪		タガの断面は台形である。内面は左上がりのハケナデ、外面はヨコナデを施す。タガ部はヨコナデを施す。	10YR8/3浅黄橙色	１㎜の砂粒を含む。	良好	
57	４層	古式土師器 高杯	裾径8.7	脚部は「ハ」の字に外下方へ伸びる。裾部は脚部から折れ曲がりひらく。端部は面を形成する。脚部の内面はユビナデを施し、しぼり目がある。外面は縦方向のヘラミガキを施す。裾部の内外面はユビナデを施す。	10YR7/8黄橙色	１～２㎜の砂粒を含む。	良好	

第３章　まとめ

古墳時代前期（布留式古相以前、古相～中相、新相）

古墳時代前期の遺構には、１・２区で検出した河川（ＮＲ401）がある。ＮＲ401は南東－北西方向にほぼ直線に流れており、古墳時代中期前半に埋没した。ＮＲ401は西側の研究会第28次調査地のＮＲ201・ＮＲ202（原田他2004）につながり、さらに西の寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査で検出した05421流路（亀井他2007）ともつながる河川である。このことは研究会第28次調査報告書の第40図（原田他2004）および研究会第23次調査報告書の第181図（原田他2006）に掲載しており、同河川付近における集落の分布を復元しているので参照されたい。また、ＮＲ401とほぼ同時期の遺構には南西部の研究会第24次調査地３～４調査区で検出した河川ＮＲ31001がある（原田他2001）。ＮＲ31001はＮＲ401より上流に存在しており、ＮＲ31001からの分流であった可能性が高いと考えられる。

ＮＲ401以前では、２区の下層確認トレンチ№.６で布留式新相に比定できる河川（ＮＲ601・ＮＲ501）を、その下層で布留式古～中相に比定できる畦畔701、さらに布留式古相以前の溝を検出した。

畦畔701は、研究会第24次調査の第４面で捉えた水田遺構の畦畔40001（原田他2001）につながる同一の遺構であると思われる。また、畦畔701の下面で検出した溝は、周囲の調査状況から、畑作に関連した畝溝であった可能性がある。これらのことから布留式古相～新相までは本調査地周辺には生産域が存在していたと推測できる。

古墳時代中期

古墳時代中期の遺構は１区の南部と２区の東部で検出した。これらの遺構はＮＲ401が埋没した後の自然堤防上に構築されている。特に１区で検出したＳＥ301は５世紀中ごろに比定できる。

同時期の遺構には研究会第24次調査地の２調査区の土坑ＳＫ31009、３調査区の溝ＳＤ31036、ＳＤ31037などが挙げられる（原田他2001）。また、北の大阪竜華都市拠点土地区画整理事業（都市機能更新事業）に伴う発掘調査でも古墳時代中期面：第２－２面で土坑ＳＫ092を検出している（西村2003）ことから、本調査地付近一帯に居住域があった可能性が考えられる。

飛鳥～平安時代

飛鳥時代には南北方向に直線に伸びる溝（ＳＤ201）を１区の南西部と２区の東部で検出した。この溝は南側の第24次調査地の２調査区で検出したＳＤ31014と同一の遺構と思われる。ＳＤ31014は古墳時代中期中葉～後期中葉の遺物が出土しており、後期中葉には埋没したと推測されている（原田他2001）。しかし、今回の調査では飛鳥時代の遺物が出土していることから、同遺構は古墳時代中期に構築され、飛鳥時代に埋没したと推測される。

飛鳥時代の遺構には、研究会第28次調査の１調査区で検出したＳＫ102がある。同遺構からは飛鳥時代中期の土師器杯や須恵器杯蓋および、奈良時代前半の須恵器台杯長頸壺が出土し、飛鳥時代中期（７世紀後半）～奈良時代前期（８世紀前半）まで遺構は存続していたと考えられている（原田他2004）。

これらから、飛鳥時代中期（７世紀後半）～奈良時代前期（８世紀前半）の居住域は第28次調査地の東側に存在していたと考えられる。

平安時代の遺構には１区の北東部で検出したＳＫ206、２区の西部で検出したＳＤ213がある。ＳＤ213は研究会第24次調査の１調査区で検出した溝ＳＤ21001(原田他2001)につながり、さらに、西の大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査の104河川(西村2004)につながる同一の遺構である。

本調査地に近接して存在する同時代の遺構には、研究会第24次調査３調査区で検出した井戸ＳＥ21002(平安時代前期後半　９世紀末～10世紀初頭)、井戸ＳＥ21003(平安時代前期　８世紀末～９世紀初頭)、１調査区で検出した掘立柱建物ＳＢ22001(平安時代後期以前)(原田他2001)および、研究会第28次調査の土坑ＳＫ105(平安Ⅱ期古　９世紀第１四半期～第３四半期)、土坑ＳＫ106(平安Ⅳ期古　11世紀後半)などが挙げられる(原田他2004)。また、大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査でも古墳時代後期～古代面：第２－１面でＳＫ088(８世紀初頭と11世紀の遺物が出土)を検出している(西村2003)。さらに、研究会第23次調査15調査区で検出した土坑ＳＫ201(平安時代中期　11世紀前半)、16調査区の土坑ＳＫ203(平安時代Ⅰ期　８世紀末～９世紀初頭)などもある(原田他2006)。

各遺構の検出状況は疎らで、時期幅があるが、上記した遺構は比較的近接して存在していることから、平安時代の居住域は本調査地付近一帯に存在していたと推測される。

中世～近代

本調査地においては島畠や水田が広がっていた。検出した島畠は３～４層に、水田も２～３層に分けることが可能で、各層の上面は耕作に伴い攪拌を受けている。

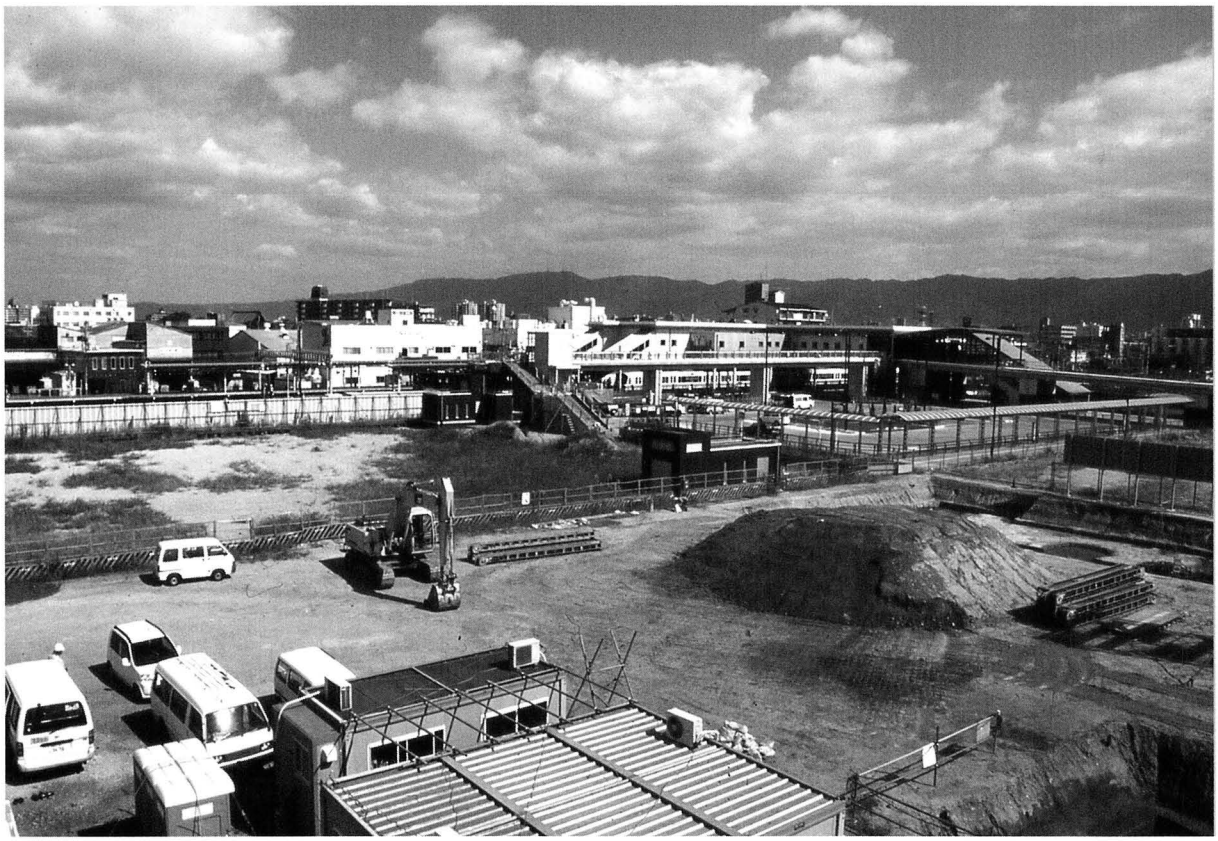
２区では、井戸、土坑、溝を検出した。この内、井戸と土坑は、ほとんどが東部で検出している。井戸は水田や島畠に供給する灌漑用であった可能性が考えられる。

参考文献

・西村　歩他　2003『八尾市亀井地内所在　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅴ』-大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書　第103集　(財)大阪府文化財センター
・原田昌則他　2001『久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線３工区の掘削工事に伴う-』(財)八尾市文化財調査研究会報告69　(財)八尾市文化財調査研究会
・原田昌則他　2004「Ⅰ　久宝寺遺跡(第28次調査)」『久宝寺遺跡　(財)八尾市文化財調査研究会報告77』(財)八尾市文化財調査研究会
・西村　歩他　2004『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書　第118集　(財)大阪府文化財センター
・原田昌則他　2006「Ⅰ　久宝寺遺跡(第23次調査)」『久宝寺遺跡　(財)八尾市文化財調査研究会報告89』　(財)八尾市文化財調査研究会
・亀井　聡他　2007『八尾市　久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅷ－寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他－』　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第156集　財団法人大阪府文化財センター
・坪田真一他　2008「３.久宝寺遺跡第70次調査(KH2006-70)」『平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

図　版

図版1



調査地周辺（南西から）【中央はＪＲ久宝寺駅　奥は生駒山地】

調査地周辺（東から）

１区　機械掘削（西から）

１区　調査状況（南西から）

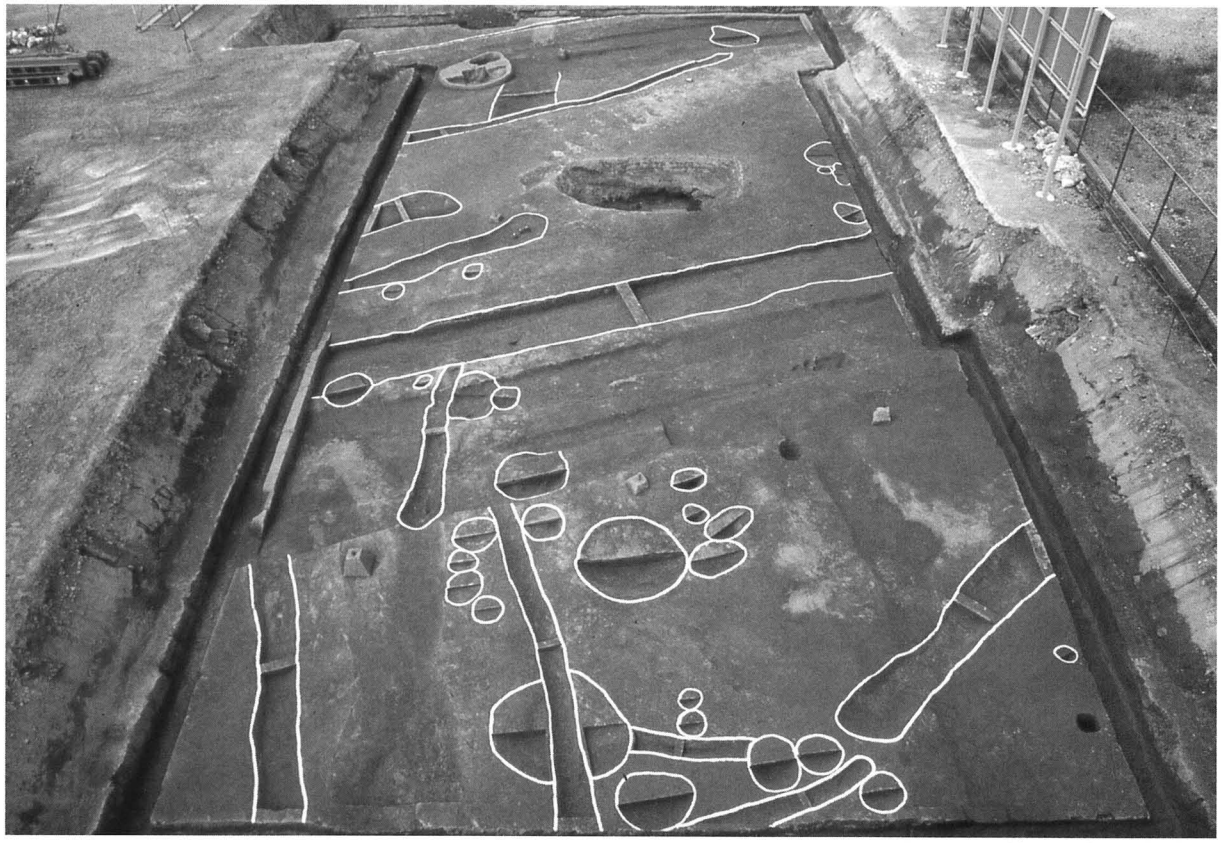
２区　調査状況（南西から）

図版2

1区　第1面全景(南から)

1区　第2面全景(南から)

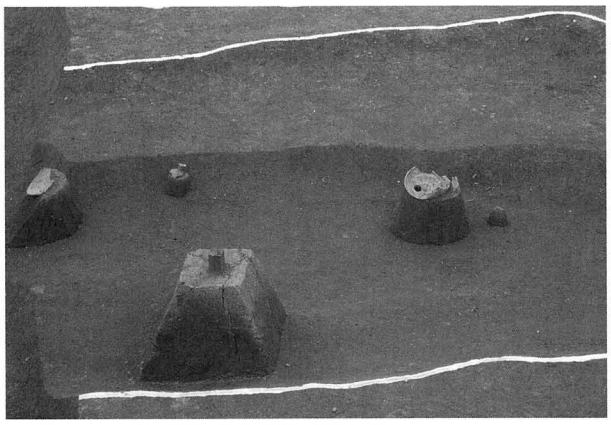
図版3



1区　第3面全景（南から）

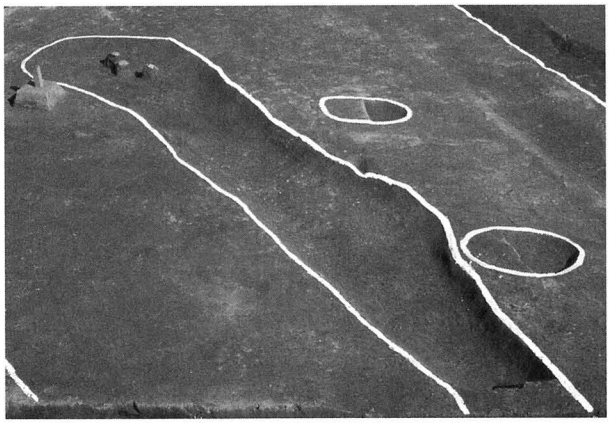
1区　第4面全景（南から）

図版4

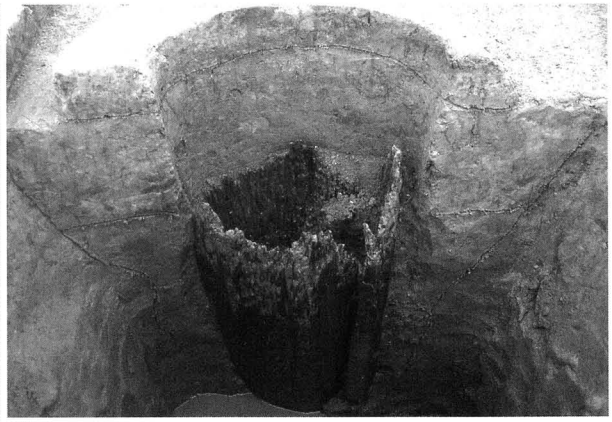


1区　ＳＤ201遺物出土状況（西から）

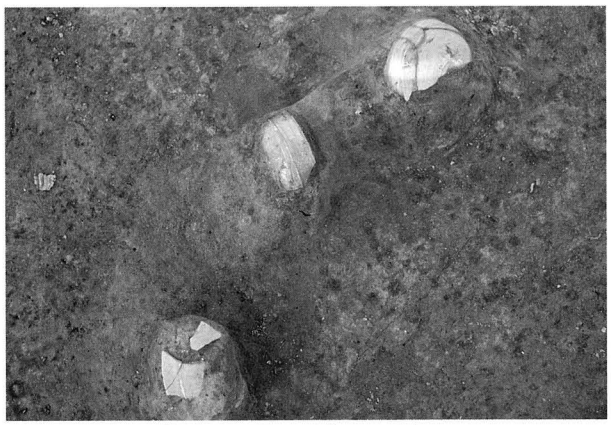
1区　ＳＥ301遺物出土状況（南から）



1区　ＳＤ308（西から）

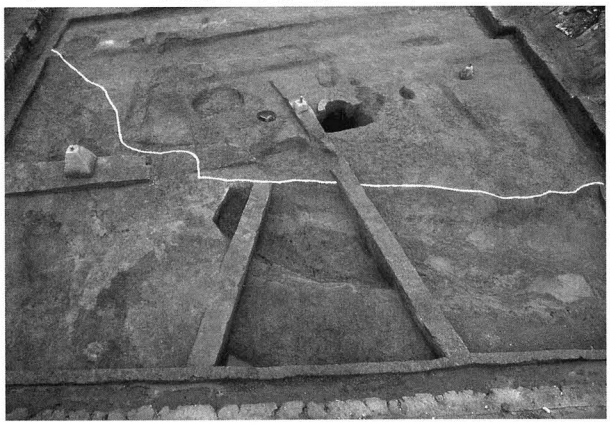


1区　ＳＥ301（南から）



1区　ＳＤ308遺物出土状況（南西から）

1区　ＳＥ301井戸枠検出状況（南から）



1区　ＮＲ401（南から）

1区　ＳＥ301調査状況（南西から）

図版5

2区　第1面全景(西から)

2区　第2面全景(西から)

図版6

２区　第３面全景（西から）

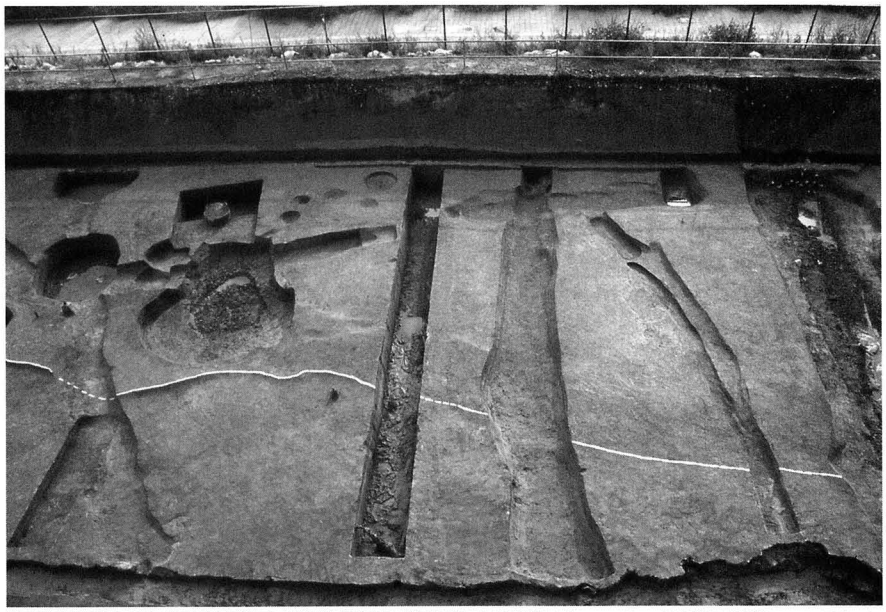
２区　第４面全景（西から）

２区　ＳＤ201（北から）

２区　ＳＤ201
遺物出土状況（北から）

２区　ＳＤ201
調査状況（南から）

図版8



２区　ＮＲ401（北から）

２区　下層トレンチ№.６
畦畔701検出状況（南から）

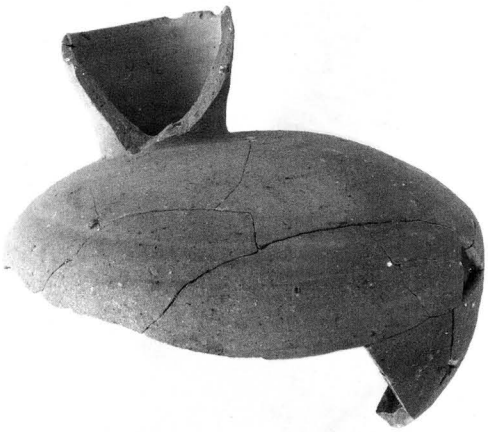
２区　下層トレンチ№.６
畦畔701遺物出土状況（北から）

9

10

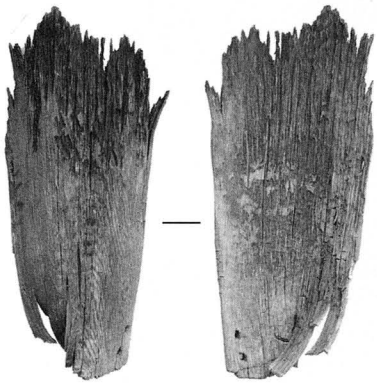
11

12

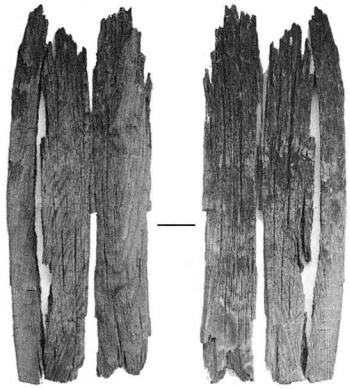


8

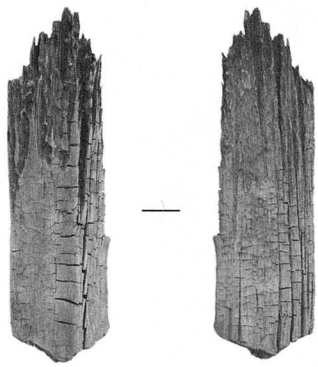
13



W1



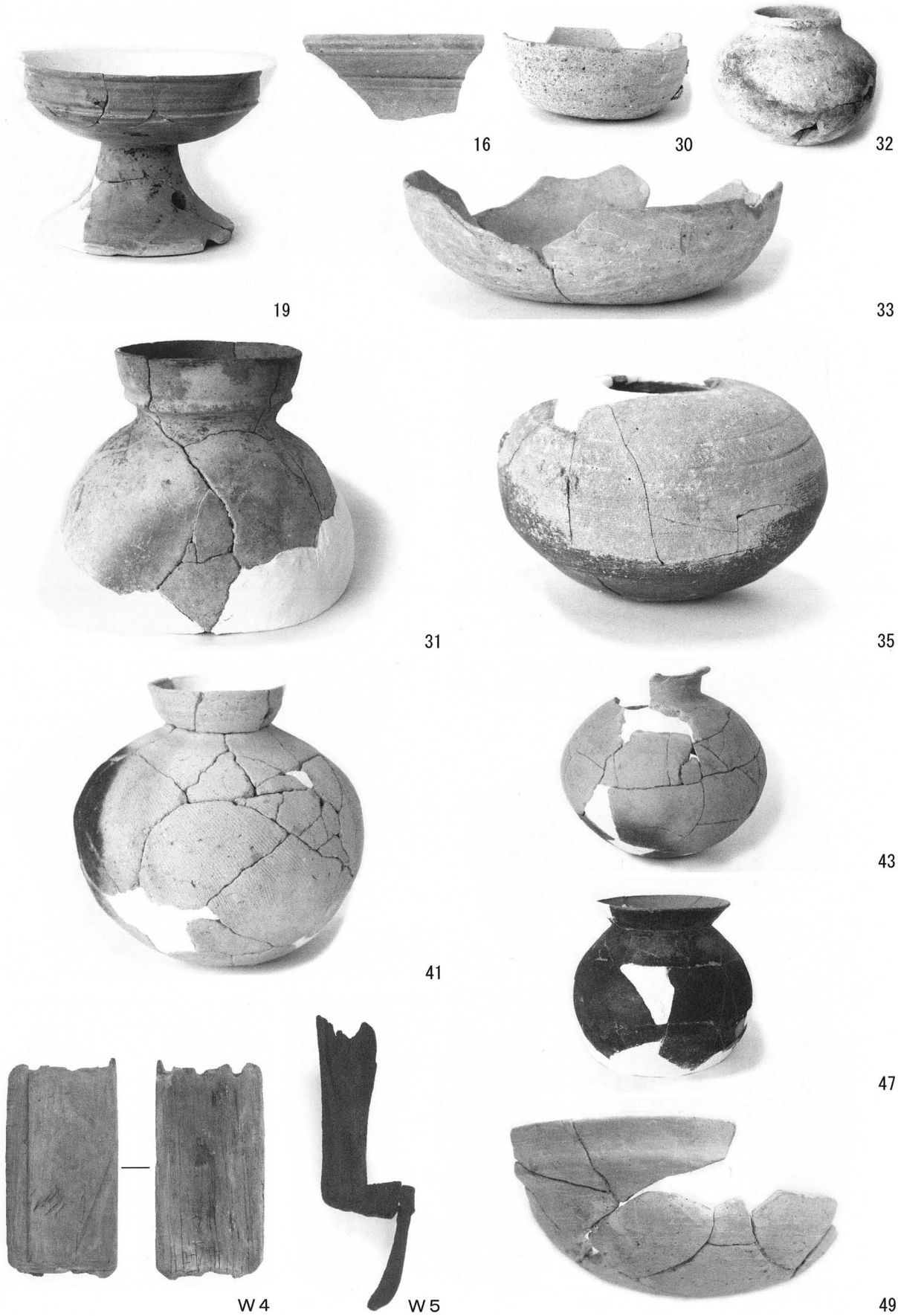
W2



W3

1区ＳＤ201(8)、ＳＥ301(9～13 Ｗ1～Ｗ3)出土遺物

図版10



１区ＳＫ304(16)、ＳＤ308(19)、２層(30)、３層(31)、２区ＳＤ122(32)、ＳＤ201(33・35)、ＮＲ401(41)、畦畔701(43・47・49・Ｗ４・Ｗ５)出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	きゅうほうじいせき　ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく122
書　　名	久宝寺遺跡　　財団法人　八尾市文化財調査研究会報告122
副 書 名	Ⅰ久宝寺遺跡（第13次調査）　Ⅱ久宝寺遺跡（第14次調査）　Ⅲ久宝寺遺跡（第18次調査）　Ⅳ　久宝寺遺跡（第27次調査）　Ⅴ　久宝寺遺跡（第59次調査）
巻　　次	
シリーズ名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	122
編集者名	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ西村公助　Ⅱ・Ⅲ坪田真一
編集機関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所 在 地	〒581－0821　大阪府八尾市幸町四丁目58－２　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 （第13次調査）	おおさかふやおしじんむちょう 大阪府八尾市神武町	27212	23	34度37分33秒	135度34分47秒	19911216～19920123	500	設計棟他建設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 （第14次調査）	おおさかふやおしじんむちょう 大阪府八尾市神武町 おおさかしひらのくかみひがし 大阪市平野区加美東７丁目	27212	23	34度37分34秒	135度34分34秒	19920526～0810	660	店舗付共同住宅建設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 （第18次調査）	おおさかふやおしじんむちょう 大阪府八尾市神武町	27212	23	34度37分32秒	135度34分42秒	19940901～1012	810	配送センター建築
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 （第27次調査）	おおさかふやおしかめいちょう 大阪府八尾市亀井町３丁目	27212	23	34度37分25秒	135度34分35秒	19990517～0721	485	排水処理場・工業用水槽等建設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 （第59次調査）	おおさかふやおしおおあざかめい 大阪府八尾市大字亀井	27212	23	34度37分17秒	135度34分59秒	20040805～1130	1539	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
久宝寺遺跡 （第13次調査）	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前期 奈良～平安時代 鎌倉時代 近世	竪穴住居　井戸　土坑　小穴　溝 井戸　土坑　溝　河川 溝 溝 井戸	古式土師器　石器 古式土師器　木製品 土師器　須恵器　瓦器 土師器　須恵器　瓦器 陶磁器	黒漆を塗った環形付木製品が出土した。
久宝寺遺跡 （第14次調査）	集落	弥生時代後期末～古墳時代前期 古墳時代前期 飛鳥～奈良時代	竪穴住居　掘立柱建物　井戸　土坑　溝　ピット 竪穴住居　井戸　土坑　溝　ピット 掘立柱建物　溝　ピット	古式土師器 古式土師器 須恵器	
久宝寺遺跡 （第18次調査）	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前期	竪穴住居　井戸　土坑　溝　ピット 溝	古式土師器	朝鮮半島に類例がある台脚付短頸壺や把手付鉢が出土。
久宝寺遺跡 （第27次調査）	集落	古墳時代初頭～前期	竪穴住居　土坑　小穴　溝	古式土師器	北陸系、山陰系、阿波系、讃岐系の土器が出土した。
久宝寺遺跡 （第59次調査）	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前期～中期 古墳時代中期 飛鳥～平安時代 中世～近世 近代	小穴　溝　畦畔　河川 河川 井戸　土坑　小穴　溝 土坑　小穴　溝 井戸　土坑　溝　島畠　水田 井戸　土坑	古式土師器 古式土師器 須恵器　土師器 須恵器　土師器　黒色土器	

要約	13次調査では、古墳時代前期の河川から多量の土器とともに黒漆を塗った環形付木製品が出土した。14次調査では、弥生時代後期末～古墳時代前期にかけての住居を確認した。18次調査では、古墳時代前期の土坑および溝から台脚付短頸壺・把手付鉢が出土した。これらの土器は朝鮮半島産の土器の特徴と類似し、同半島との交流を物語るものである。27次調査では、古墳時代前期の遺構から北陸系、山陰系、阿波系、讃岐系など他地域から搬入された土器が出土した。59次調査では飛鳥時代および古墳時代中期の遺構を確認し、居住域の存在が判明した。

財団法人八尾市文化財調査研究会報告122

久宝寺遺跡

Ⅰ　久宝寺遺跡（第13次調査）
Ⅱ　久宝寺遺跡（第14次調査）
Ⅲ　久宝寺遺跡（第18次調査）
Ⅳ　久宝寺遺跡（第27次調査）
Ⅴ　久宝寺遺跡（第59次調査）

発　行　　平成21年3月
編　集　　財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の２
TEL・FAX（072）994－4700
印　刷　　株式会社 熨斗秀興堂
〒577－0827
東大阪市衣摺５丁目20－10
TEL 06（6727）1166
表紙　レザック66　＜260kg＞
本文　ニューエイジ　＜70kg＞
図版　マットアート　＜110kg＞

032